

京都市
男女共同参画に関するアンケート
結果報告書

平成 22 年 3 月

京都市

はじめに

本市では、平成19年3月に「きょうと男女共同参画推進プラン」を改定し、「男女が、等しく個人として尊重され、性別によらない多様な生き方が保障されるとともに、あらゆる場において、共に責任を担いつつ個性と能力を発揮することができる社会」の実現に向けたさまざまな施策を積極的に推進してまいりました。

この間、男女雇用機会均等法や労働基準法の改正、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」に関する取組の推進など、法律や制度上の男女平等は達成されつつありますが、人々の意識の中には男女の能力や役割に対する固定的な考え方が残っているなど、現在も課題が残されています。

少子長寿化の進行、経済・雇用環境などの急速な変化の中、男女が互いに人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を十分に発揮できる社会を実現することは、ますます重要となっています。

こうした状況を踏まえ、本市では、男女共同参画を一層推進するため、平成23年度からの新たな計画を策定することとしました。その一環として、このたび男女共同参画に関する市民の皆さまの日常生活の状況等を的確に把握することを目的として、「男女共同参画に関するアンケート」を実施致しました。

この調査報告書は、本市における今後の施策展開の基礎資料となるものです。関係機関、団体等をはじめ市民の皆さまにも広く御活用いただき、男女共同参画社会の実現への一助となれば幸いに存じます。

最後になりましたが、この調査の実施に当たり御協力をいただきました多くの皆さまに厚くお礼申し上げます。

【 目 次 】

第1章 調査概要.....	1
1 調査目的.....	1
2 調査方法.....	1
3 調査内容.....	1
4 回収結果.....	1
5 調査結果報告書の見方.....	2
第2章 調査結果の概要.....	3
第3章 調査結果.....	9
I 回答者の属性.....	9
1-1 性別.....	9
1-2 年齢.....	10
1-3 地域.....	11
1-4 世帯構成.....	14
1-5 回答者自身の収入.....	16
1-6 配偶者の就労状況.....	20
1-7 世帯の収入.....	22
1-8 子どもの有無.....	25
1-9 末子の年齢.....	26
II 男女共同参画に関わる社会の動きについて.....	28
2-1 男女共同参画推進についての考え方.....	28
2-2 各分野での平等感.....	30
2-3 「男は仕事、女は家事・育児」という考え方について（性別役割分担意識）.....	40
2-4 子どもに身につけさせたい能力.....	42
2-5 女性の人権が尊重されていないと思うこと.....	47
2-6 政策・方針決定における男女平等な参画について.....	50
2-7 用語の認知度.....	53
2-8 男女共同参画社会に期待すること.....	56
III 家庭生活や地域活動について.....	59
3-1 家庭での役割分担.....	59
3-2 家族の協力が必要なこと.....	64
3-3 地域活動への参加.....	67
3-4 自治会や町内会の活動の状況.....	72
3-5 自治会や町内会以外の活動への参加.....	74
3-6 男性の家事等への参加に必要なこと.....	76
3-7 女性の健康と権利について理解しあうために大切なこと.....	78
3-8 健康診断の受診状況.....	79

IV	仕事について.....	81
4-1	職業.....	81
4-2	労働状況.....	85
4-3	職場での待遇の男女差.....	89
4-4	セクシュアル・ハラスメントの経験・見聞き.....	92
4-5	セクシュアル・ハラスメントの内容.....	93
4-6	セクシュアル・ハラスメントを受けた際の対応.....	96
4-7	就労意向.....	98
4-8	希望する働き方.....	100
4-9	働き方を希望する理由.....	102
4-10	仕事につく上で困っていること・気になること.....	103
4-11	仕事につきたいと思わない理由.....	106
V	京都市の取組について.....	107
5-1	「ウイングス京都」の利用状況.....	107
5-2	「ウイングス京都」の事業で充実してほしいもの.....	109
5-3	京都市の取り組むべき施策.....	115
VI	自由記載意見.....	119
	使用した調査票.....	131

第1章 調査概要

1 調査目的

「きょうと男女共同参画推進プラン（平成14～22年度 19年度からは改定版）」を見直し、平成23年度からの新たなプランを策定するに当たり、市民生活や社会経済の変化や影響を検証するとともに、男女共同参画に関する市民の意識や日常生活の状況等を把握し、京都市が取り組むべき課題と今後の施策の方向性を明らかにすることを目的として実施したものである。

2 調査方法

(1) 調査対象者

市内在住の満20歳以上の男女3,000人

(2) 抽出方法

住民基本台帳登録者及び外国人登録者から、行政区別・年齢層別・性別人口割合に応じた無作為抽出（平成21年5月1日現在）

(3) 調査方法

郵送法による調査（はがきによる督促を調査期間中に1回実施）

(4) 調査期間

平成21年5月29日～平成21年6月15日

3 調査内容

(1) 回答者の属性（A～I）

(2) 男女共同参画に関わる社会の動きについて（問1～問8）

(3) 家庭生活や地域活動について（問9～問16）

(4) 仕事について（問17～問25）

(5) 京都市の取組について（問26～問28）

4 回収結果

有効回答数（有効回答率） 1,273人（42.4%）

（内訳） 男性 515人、女性 745人、不明 13人

性・年齢		標本数	有効回答数 (率)	性・年齢		標本数	有効回答数 (率)
男性	20歳代	228	47 (20.6%)	女性	20歳代	232	71 (30.6%)
	30歳代	269	69 (25.7%)		30歳代	283	126 (44.5%)
	40歳代	231	87 (37.7%)		40歳代	229	116 (50.7%)
	50歳代	217	84 (38.7%)		50歳代	227	111 (48.9%)
	60歳代	241	115 (47.7%)		60歳代	270	171 (63.3%)
	70歳代以上	223	113 (50.7%)		70歳代以上	350	149 (42.6%)
	無回答	—	0 (—)		無回答	—	1 (—)
	計	1,409	515 (36.6%)		計	1,591	745 (46.8%)

5 調査結果報告書の見方

本報告書では、数値等を以下のように取り扱っている。

- ① アンケートへの回答は、「単一回答（1つだけ選択する回答）」と「複数回答（回答する項目全てを選択する回答）」とがあり、複数回答の場合は「(複数回答)」と表記している。
- ② 調査結果の数値は、原則としてパーセント（%）で表記しており、%値の母数は、その設問項目の該当標本数（回答すべき人の数）であり、「N」と表記している。
- ③ %値は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記している。従って、単数回答の合計が必ずしも100%とならない場合がある。
同様に、複数の選択肢をあわせた場合や小計などでは、内訳の%値を単純加算した数値とは異なる場合がある。
- ④ 図表では、選択肢の言葉や文章を省略形にしている場合がある。

「前回調査」及び「内閣府調査」

本調査では、「前回調査」及び「内閣府調査」との比較を行っている部分がある。
(調査の詳細は以下のとおりである。)

【前回調査】

「男女共同参画に関するアンケート」

調査実施：京都市

標本数：市内に居住する満20歳以上の男女3,000人

調査時期：平成17年（2005年）7月1日～7月12日

有効回答数：1,023人

有効回答率：34.1%

調査方法：郵送法

【内閣府調査】

「男女共同参画社会に関する世論調査」

調査実施：内閣府（男女共同参画局）

標本数：全国20歳以上の者5,000人

調査時期：平成21年10月1日～10月18日

有効回答数：3,240人

有効回答率：64.8%

調査方法：調査員による個別面接聴取

第2章 調査結果の概要

1 男女共同参画に関わる社会の動きについて

問1 男女共同参画推進についての考え方（P28～29）

全体の約4分の3が賛成、前回より増加

男女共同参画を推進していくことについては、「賛成」が51.7%と最も多く、「どちらかといえば賛成」(24.4%)と合わせると賛成が76.1%で、男女共に高い。

前回と比較すると、「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計が前回(70.7%)よりも5.4ポイント多くなっている。

問2 各分野での平等感（P30～39）

- ・最も男性が優遇されていると感じられているのは「賃金や昇進」
- ・「学校教育」では「平等である」が約7割
- ・男女の意識の差が大きいのは「家庭生活」「法律や制度」「政治・経済活動への参加」
- ・前回よりすべての分野で平等感が増加するも、「雇用の機会（募集・採用）」や「賃金や昇進」で、男性が優遇されているという感が男女共に増加

最も男性が優遇されていると感じられているのは「賃金や昇進」で80.7%である。

「学校教育」は、68.1%（男性70.7%、女性66.7%）が「平等である」と回答している。

いずれの項目においても男性優遇と回答するのは女性が男性に比べて多い。また、特に男女の意識の差が大きいのは「家庭生活」(20.0ポイント差)、「法律や制度」(19.9ポイント差)、「政治・経済活動への参加」(17.3ポイント差)である。

前回と比較すると、すべての分野で「平等である」と回答する人が増加している。また、男女共に「雇用の機会（募集・採用）」(男性8.7ポイント、女性9.5ポイント増)や「賃金や昇進」(男性7.0ポイント、女性8.8ポイント増)で男性優遇と回答する人が増加している。

問3 「男は仕事、女は家事・育児」という考え方について（性別役割分担意識）（P40～41）

- ・「男は仕事、女は家事・育児」という考え方については、賛成が反対をわずかに上回る
- ・賛成が男女共に前回より減少

「男は仕事、女は家事・育児」という考え方については、賛成（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計）が48.9%、反対（「反対」と「どちらかといえば反対」の合計）が47.0%となっており、賛成がわずかに上回っている。

賛成について前回と比較すると、男性が3.2ポイント、女性が0.4ポイント減少している。

問4 子どもに身につけさせたい能力（P42～46）

- ・男子・女子共に「礼儀作法」「おもいやり」
- ・男子で多いのは「実行力」「たくましさ」、女子で多いのは「家事能力」「やさしさ」など

子どもに身につけさせたい能力は「礼儀作法」が最も多く（男子49.7%、女子60.6%）、次いで「おもいやり」（男子44.5%、女子55.7%）である。

一方、男子で女子に比べて多いのは「実行力」(17.8ポイント差)「たくましさ」(17.0ポイント差)、女子で男子に比べて多いのは「家事能力」(25.2ポイント差)「やさしさ」(28.2ポイント差)などである。

問5 女性の人権が尊重されていないと思うこと (P47~49)

「痴漢行為や強制わいせつ等の性犯罪」「募集・採用や昇進・昇給における性別による差別的な取扱い」「夫婦や恋人等のパートナー間での暴力」が多い

女性の人権が尊重されていないと思うのは「痴漢行為や強制わいせつ等の性犯罪」が59.8%と最も多く、次いで「募集・採用や昇進・昇給における性別による差別的な取扱い」(56.6%)、「夫婦や恋人等のパートナー間での暴力」(51.6%)となっている。

問6 政策・方針決定における男女平等な参画について (P50~52)

- ・「女性自らが政策・方針を決定する場に参画することに関心や積極性を持つ」「家事や子育てなど家庭内での責任を男女がバランスよく分かちあう」が多い
- ・「家事や子育てなど家庭内での責任を男女がバランスよく分かちあう」が前回より増加

政策・方針を決定する場に男女が平等に参画していくために必要なことは「女性自らが政策・方針を決定する場に参画することに関心や積極性を持つ」が43.1%と最も多く、次いで「家事や子育てなど家庭内での責任を男女がバランスよく分かちあう」で42.3%である。

男性では「女性自らが政策・方針を決定する場に参画することに関心や積極性を持つ」が44.5%と最も多く、女性では「家事や子育てなど家庭内での責任を男女がバランスよく分かちあう」が44.8%と最も多い。

前回と比較すると、「家事や子育てなど家庭内での責任を男女がバランスよく分かちあう」が男性で12.8ポイント、女性で5.5ポイント増加している。

問7 用語の認知度 (P53~55)

「男女共同参画社会基本法」「京都市男女共同参画推進条例」の認知度が低い

用語の認知度について、「男女共同参画社会基本法」「京都市男女共同参画推進条例」は「知らない」が50%を超えており、認知度が低い。

問8 男女共同参画社会に期待すること (P56~58)

「家庭生活において男女がともに家事や子育てに参加できる」が最多

男女共同参画社会に期待することは「家庭生活において男女がともに家事や子育てに参加できる」が43.1%と最も多い。

2 家庭生活や地域活動について

問9 家庭での役割分担 (P59~63)

- ・「食事」に関する分野は主に女性が担当
- ・「家庭の管理と運営」に関する分野は「高額な家財道具の購入」「住宅の購入」以外は女性が中心
- ・「子どもと介護の必要な高齢者・障害者」に関する分野では、「子どもの教育方針」を除き、男性が担当する部分は非常に少ない

「食事」に関する分野については、男性では、「配偶者」が5割弱~6割と最も多く、次いで「自分」が「配偶者」の2分の1以下となっている。女性では「自分」が全体の約7割を占め、次いで「その他の家族」(9.5%)となっていて、「自分」以外の全ての項目の回答率は1割未満となっている。

「家庭の管理と運営」に関する分野については、「高額な家財道具の購入」「住宅の購入」「預貯金等の資産の運用」は、男性では、「自分」と回答した人が全体の約3割と最も多い。女性では、「高額な家財道具の購入」や「住宅の購入」では「自分と配偶者が同じくらい」が最も多くなっている。

「高齢者・障害者の実際の介護」については、男性では「育児」「子どもの日常的なしつけ」「高齢者・障害者の実際の介護」で「配偶者」が最も多く、「子どもとの遊び」「子どもの教育方針」では「自分と配偶者が同じくらい」が最も多い。女性では「子どもの教育方針」では「自分と配偶者が同じくらい」、それ以外では「自分」が多い。

問10 家族の協力が必要なこと（P64～66）

- ・「食事の仕度」「そうじ」「高齢者・障害者の実際の介護」が多い
- ・「高齢者・障害者の実際の介護」が前回より大きく増加

家族の協力が必要なこととしては、「特に必要ない」（33.0%）を除くと、「食事の仕度」が21.6%と最も多く、次いで「そうじ」（19.0%）、「高齢者・障害者の実際の介護」（18.3%）となっている。

前回と比較すると、「高齢者・障害者の実際の介護」が9.3%から18.3%に大きく増加している。

問11 地域活動への参加（P67～71）

- ・自治会・町内会の活動へは男女共に5割以上が参加
- ・PTAや子ども会の活動へは女性の参加が男性を上回る

地域活動への参加として、自治会・町内会の活動では「参加したことがある・現在参加している」が男女共に最も多い（男性55.5%、女性54.2%）。

PTAや子ども会の活動は「参加したことがない・今後は参加したい」が最も多い（男性38.8%、女性33.6%）。また、「参加したことがある・現在参加している」（男性21.7%、女性31.8%）となっており、男女の差が大きい。

問12 自治会や町内会の活動の状況（P72～73）

「お茶入れや食事の準備などは女性がしている」や「名簿上は男性が会員になっているが実際は女性（配偶者）が活動している」という事例が多い

自治会や町内会の活動の状況として、「お茶入れや食事の準備などは女性がしている」が64.3%と最も多く、次いで「名簿上は男性が会員になっているが実際は女性（配偶者）が活動している」（59.6%）である。

問13 自治会や町内会以外の活動への参加（P74～75）

参加経験者・参加希望者はいずれも前回調査より増加している

自治会や町内会以外の活動への参加は、いずれの活動（「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」「NPO（非営利団体）やボランティアの活動」「民生委員・市政協力委員など公的な立場での活動」）でも「参加したことがある・現在参加している」「参加したことがない・今後は参加したい」が共に増加している。

問 14 男性の家事等への参加に必要なこと (P76~77)

「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」「社会の中で、男性が家事などに参加することに対する評価を高める」が多い

男性の家事等への参加に必要なことについては、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」が41.2%と最も多く、次いで「社会の中で、男性が家事などに参加することに対する評価を高める」が40.5%である。

問 15 女性の健康と権利について理解しあうために大切なこと (P78)

「配偶者やパートナーとの話し合い」が最多

女性の健康と権利について、男女が理解し合うために大切だと思うことは、「配偶者やパートナーとの話し合い」が77.1%と最も多い。

問 16 健康診断の受診状況 (P79~80)

「毎年受診している」が過半数

健康診断の受診状況は、「毎年受診している」が57.3%と過半数である。

3 職場環境について

問 17 職業 (P81~84)

男性では「正社員・正職員」、女性では「専業主婦・専業主夫」が最多

現在の職業については、男性は「正社員・正職員」(29.7%)、女性は「専業主婦・専業主夫」(26.3%)が最も多い。

問 18 労働状況 (P85~88)

・「5日」が最多、次いで「6日」
・男性の約3分の1、女性の約4分の1が週6日以上

1週間の平均労働日数は「5日」が男性50.9%、女性49.5%、次いで「6日」が男性28.2%、女性23.4%となっている。6日以上の人が男性で37.4%、女性で26.6%となっている。

・「40時間以上50時間未満」が最多
・次いで男性では「50時間以上60時間未満」「60時間以上」が多く(同率)、女性では「30時間以上40時間未満」が多い

1週間の平均労働時間は「40時間以上50時間未満」が32.2%と最も多く、次いで「30時間以上40時間未満」(14.5%)となっている。

男女共に「40時間以上50時間未満」(男性37.1%、女性27.7%)が最も多いが、次いで男性では「50時間以上60時間未満」「60時間以上」(共に17.8%)、女性では「30時間以上40時間未満」(18.6%)となっている。

問 19 職場での待遇の男女差 (P89~91)

「男女間に不当な差はない」が最多、次いで「男性は育児休業・介護休業が取りづらい」が多い

職場での待遇の男女差については、「男女間に不当な差はない」が48.6%と最も多く、次いで

「男性は育児休業・介護休業が取りづらい」(29.1%)、「募集・採用時の差別がある」(17.5%)となっている。

問 20 セクシュアル・ハラスメントの経験・見聞き (P92~95)

経験・見聞きをしているのは約4割

セクシュアル・ハラスメントの経験・見聞きについては、「受けたことも見聞きしたこともない」が39.5%、次いで「見聞きしたことがある」が26.4%である。「受けたことがある」「見聞きしたことがある」「受けたことも見聞きしたこともある」の合計は40.9%である。

問 21 セクシュアル・ハラスメントを受けた際の対応 (P96~97)

「泣き寝入り」が最も多い

セクシュアル・ハラスメントを受けた際の対応については、「泣き寝入りした」が38.5%と最も多く、次いで「抗議して事態が改善した」(15.9%)となっている。

問 22 就労意向 (P98~99)

就労していない人のうち就労を希望する人は3割

収入を得る仕事につきたいかについては、「ぜひ、仕事につきたいと思う」は13.6%、「できれば、仕事につきたいと思う」は19.5%となっており、合計すると33.1%である。

問 23 希望する働き方及びその働き方を希望する理由 (P100~102)

- ・男性では「正社員・正職員として働きたい」が最多
- ・女性では「パート・アルバイト・契約社員として働きたい」が最多

希望する働き方については、男性では「正社員・正職員として働きたい」(41.5%)、女性では「パート・アルバイト・契約社員として働きたい」(53.7%)が最も多い。

男性では「生計を維持するため」、女性では「家計の足しにするため」がそれぞれ最多

働き方を希望する理由は、男性では「生計を維持するため」(45.3%)、女性では「家計の足しにするため」(33.3%)が最も多い。

問 24 仕事につく上で困っていること・気になること (P103~105)

- ・「勤務時間や雇用形態が自分の希望と合うかどうか」が最多、次いで「自分の能力や体力、健康状態」
- ・前回よりも大きく増加しているのは、「給料・賃金が自分の希望と合うかどうか」「勤務時間や雇用形態が自分の希望と合うかどうか」「自分の資格、能力、適性にあった仕事の募集・採用があるかどうか」「自分の能力や体力、健康状態」

仕事につくうえで困っていること、気になることとしては、「勤務時間や雇用形態が自分の希望と合うかどうか」が58.9%、「自分の能力や体力、健康状態」が54.0%となっている。

前回よりも大きく増加しているのは、「給料・賃金が自分の希望と合うかどうか」(24.7ポイント増)、「勤務時間や雇用形態が自分の希望と合うかどうか」(23.9ポイント増)、「自分の資格、能力、適性にあった仕事の募集・採用があるかどうか」(28.0ポイント増)「自分の能力や体力、健康状態」(26.7ポイント増)である。

問 25 仕事につきたいと思わない理由 (P106)

「高齢だから」が最多, 次いで「気力, 体力に自信がないから」

仕事につきたいと思わない理由をみると, 「高齢だから」が 62.4%と最も多く, 次いで「気力, 体力に自信がないから」(34.2%) となっている。

4 京都市の取組について

問 26 「ウイングス京都」の利用状況 (P107~108)

「ウイングス京都」の利用状況は横ばいとなっている

「ウイングス京都」の利用状況については, 利用経験のある人(「毎週1回以上利用している」「月に1~3回程度利用している」「年に数回利用している」「今まで何回か利用したことがある」の合計)は前回は 15.4%, 今回が 15.6%となっており, 横ばいとなっている。

問 27 「ウイングス京都」の事業で充実してほしいもの (P109~114)

男女共に「職業訓練や職業情報の提供などの『就業支援』」が最多, 次いで「『こことからの健康づくり』を進める運動実技やセミナー」

「ウイングス京都」の事業で充実してほしいものは, 「職業訓練や職業情報の提供などの『就業支援』」が 28.6%と最も多く, 男女別にみても同じ傾向となっている。次いで「『こことからの健康づくり』を進める運動実技やセミナー」(20.3%) となっている。

問 28 京都市の取り組むべき施策 (P115~118)

「『子育てや介護を社会的に支援』する施設・サービスを充実する」が最多, 次いで, 「『男性の育休取得』, 『短時間正社員制度』, 『ワーク・ライフ・バランス』などに積極的な企業を顕彰する」

京都市の取り組むべき施策については, 「『子育てや介護を社会的に支援』する施設・サービスを充実する」が 42.7%と最も多く, 次いで「『男性の育休取得』, 『短時間正社員制度』, 『ワーク・ライフ・バランス』などに積極的な企業を顕彰する」(28.9%) となっている。

第3章 調査結果

I 回答者の属性

1-1 性別

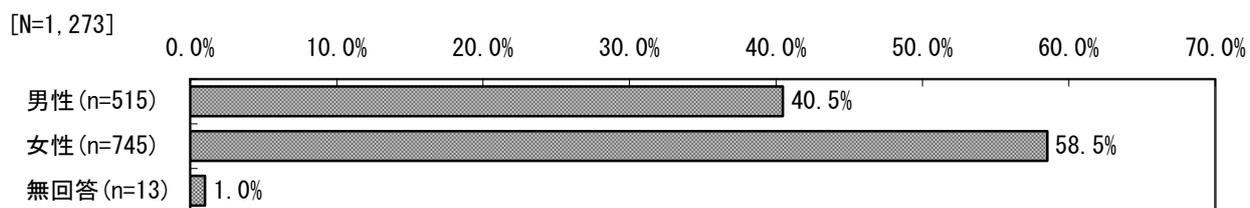
A あなたの性別はどちらですか。

1 男性

2 女性

性別をみると、「男性」が40.5%、「女性」が58.5%となっている。

図A 性別



1-2 年齢

B あなたの年齢（満年齢）はいくつですか。【1つに○】

- | | | | | | |
|---|------|---|------|---|--------|
| 1 | 20歳代 | 2 | 30歳代 | 3 | 40歳代 |
| 4 | 50歳代 | 5 | 60歳代 | 6 | 70歳代以上 |

年齢をみると、「60歳代」が22.5%で最も多く、次いで「70歳代以上」（20.6%）となっている。

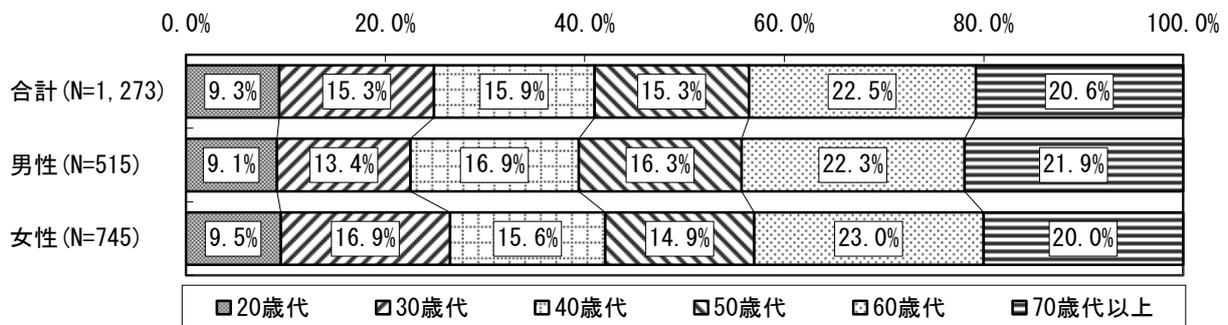
図B-1 年齢

[N=1,273]



性別の年齢では、男女とも大きな差異はみられず、「60歳代」が最も多く、次いで「70歳代以上」となっている。

図B-2 性別 年齢



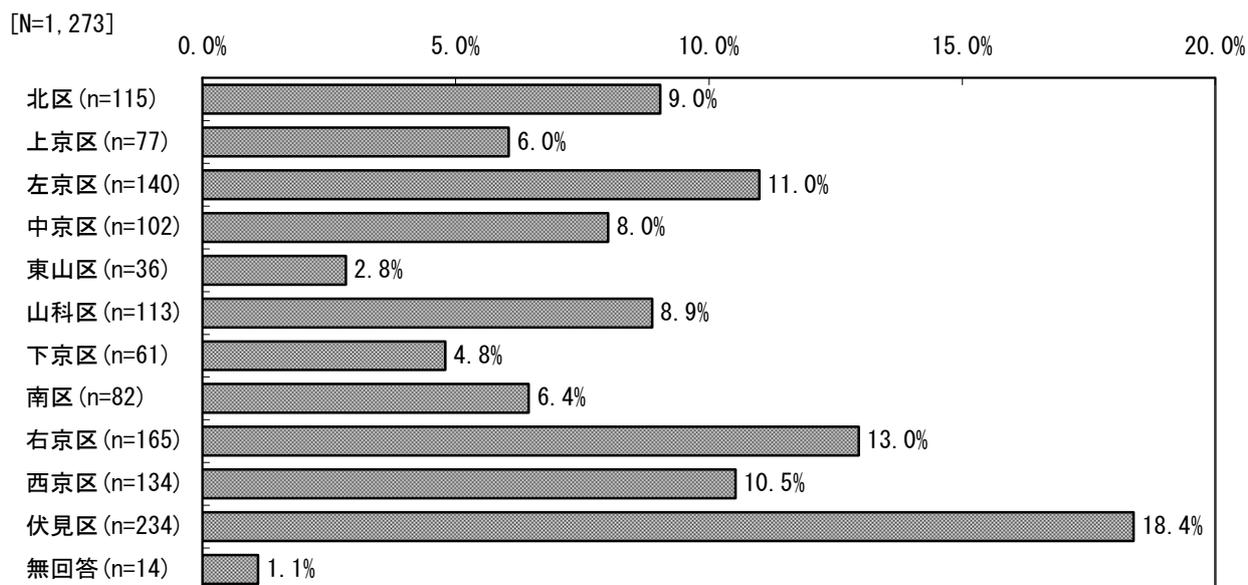
1-3 地域

C あなたのお住まいの地域（行政区）はどちらですか。【1つに〇】

- | | | | |
|-------|--------|--------|-------|
| 1 北区 | 2 上京区 | 3 左京区 | 4 中京区 |
| 5 東山区 | 6 山科区 | 7 下京区 | 8 南区 |
| 9 右京区 | 10 西京区 | 11 伏見区 | |

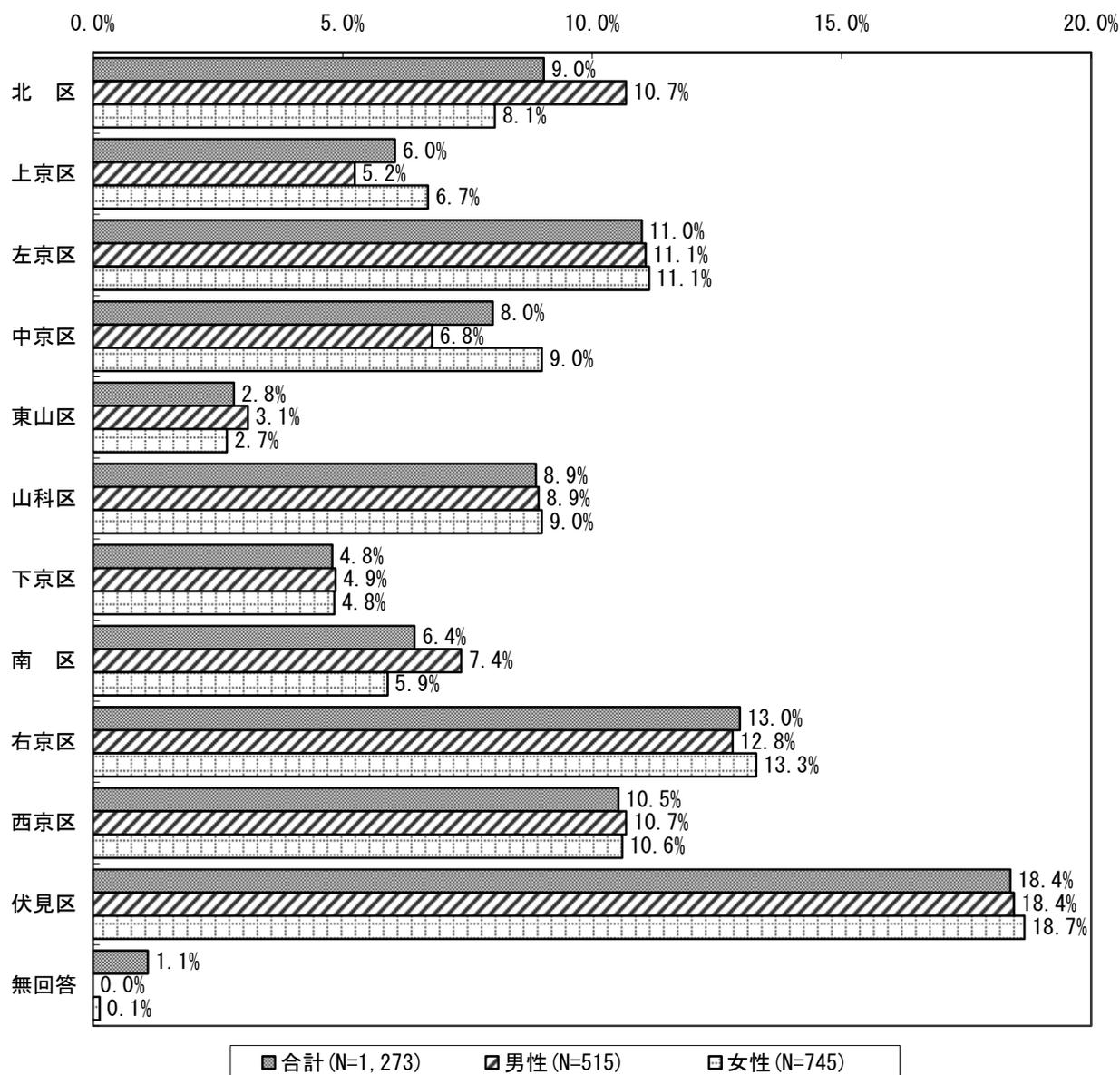
地域をみると、「伏見区」が 18.4%で最も多く、次いで「右京区」(13.0%)、「左京区」(11.0%)となっている。

図C-1 地域



性別での地域をみると、全体とほぼ同様の分布状況で、男女による大きな差異はみられなかったが、「北区」ではやや男性が多く、「中京区」では女性が多かった。

図C-2 性別 地域



表C 性別・年齢別 地域

	北区	上京区	左京区	中京区	東山区	山科区
男性(N=515)	10.7%	5.2%	11.1%	6.8%	3.1%	8.9%
男性・20歳代(N=47)	17.0%	6.4%	19.1%	2.1%	0.0%	4.3%
男性・30歳代(N=69)	8.7%	4.3%	11.6%	8.7%	4.3%	10.1%
男性・40歳代(N=87)	12.6%	2.3%	5.7%	8.0%	2.3%	8.0%
男性・50歳代(N=84)	11.9%	3.6%	15.5%	6.0%	4.8%	4.8%
男性・60歳代(N=115)	7.8%	6.1%	6.1%	5.2%	1.7%	13.9%
男性・70歳代以上(N=113)	9.7%	8.0%	13.3%	8.8%	4.4%	8.8%
女性(N=745)	8.1%	6.7%	11.1%	9.0%	2.7%	9.0%
女性・20歳代(N=71)	7.0%	1.4%	11.3%	14.1%	1.4%	11.3%
女性・30歳代(N=126)	11.1%	7.1%	7.9%	8.7%	0.0%	7.9%
女性・40歳代(N=116)	6.0%	8.6%	9.5%	10.3%	3.4%	12.1%
女性・50歳代(N=111)	6.3%	4.5%	13.5%	7.2%	2.7%	7.2%
女性・60歳代(N=171)	10.5%	4.7%	11.7%	5.8%	3.5%	8.2%
女性・70歳代以上(N=149)	6.0%	11.4%	12.8%	10.7%	4.0%	8.7%
	下京区	南区	右京区	西京区	伏見区	無回答
男性(N=515)	4.9%	7.4%	12.8%	10.7%	18.4%	0.0%
男性・20歳代(N=47)	6.4%	4.3%	14.9%	14.9%	10.6%	0.0%
男性・30歳代(N=69)	4.3%	11.6%	11.6%	7.2%	17.4%	0.0%
男性・40歳代(N=87)	5.7%	5.7%	17.2%	11.5%	20.7%	0.0%
男性・50歳代(N=84)	6.0%	6.0%	9.5%	10.7%	21.4%	0.0%
男性・60歳代(N=115)	2.6%	7.8%	11.3%	13.9%	23.5%	0.0%
男性・70歳代以上(N=113)	5.3%	8.0%	13.3%	7.1%	13.3%	0.0%
女性(N=745)	4.8%	5.9%	13.3%	10.6%	18.7%	0.1%
女性・20歳代(N=71)	5.6%	4.2%	9.9%	12.7%	21.1%	0.0%
女性・30歳代(N=126)	6.3%	6.3%	14.3%	10.3%	19.0%	0.8%
女性・40歳代(N=116)	3.4%	5.2%	16.4%	10.3%	14.7%	0.0%
女性・50歳代(N=111)	2.7%	7.2%	11.7%	11.7%	25.2%	0.0%
女性・60歳代(N=171)	4.1%	7.0%	13.5%	11.1%	19.9%	0.0%
女性・70歳代以上(N=149)	6.7%	4.7%	12.1%	8.7%	14.1%	0.0%

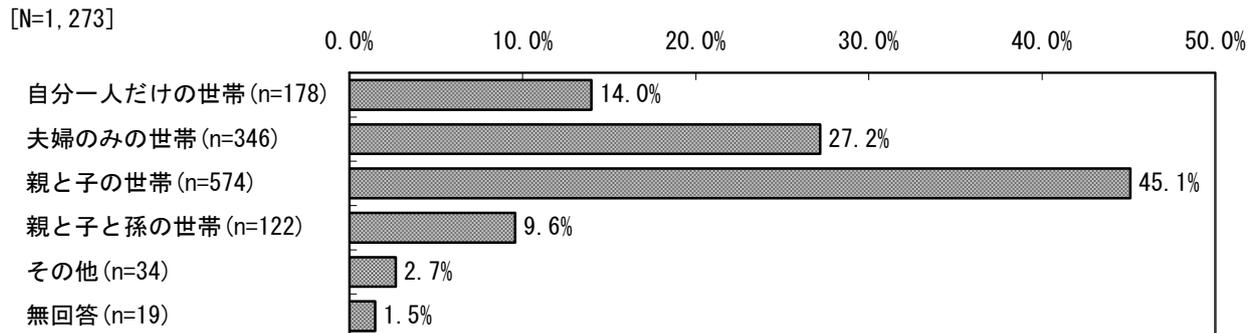
1-4 世帯構成

D あなたの世帯構成は、次のうちどれにあたりますか。【1つに○】

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1 自分一人だけの世帯（単身世帯） | 2 夫婦（事実婚を含む）のみの世帯 |
| 3 親と子の世帯 | 4 親と子と孫の世帯（3世代世帯） |
| 5 その他（具体的に：_____） | |

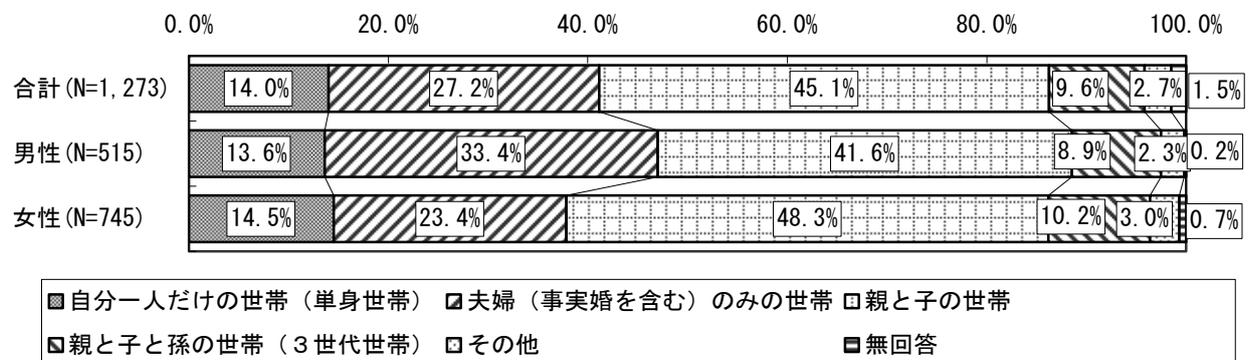
世帯構成をみると、「親と子の世帯」が45.1%で最も多く、次いで「夫婦のみの世帯」(27.2%)となっている。

図D-1 世帯構成



性別にみた世帯構成は、男性は、女性に比べて「夫婦のみの世帯」が多い。

図D-2 性別 世帯構成



表D 性別・年齢別 世帯構成

	自分一人だけの世帯(単身世帯)	夫婦(事実婚を含む)のみの世帯	親と子の世帯	親と子と孫の世帯(3世代世帯)	その他	無回答
男性(N=515)	13.6%	33.4%	41.6%	8.9%	2.3%	0.2%
男性・20歳代(N=47)	25.5%	21.3%	44.7%	4.3%	4.3%	0.0%
男性・30歳代(N=69)	13.0%	21.7%	56.5%	5.8%	2.9%	0.0%
男性・40歳代(N=87)	14.9%	18.4%	56.3%	8.0%	2.3%	0.0%
男性・50歳代(N=84)	10.7%	25.0%	47.6%	15.5%	1.2%	0.0%
男性・60歳代(N=115)	13.0%	38.3%	36.5%	7.8%	3.5%	0.9%
男性・70歳代以上(N=113)	10.6%	58.4%	20.4%	9.7%	0.9%	0.0%
女性(N=745)	14.5%	23.4%	48.3%	10.2%	3.0%	0.7%
女性・20歳代(N=71)	18.3%	14.1%	52.1%	9.9%	5.6%	0.0%
女性・30歳代(N=126)	11.9%	19.8%	62.7%	4.0%	1.6%	0.0%
女性・40歳代(N=116)	6.9%	14.7%	66.4%	11.2%	0.9%	0.0%
女性・50歳代(N=111)	7.2%	19.8%	61.3%	10.8%	0.9%	0.0%
女性・60歳代(N=171)	12.9%	30.4%	39.8%	10.5%	4.7%	1.8%
女性・70歳代以上(N=149)	28.2%	31.5%	20.8%	14.1%	4.0%	1.3%

1-5 回答者自身の収入

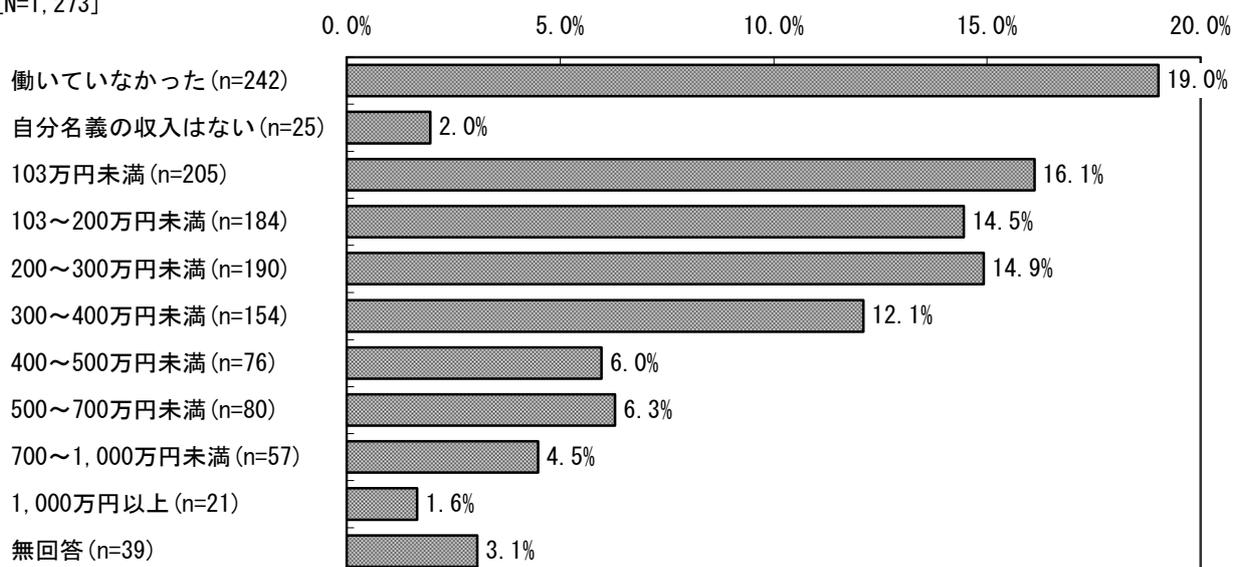
E あなたの昨年1年間の収入（税込み）は、おおよそいくらでしたか。【1つに〇】

- | | |
|-------------------|-----------------------------|
| 1 働いていなかったため収入はない | 2 (家族名義になっているので) 自分名義の収入はない |
| 3 103万円未満 | 4 103～200万円未満 |
| 5 200～300万円未満 | 6 300～400万円未満 |
| 7 400～500万円未満 | 8 500～700万円未満 |
| 9 700～1,000万円未満 | 10 1,000万円以上 |

回答者自身の収入をみると、「働いていなかった」が19.0%で最も多く、次いで「103万円未満」(16.1%)となっている。

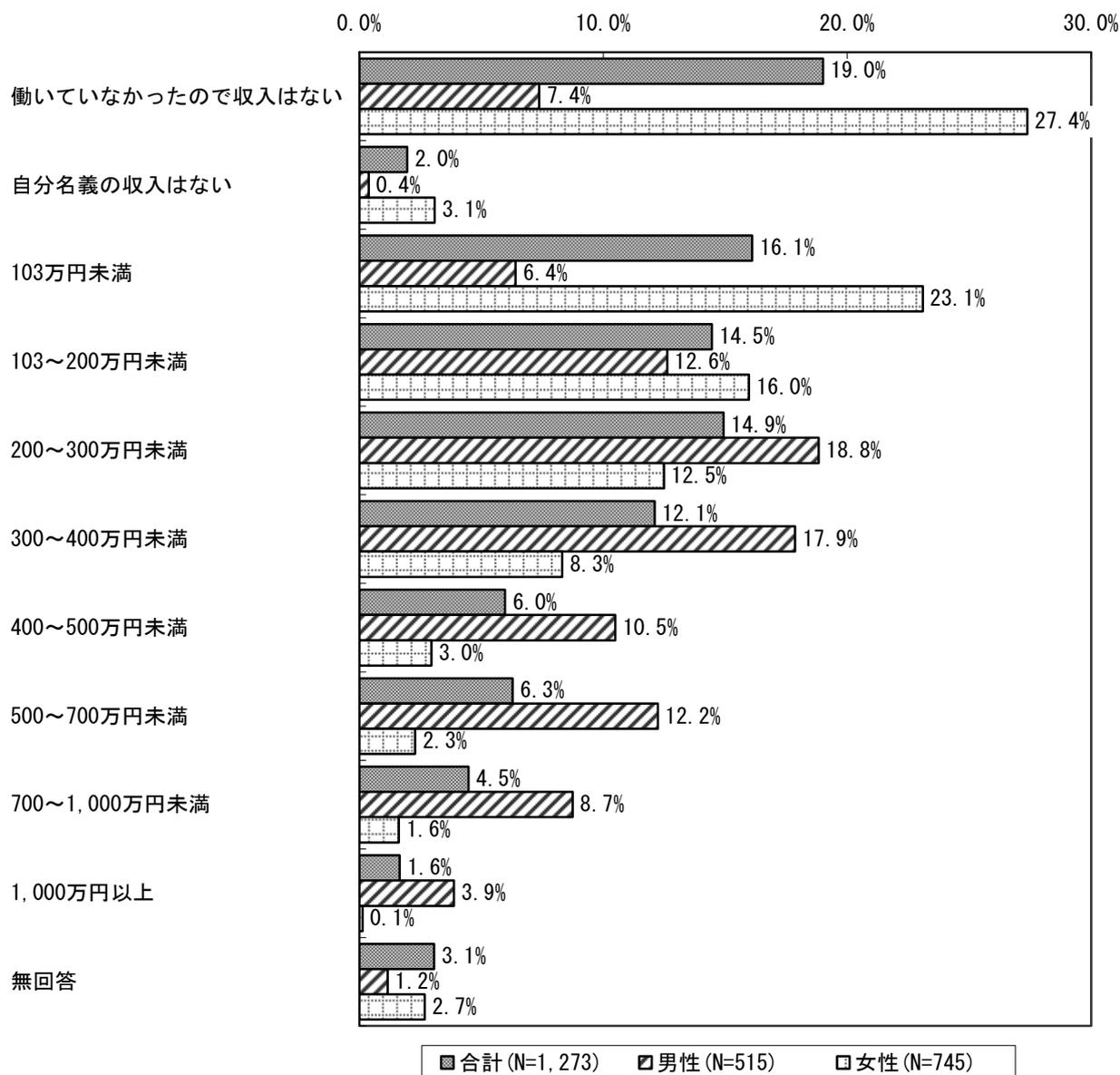
図E-1 回答者自身の収入

[N=1,273]



性別にみた回答者の収入では、女性は男性に比べ、「働いていなかったため収入はない」や「自分名義の収入はない」「103万円未満」「103～200万円未満」が多い。「200～300万円未満」以上の所得階層では、いずれも男性の方が女性に比べて多い。

図E-2 性別 回答者自身の収入



表E-1 性別・年齢別 回答者自身の収入

	働いてい なかつた ので収入 はない	(家族名 義になっ ているの で)自分 名義の収 入はない	103万円	103~200	200~300	300~400
			未満	万円未満	万円未満	万円未満
男性(N=515)	7.4%	0.4%	6.4%	12.6%	18.8%	17.9%
男性・20歳代(N=47)	12.8%	0.0%	17.0%	14.9%	21.3%	17.0%
男性・30歳代(N=69)	4.3%	0.0%	5.8%	11.6%	8.7%	21.7%
男性・40歳代(N=87)	3.4%	0.0%	3.4%	6.9%	8.0%	20.7%
男性・50歳代(N=84)	4.8%	2.4%	2.4%	9.5%	6.0%	9.5%
男性・60歳代(N=115)	6.1%	0.0%	7.0%	14.8%	28.7%	20.9%
男性・70歳代以上(N=113)	13.3%	0.0%	7.1%	16.8%	31.9%	16.8%
女性(N=745)	27.4%	3.1%	23.1%	16.0%	12.5%	8.3%
女性・20歳代(N=71)	21.1%	1.4%	15.5%	16.9%	26.8%	14.1%
女性・30歳代(N=126)	31.0%	3.2%	19.8%	8.7%	15.1%	11.9%
女性・40歳代(N=116)	20.7%	4.3%	30.2%	12.9%	9.5%	8.6%
女性・50歳代(N=111)	20.7%	0.9%	34.2%	13.5%	7.2%	12.6%
女性・60歳代(N=171)	29.2%	5.3%	21.6%	22.2%	7.0%	4.7%
女性・70歳代以上(N=149)	35.6%	2.0%	16.8%	18.8%	16.1%	3.4%
	400~500	500~700	700~	1,000万	無回答	
	万円未満	万円未満	1,000万	円以上		
			円未満			
男性(N=515)	10.5%	12.2%	8.7%	3.9%	1.2%	
男性・20歳代(N=47)	8.5%	6.4%	0.0%	2.1%	0.0%	
男性・30歳代(N=69)	26.1%	17.4%	2.9%	1.4%	0.0%	
男性・40歳代(N=87)	12.6%	19.5%	20.7%	3.4%	1.1%	
男性・50歳代(N=84)	7.1%	21.4%	25.0%	10.7%	1.2%	
男性・60歳代(N=115)	7.0%	6.1%	3.5%	5.2%	0.9%	
男性・70歳代以上(N=113)	6.2%	5.3%	0.0%	0.0%	2.7%	
女性(N=745)	3.0%	2.3%	1.6%	0.1%	2.7%	
女性・20歳代(N=71)	4.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
女性・30歳代(N=126)	4.8%	3.2%	2.4%	0.0%	0.0%	
女性・40歳代(N=116)	4.3%	4.3%	5.2%	0.0%	0.0%	
女性・50歳代(N=111)	3.6%	3.6%	1.8%	0.9%	0.9%	
女性・60歳代(N=171)	2.3%	2.3%	0.6%	0.0%	4.7%	
女性・70歳代以上(N=149)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.4%	

表E-2 性別・職業別 回答者自身の収入

	働いてい なかつた ので収入 はない	(家族名 義になっ ているの で)自分 名義の収 入はない	103万円	103~200	200~300	300~400
			未満	万円未満	万円未満	万円未満
男性(N=515)	7.4%	0.4%	6.4%	12.6%	18.8%	17.9%
男性・自営・自由業(N=94)	2.1%	1.1%	7.4%	11.7%	21.3%	17.0%
男性・家族従事者(N=7)	0.0%	0.0%	14.3%	28.6%	14.3%	28.6%
男性・正規従業員(N=191)	0.0%	0.0%	0.0%	5.8%	11.0%	20.9%
男性・非正規従業員(N=49)	2.0%	0.0%	14.3%	26.5%	30.6%	18.4%
男性・無職・学生等(N=150)	22.0%	0.7%	8.7%	18.0%	23.3%	14.7%
女性(N=745)	27.4%	3.1%	23.1%	16.0%	12.5%	8.3%
女性・自営・自由業(N=50)	2.0%	8.0%	26.0%	24.0%	10.0%	14.0%
女性・家族従事者(N=16)	12.5%	12.5%	43.8%	12.5%	0.0%	6.3%
女性・正規従業員(N=123)	2.4%	0.0%	5.7%	6.5%	25.2%	30.9%
女性・非正規従業員(N=180)	3.9%	0.0%	47.8%	29.4%	15.0%	2.8%
女性・無職・学生等(N=333)	53.8%	4.5%	16.2%	11.7%	6.6%	2.4%
			700~	1,000万	無回答	
	400~500	500~700	1,000万	円以上		
	万円未満	万円未満	円未満			
男性(N=515)	10.5%	12.2%	8.7%	3.9%	1.2%	
男性・自営・自由業(N=94)	7.4%	18.1%	6.4%	5.3%	2.1%	
男性・家族従事者(N=7)	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	
男性・正規従業員(N=191)	18.8%	18.3%	18.3%	6.3%	0.5%	
男性・非正規従業員(N=49)	4.1%	4.1%	0.0%	0.0%	0.0%	
男性・無職・学生等(N=150)	6.0%	4.0%	0.7%	0.7%	1.3%	
女性(N=745)	3.0%	2.3%	1.6%	0.1%	2.7%	
女性・自営・自由業(N=50)	8.0%	8.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
女性・家族従事者(N=16)	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
女性・正規従業員(N=123)	10.6%	8.9%	8.1%	0.8%	0.8%	
女性・非正規従業員(N=180)	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	
女性・無職・学生等(N=333)	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	4.5%	

1-6 配偶者の就労状況

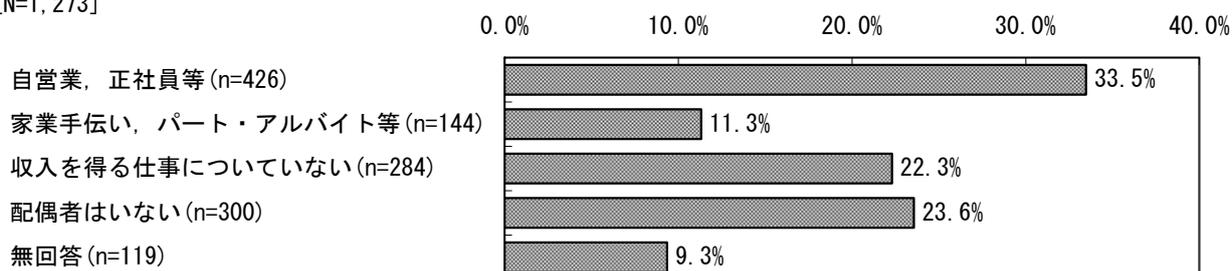
F あなたの配偶者（夫または妻，あるいはそれに相当する人を含む。）は，収入を得る仕事についていますか。【1つに○】

- 1 仕事についている（自営・自由業，正社員・正職員またはそれに近い就業）
- 2 仕事についている（家業手伝い・内職，パート・アルバイトまたはそれに近い就業）
- 3 収入を得る仕事についていない
- 4 配偶者はいない

配偶者の就労状況を見ると、「仕事についている（自営業，正社員等）」が33.5%で最も多く，次いで「配偶者はいない」（23.6%），「収入を得る仕事についていない」（22.3%）となっている。

図F-1 配偶者の就労状況

[N=1,273]



性別にみた配偶者の就労状況では，男性は「収入を得る仕事についていない」が32.2%と多く，女性は男性に比べて，「仕事についている」が43.8%と多い。

図F-2 性別 配偶者の就労状況

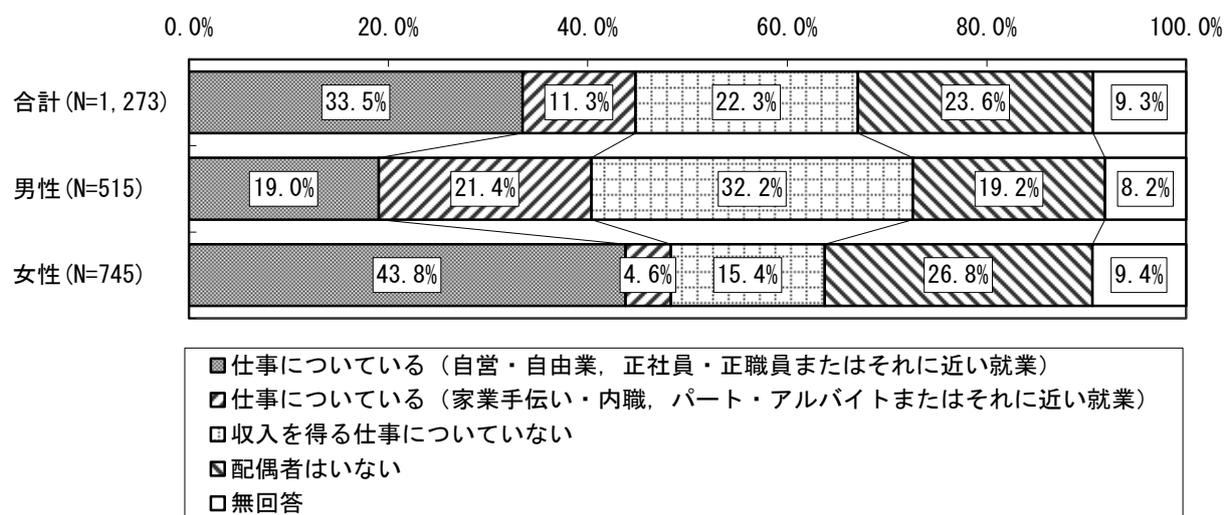


表 F 性別・年齢別 配偶者の就労状況

	仕事に している (自営・ 自由業・ 正社員・ 正職員ま たはそれ に近い就 業)	仕事に している (家業手 伝い・内 職、パー ト・アル バイトま たはそれ に近い就 業)	収入を得 る仕事に ついてい ない	配偶者は いない	無回答
男性(N=515)	19.0%	21.4%	32.2%	19.2%	8.2%
男性・20歳代(N=47)	21.3%	4.3%	10.6%	55.3%	8.5%
男性・30歳代(N=69)	23.2%	15.9%	26.1%	30.4%	4.3%
男性・40歳代(N=87)	20.7%	28.7%	23.0%	24.1%	3.4%
男性・50歳代(N=84)	27.4%	32.1%	25.0%	9.5%	6.0%
男性・60歳代(N=115)	19.1%	26.1%	36.5%	11.3%	7.0%
男性・70歳代以上(N=113)	8.0%	13.3%	53.1%	8.8%	16.8%
女性(N=745)	43.8%	4.6%	15.4%	26.8%	9.4%
女性・20歳代(N=71)	33.8%	2.8%	1.4%	54.9%	7.0%
女性・30歳代(N=126)	67.5%	1.6%	2.4%	23.8%	4.8%
女性・40歳代(N=116)	70.7%	0.0%	3.4%	21.6%	4.3%
女性・50歳代(N=111)	60.4%	6.3%	6.3%	18.9%	8.1%
女性・60歳代(N=171)	32.2%	11.7%	29.2%	18.1%	8.8%
女性・70歳代以上(N=149)	8.7%	2.0%	32.9%	36.2%	20.1%

1-7 世帯の収入

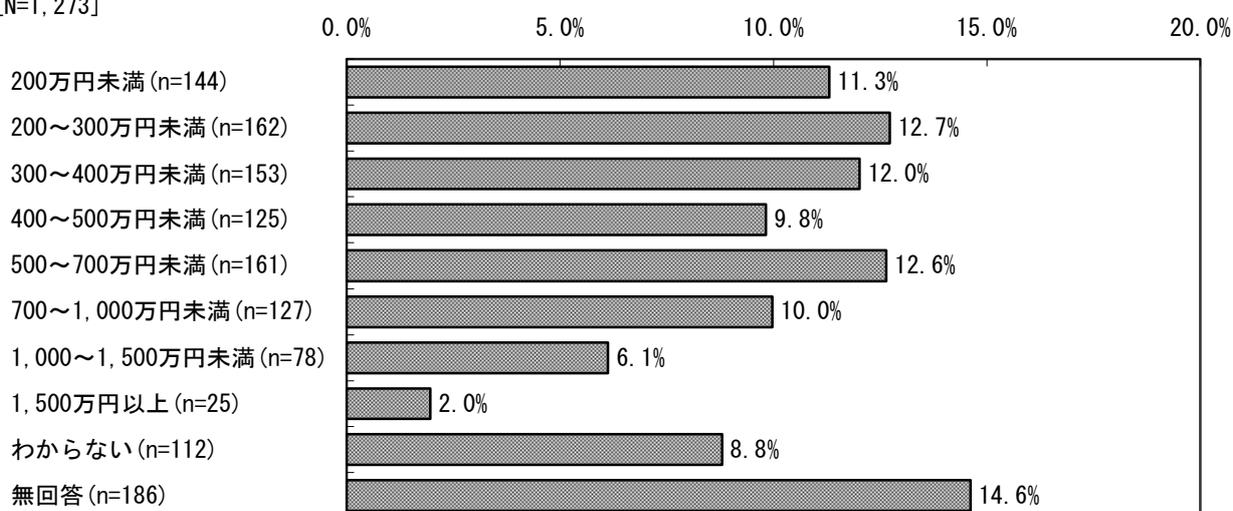
G あなたが生計を共にしている世帯の昨年1年間の総収入（税込み）は、おおよそいくらでしたか。【1つに○】

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1 200万円未満 | 2 200～300万円未満 |
| 3 300～400万円未満 | 4 400～500万円未満 |
| 5 500～700万円未満 | 6 700～1,000万円未満 |
| 7 1,000～1,500万円未満 | 8 1,500万円以上 |
| 9 わからない | |

世帯の収入をみると、無回答を除いて、「200～300万円未満」が12.7%で最も多く、次いで「500～700万円未満」（12.6%）となっている。

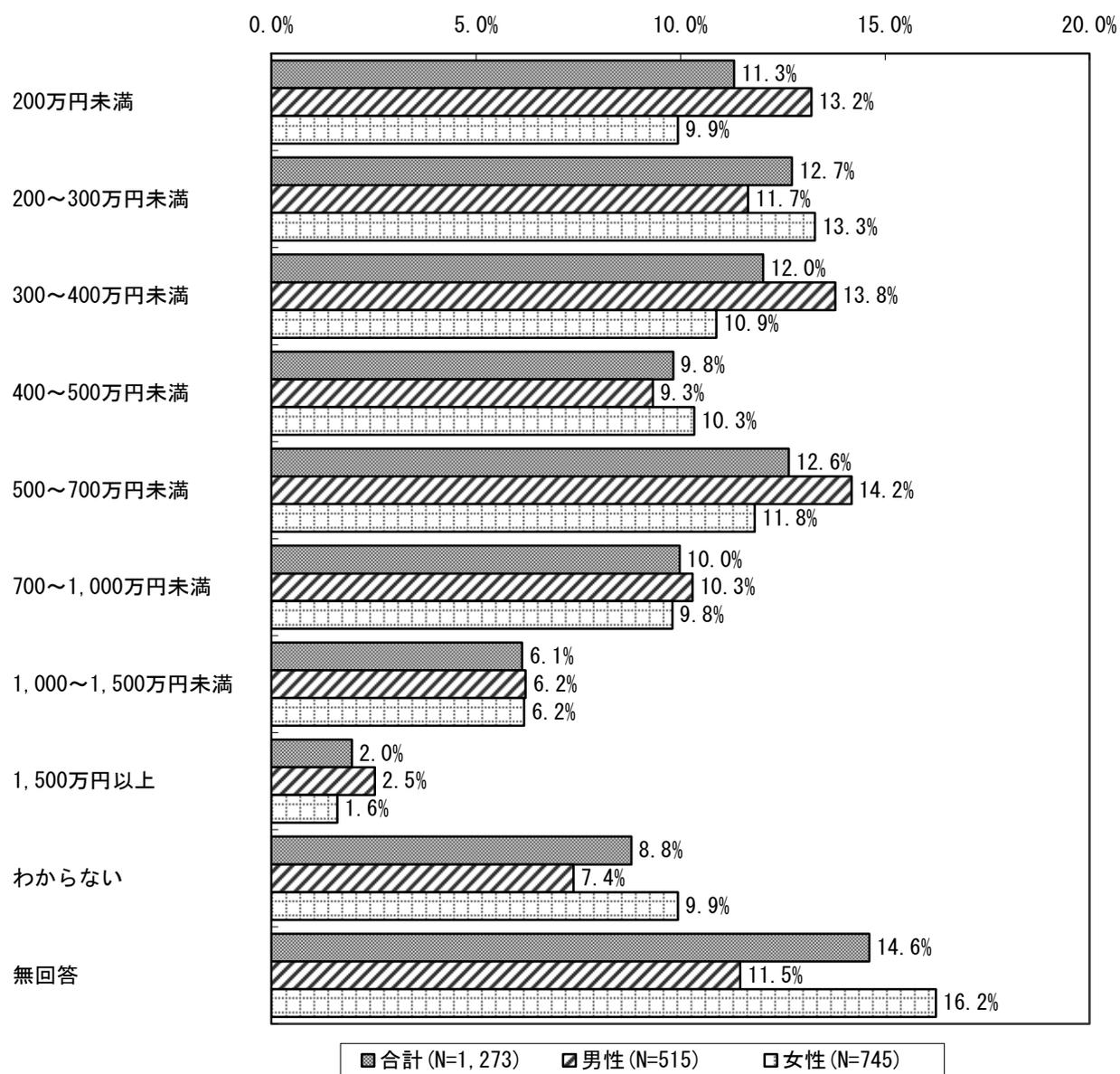
図G-1 世帯の収入

[N=1,273]



性別にみた世帯の収入では、男女での大きな差異はみられなかった。

図 G-2 性別 世帯の収入



表G 性別・年齢別 世帯の収入

	200万円 未満	200～300 万円未満	300～400 万円未満	400～500 万円未満	500～700 万円未満
男性(N=515)	13.2%	11.7%	13.8%	9.3%	14.2%
男性・20歳代(N=47)	14.9%	12.8%	12.8%	2.1%	14.9%
男性・30歳代(N=69)	10.1%	8.7%	11.6%	18.8%	14.5%
男性・40歳代(N=87)	6.9%	9.2%	9.2%	12.6%	20.7%
男性・50歳代(N=84)	13.1%	4.8%	4.8%	3.6%	15.5%
男性・60歳代(N=115)	13.0%	15.7%	20.0%	10.4%	10.4%
男性・70歳代以上(N=113)	19.5%	15.9%	19.5%	7.1%	11.5%
女性(N=745)	9.9%	13.3%	10.9%	10.3%	11.8%
女性・20歳代(N=71)	4.2%	9.9%	12.7%	8.5%	9.9%
女性・30歳代(N=126)	6.3%	5.6%	16.7%	16.7%	11.9%
女性・40歳代(N=116)	4.3%	7.8%	9.5%	12.1%	16.4%
女性・50歳代(N=111)	6.3%	9.9%	10.8%	10.8%	21.6%
女性・60歳代(N=171)	18.1%	18.7%	10.5%	5.3%	10.5%
女性・70歳代以上(N=149)	13.4%	22.1%	6.0%	10.1%	3.4%
	700～ 1,000万 円未満	1,000～ 1,500万 円未満	1,500万 円以上	わからな い	無回答
男性(N=515)	10.3%	6.2%	2.5%	7.4%	11.5%
男性・20歳代(N=47)	6.4%	2.1%	4.3%	23.4%	6.4%
男性・30歳代(N=69)	8.7%	4.3%	0.0%	15.9%	7.2%
男性・40歳代(N=87)	14.9%	10.3%	1.1%	6.9%	8.0%
男性・50歳代(N=84)	21.4%	14.3%	8.3%	3.6%	10.7%
男性・60歳代(N=115)	7.8%	5.2%	2.6%	2.6%	12.2%
男性・70歳代以上(N=113)	3.5%	0.9%	0.0%	3.5%	18.6%
女性(N=745)	9.8%	6.2%	1.6%	9.9%	16.2%
女性・20歳代(N=71)	4.2%	5.6%	5.6%	31.0%	8.5%
女性・30歳代(N=126)	15.9%	6.3%	0.0%	9.5%	11.1%
女性・40歳代(N=116)	18.1%	11.2%	2.6%	9.5%	8.6%
女性・50歳代(N=111)	14.4%	12.6%	1.8%	1.8%	9.9%
女性・60歳代(N=171)	7.0%	2.9%	1.8%	8.8%	16.4%
女性・70歳代以上(N=149)	0.7%	1.3%	0.0%	8.1%	34.9%

表 I 性別・年齢別 末子の年齢

	3歳未満	3歳以上 6歳未満	6歳以上 13歳未満	13歳以上 19歳未満	19歳以上	無回答
男性 (N=330)	7.9%	4.2%	11.8%	9.1%	65.8%	1.2%
男性・20歳代 (N=3)	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
男性・30歳代 (N=29)	69.0%	17.2%	10.3%	0.0%	3.4%	0.0%
男性・40歳代 (N=56)	7.1%	10.7%	48.2%	14.3%	19.6%	0.0%
男性・50歳代 (N=64)	0.0%	1.6%	7.8%	25.0%	65.6%	0.0%
男性・60歳代 (N=92)	0.0%	0.0%	3.3%	3.3%	93.5%	0.0%
男性・70歳代以上 (N=86)	0.0%	1.2%	1.2%	3.5%	89.5%	4.7%
女性 (N=501)	8.8%	6.0%	8.8%	7.2%	67.3%	2.0%
女性・20歳代 (N=9)	77.8%	11.1%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%
女性・30歳代 (N=69)	47.8%	34.8%	14.5%	1.4%	1.4%	0.0%
女性・40歳代 (N=81)	4.9%	6.2%	40.7%	35.8%	12.3%	0.0%
女性・50歳代 (N=91)	0.0%	0.0%	0.0%	6.6%	93.4%	0.0%
女性・60歳代 (N=139)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	97.1%	2.9%
女性・70歳代以上 (N=111)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	94.6%	5.4%

Ⅱ 男女共同参画に関わる社会の動きについて

2-1 男女共同参画推進についての考え方

問1 あなたは、男女共同参画を推進していくことに賛成ですか、反対ですか。

【1つに〇】

- 1 賛成 2 どちらかといえば賛成 3 どちらかといえば反対
4 反対 5 わからない

全体の約4分の3が賛成で、前回より増加している

男女共同参画推進についての考え方をみると、「賛成」が51.7%と最も多く、「どちらかといえば賛成」(24.4%)と合わせると賛成が76.1%と約4分の3を占めている。

性別でみると、「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計は男性(79.6%)が女性(73.5%)に比べて多くなっている。

前回と比較すると、「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計が前回(70.7%)よりも5.4ポイント多くなっている。

図1-1 性別 男女共同参画推進についての考え方

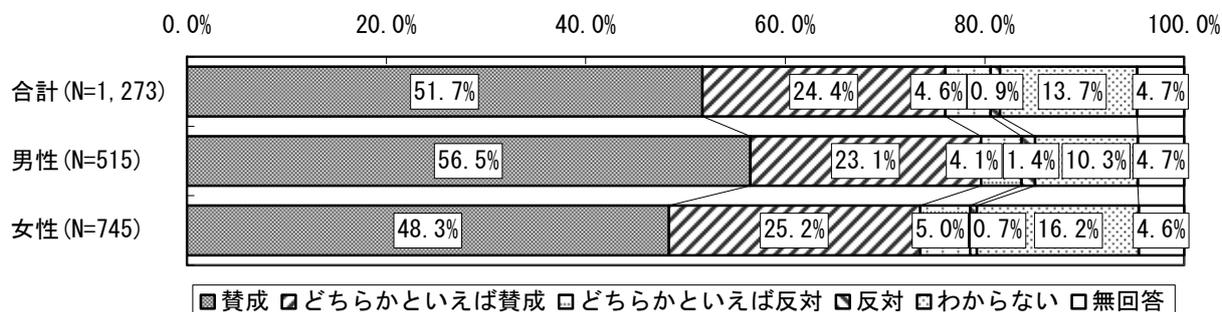
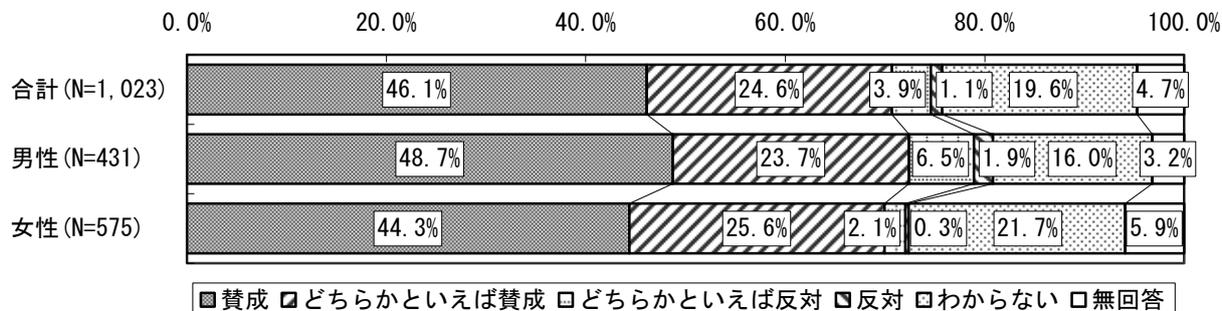


図1-2 性別 男女共同参画推進についての考え方【前回調査】



性別・年齢別に男女共同参画推進への考え方をみると、男性はすべての年代で「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計が70%を超え、特に20歳代では9割弱となっている。女性も同様の傾向を示しているが、20歳代や70歳代以上では「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計が70%を下回り、男性や女性のその他の年齢層より少ない。

表1 性別・年齢別 男女共同参画推進についての考え方

	賛成	どちらか といえば 賛成	どちらか といえば 反対	反対	わからな い	無回答
男性(N=515)	56.5%	23.1%	4.1%	1.4%	10.3%	4.7%
男性・20歳代(N=47)	61.7%	27.7%	0.0%	0.0%	10.6%	0.0%
男性・30歳代(N=69)	52.2%	27.5%	0.0%	5.8%	11.6%	2.9%
男性・40歳代(N=87)	59.8%	24.1%	5.7%	2.3%	8.0%	0.0%
男性・50歳代(N=84)	60.7%	17.9%	4.8%	0.0%	11.9%	4.8%
男性・60歳代(N=115)	55.7%	24.3%	4.3%	0.0%	9.6%	6.1%
男性・70歳代以上(N=113)	52.2%	20.4%	6.2%	0.9%	10.6%	9.7%
女性(N=745)	48.3%	25.2%	5.0%	0.7%	16.2%	4.6%
女性・20歳代(N=71)	47.9%	21.1%	4.2%	0.0%	23.9%	2.8%
女性・30歳代(N=126)	50.0%	29.4%	4.8%	0.8%	11.9%	3.2%
女性・40歳代(N=116)	51.7%	25.0%	4.3%	0.0%	15.5%	3.4%
女性・50歳代(N=111)	45.9%	28.8%	7.2%	1.8%	15.3%	0.9%
女性・60歳代(N=171)	48.5%	25.1%	5.8%	0.0%	15.2%	5.3%
女性・70歳代以上(N=149)	45.6%	21.5%	3.4%	1.3%	18.8%	9.4%

2-2 各分野での平等感

問2 あなたは、次のそれぞれの分野について、男女は平等になっていると思いますか。
【それぞれ1つに〇】

- | | | |
|--------------|------------------|----------------|
| (1) 学校教育 | (2) 雇用の機会（募集・採用） | (3) 賃金や昇進 |
| (4) 家庭生活 | (5) 地域活動 | (6) 社会の慣習やしきたり |
| (7) 法律や制度のうえ | (8) 政治・経済活動への参加 | |

- ・最も男性が優遇されていると感じられているのは「賃金や昇進」
- ・「学校教育」では「平等である」が約7割
- ・男女の意識の差が大きいのは「家庭生活」「法律や制度」「政治・経済活動への参加」
- ・前回よりすべての分野で平等感が増加するも、「雇用の機会（募集・採用）」や「賃金や昇進」で、男性が優遇されているという感が男女共に増加

「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計は「賃金や昇進」が80.7%と最も多く、次いで「社会の慣習やしきたり」(71.9%)、「雇用の機会（募集・採用）」(71.0%)となっている。「学校教育」は、68.1%（男性70.7%、女性66.7%）が「平等である」と回答し、前回（62.1%）よりも増加している。

性別にみると、どの項目でも男性優遇（「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）と回答するのは女性が男性に比べて多い。特に男女の意識の差が大きいのは「家庭生活」（20.0ポイント差）、「法律や制度」（19.9ポイント差）、「政治・経済活動への参加」（17.3ポイント差）である。

前回と比較すると、男女共に「雇用の機会（募集・採用）」や「賃金や昇進」で男性優遇と回答する人が増加している。また、すべての分野で「平等である」と回答する人が増加している。

図2-1 各分野での平等感

[N=1,273]

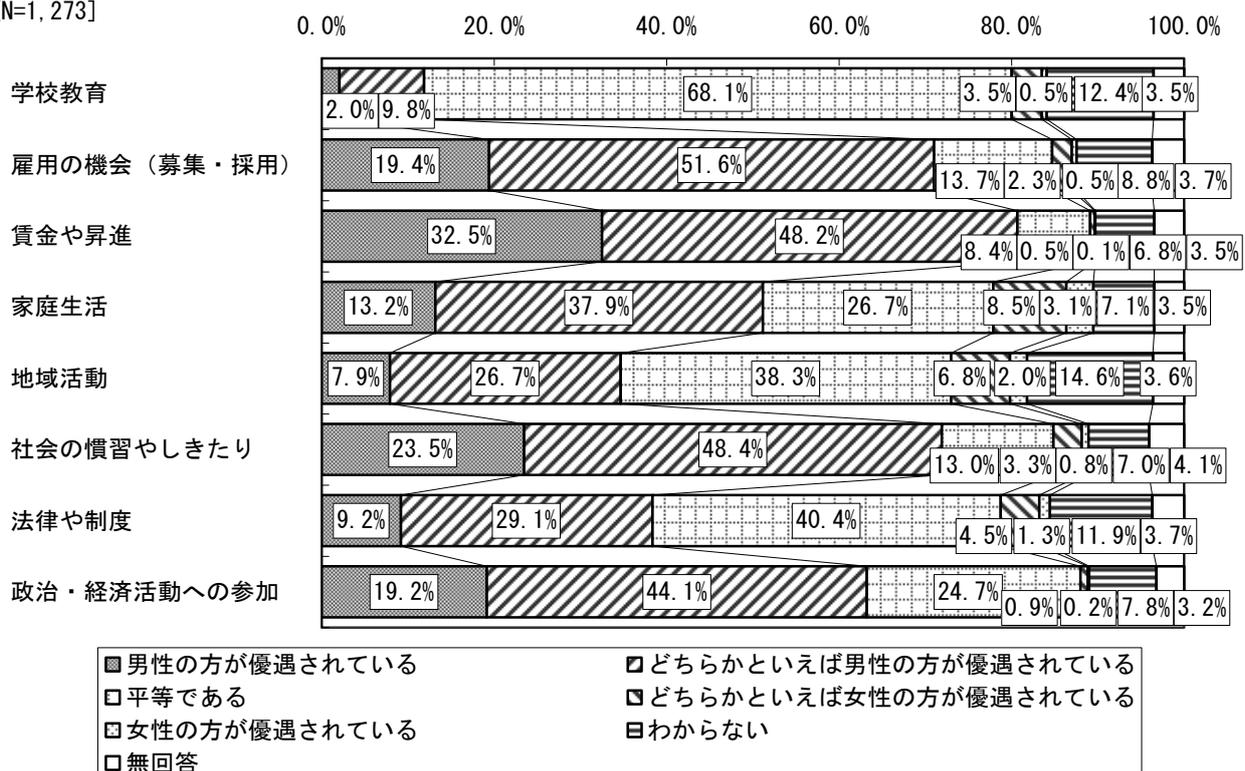


表2-1 性別 各分野での平等感

【今回/全体:N=1,273・男性:N=515・女性:N=745 前回/全体:N=1,023・男性:N=431・女性:N=575】

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答	合計
学校教育【合計】	2.0%	9.8%	68.1%	3.5%	0.5%	12.4%	3.5%	100.0%
	2.6%	7.3%	62.1%	2.3%	0.6%	16.9%	8.1%	100.0%
学校教育【男性】	2.3%	8.5%	70.7%	5.0%	0.8%	9.5%	3.1%	100.0%
	1.9%	5.1%	67.5%	3.9%	0.7%	16.0%	4.9%	100.0%
学校教育【女性】	1.6%	10.9%	66.7%	2.4%	0.4%	14.5%	3.5%	100.0%
	3.3%	8.9%	57.9%	1.2%	0.5%	17.9%	10.3%	100.0%
雇用の機会(募集・採用)【合計】	19.4%	51.6%	13.7%	2.3%	0.5%	8.8%	3.7%	100.0%
	15.6%	46.1%	11.8%	2.2%	0.8%	14.3%	9.2%	100.0%
雇用の機会(募集・採用)【男性】	15.1%	53.2%	17.7%	3.5%	1.0%	5.8%	3.7%	100.0%
	10.2%	49.4%	15.5%	3.5%	1.6%	12.5%	7.2%	100.0%
雇用の機会(募集・採用)【女性】	22.3%	50.7%	11.0%	1.5%	0.3%	10.9%	3.4%	100.0%
	19.5%	44.0%	9.2%	1.2%	0.2%	15.5%	10.4%	100.0%
賃金や昇進【合計】	32.5%	48.2%	8.4%	0.5%	0.1%	6.8%	3.5%	100.0%
	28.8%	43.4%	6.2%	0.3%	0.1%	12.1%	9.1%	100.0%
賃金や昇進【男性】	24.7%	54.2%	12.6%	1.0%	0.2%	4.1%	3.3%	100.0%
	17.6%	54.3%	10.0%	0.2%	0.2%	11.4%	6.3%	100.0%
賃金や昇進【女性】	38.1%	44.0%	5.6%	0.3%	0.0%	8.6%	3.4%	100.0%
	37.6%	35.7%	3.5%	0.3%	0.0%	12.2%	10.8%	100.0%
家庭生活【合計】	13.2%	37.9%	26.7%	8.5%	3.1%	7.1%	3.5%	100.0%
	15.3%	36.0%	24.2%	5.3%	2.6%	9.2%	7.3%	100.0%
家庭生活【男性】	7.4%	32.0%	36.9%	10.5%	3.9%	6.0%	3.3%	100.0%
	8.6%	31.3%	34.1%	7.0%	4.2%	10.7%	4.2%	100.0%
家庭生活【女性】	17.3%	42.1%	19.9%	7.0%	2.7%	7.7%	3.4%	100.0%
	20.7%	39.7%	16.9%	4.0%	1.6%	8.0%	9.2%	100.0%
地域活動では【合計】	7.9%	26.7%	38.3%	6.8%	2.0%	14.6%	3.6%	100.0%
地域活動では【男性】	4.5%	22.9%	46.6%	9.1%	2.7%	11.7%	2.5%	100.0%
地域活動では【女性】	10.2%	29.8%	32.6%	5.1%	1.5%	16.8%	4.0%	100.0%
社会の慣習やしきたり【合計】	23.5%	48.4%	13.0%	3.3%	0.8%	7.0%	4.1%	100.0%
	22.4%	50.5%	7.6%	1.9%	0.9%	8.3%	8.4%	100.0%
社会の慣習やしきたり【男性】	19.6%	48.5%	17.5%	4.1%	1.4%	5.2%	3.7%	100.0%
	15.5%	53.8%	11.4%	3.0%	1.4%	9.5%	5.3%	100.0%
社会の慣習やしきたり【女性】	26.3%	48.9%	9.5%	2.7%	0.4%	8.2%	4.0%	100.0%
	27.7%	48.3%	4.9%	1.0%	0.5%	7.3%	10.3%	100.0%
法律や制度【合計】	9.2%	29.1%	40.4%	4.5%	1.3%	11.9%	3.7%	100.0%
	9.7%	28.3%	32.3%	3.4%	1.2%	16.5%	8.7%	100.0%
法律や制度【男性】	5.2%	21.4%	52.6%	7.0%	2.1%	8.5%	3.1%	100.0%
	5.3%	23.9%	44.3%	4.9%	2.1%	14.2%	5.3%	100.0%
法律や制度【女性】	11.9%	34.6%	32.1%	2.7%	0.7%	14.2%	3.8%	100.0%
	13.2%	31.8%	23.1%	2.4%	0.5%	18.1%	10.8%	100.0%
政治・経済活動への参加【合計】	19.2%	44.1%	24.7%	0.9%	0.2%	7.8%	3.2%	100.0%
	20.0%	38.1%	20.0%	0.8%	0.1%	12.4%	8.5%	100.0%
政治・経済活動への参加【男性】	12.6%	40.6%	37.1%	1.4%	0.2%	5.6%	2.5%	100.0%
	12.5%	37.8%	30.2%	0.7%	0.2%	13.0%	5.6%	100.0%
政治・経済活動への参加【女性】	23.5%	47.0%	16.2%	0.5%	0.1%	9.3%	3.4%	100.0%
	26.1%	38.6%	12.3%	0.9%	0.0%	11.8%	10.3%	100.0%

(上段：今回調査・下段：前回平成17年度調査/地域活動の項目は前回調査ではなかった項目)

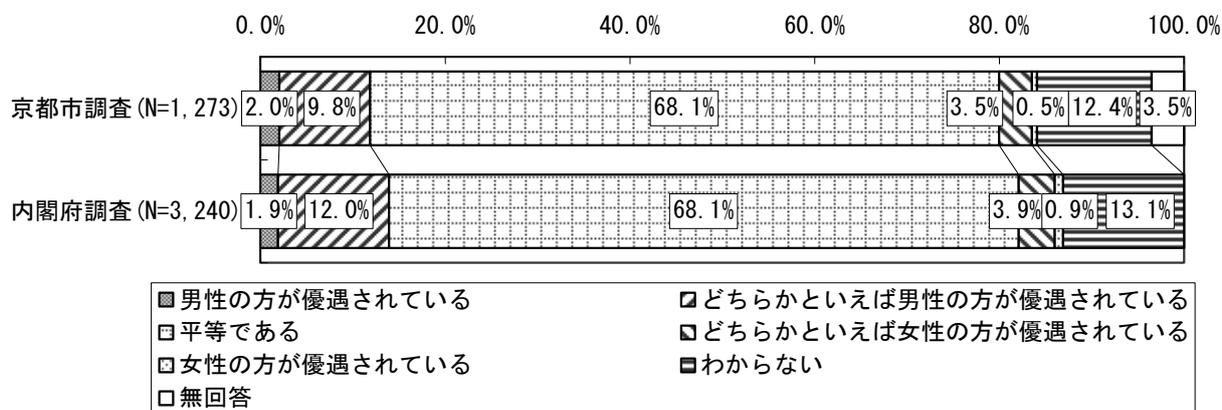
性別・年齢別に「学校教育」で男女が平等になっているかについてみると、男女ともすべての年代で半数以上が「平等である」と回答している。

表2-2 性別・年齢別 各分野での平等感（学校教育）

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答
男性(N=515)	2.3%	8.5%	70.7%	5.0%	0.8%	9.5%	3.1%
男性・20歳代(N=47)	0.0%	2.1%	74.5%	8.5%	0.0%	12.8%	2.1%
男性・30歳代(N=69)	2.9%	11.6%	73.9%	1.4%	2.9%	7.2%	0.0%
男性・40歳代(N=87)	2.3%	8.0%	74.7%	5.7%	1.1%	8.0%	0.0%
男性・50歳代(N=84)	2.4%	8.3%	67.9%	8.3%	0.0%	10.7%	2.4%
男性・60歳代(N=115)	2.6%	7.8%	71.3%	3.5%	0.9%	9.6%	4.3%
男性・70歳代以上(N=113)	2.7%	10.6%	65.5%	4.4%	0.0%	9.7%	7.1%
女性(N=745)	1.6%	10.9%	66.7%	2.4%	0.4%	14.5%	3.5%
女性・20歳代(N=71)	0.0%	7.0%	69.0%	4.2%	0.0%	18.3%	1.4%
女性・30歳代(N=126)	1.6%	7.1%	73.0%	2.4%	0.8%	14.3%	0.8%
女性・40歳代(N=116)	1.7%	6.9%	75.0%	0.9%	0.0%	15.5%	0.0%
女性・50歳代(N=111)	0.9%	11.7%	73.9%	2.7%	0.9%	7.2%	2.7%
女性・60歳代(N=171)	2.9%	14.6%	60.2%	3.5%	0.0%	15.2%	3.5%
女性・70歳代以上(N=149)	1.3%	14.1%	56.4%	0.7%	0.7%	16.8%	10.1%

内閣府調査と比較しても大きな差異はみられず、京都市、内閣府のいずれの調査においても「平等である」が7割弱と最も多くなっている。

図2-2 各分野での平等感（学校教育）【平成21年度内閣府調査との比較】



性別・年齢別に「雇用の機会（募集・採用）」についてみると、男性の20歳代を除き、男女とも「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計が、各年代で60%以上となっている。

表2-3 性別・年齢別 各分野での平等感（雇用の機会（募集・採用））

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答
男性(N=515)	15.1%	53.2%	17.7%	3.5%	1.0%	5.8%	3.7%
男性・20歳代(N=47)	12.8%	46.8%	12.8%	6.4%	2.1%	17.0%	2.1%
男性・30歳代(N=69)	15.9%	52.2%	24.6%	5.8%	0.0%	1.4%	0.0%
男性・40歳代(N=87)	13.8%	49.4%	23.0%	4.6%	1.1%	5.7%	2.3%
男性・50歳代(N=84)	16.7%	53.6%	19.0%	2.4%	2.4%	3.6%	2.4%
男性・60歳代(N=115)	21.7%	53.0%	14.8%	1.7%	0.0%	5.2%	3.5%
男性・70歳代以上(N=113)	8.8%	59.3%	13.3%	2.7%	0.9%	6.2%	8.8%
女性(N=745)	22.3%	50.7%	11.0%	1.5%	0.3%	10.9%	3.4%
女性・20歳代(N=71)	29.6%	40.8%	18.3%	0.0%	0.0%	8.5%	2.8%
女性・30歳代(N=126)	28.6%	48.4%	9.5%	0.8%	0.0%	11.1%	1.6%
女性・40歳代(N=116)	18.1%	57.8%	10.3%	0.9%	0.9%	10.3%	1.7%
女性・50歳代(N=111)	22.5%	57.7%	9.0%	1.8%	0.0%	9.0%	0.0%
女性・60歳代(N=171)	21.1%	48.5%	12.3%	2.9%	0.6%	11.1%	3.5%
女性・70歳代以上(N=149)	17.4%	49.7%	9.4%	1.3%	0.0%	13.4%	8.7%

就業・非就業別に「雇用の機会（募集・採用）」についてみると、「就業」、「非就業」共に「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計が70%以上となっている。

表2-4 就業・非就業別 各分野での平等感（雇用の機会（募集・採用））

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答
合計(N=1,273)	19.4%	51.6%	13.7%	2.3%	0.5%	8.8%	3.7%
就業(N=724)	18.8%	53.5%	15.3%	2.6%	0.7%	6.8%	2.3%
非就業(N=492)	21.7%	48.6%	12.0%	1.6%	0.4%	11.2%	4.5%
無回答(N=57)	7.0%	54.4%	7.0%	3.5%	0.0%	14.0%	14.0%

性別・年齢別に「賃金や昇進」についてみると、すべての年代で男女とも「男性の方が優遇されている」又は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答する割合が高い。逆に、「女性の方が優遇されている」との回答は、男性の30歳代に1.4%ある以外は皆無となっている。

表2-5 性別・年齢別 各分野での平等感（賃金や昇進）

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答
男性(N=515)	24.7%	54.2%	12.6%	1.0%	0.2%	4.1%	3.3%
男性・20歳代(N=47)	19.1%	46.8%	17.0%	0.0%	0.0%	17.0%	0.0%
男性・30歳代(N=69)	24.6%	55.1%	15.9%	2.9%	1.4%	0.0%	0.0%
男性・40歳代(N=87)	21.8%	50.6%	21.8%	0.0%	0.0%	5.7%	0.0%
男性・50歳代(N=84)	25.0%	54.8%	15.5%	1.2%	0.0%	1.2%	2.4%
男性・60歳代(N=115)	33.9%	52.2%	7.0%	0.9%	0.0%	1.7%	4.3%
男性・70歳代以上(N=113)	19.5%	61.1%	5.3%	0.9%	0.0%	4.4%	8.8%
女性(N=745)	38.1%	44.0%	5.6%	0.3%	0.0%	8.6%	3.4%
女性・20歳代(N=71)	43.7%	33.8%	15.5%	0.0%	0.0%	7.0%	0.0%
女性・30歳代(N=126)	43.7%	44.4%	4.8%	0.0%	0.0%	6.3%	0.8%
女性・40歳代(N=116)	37.9%	54.3%	1.7%	0.0%	0.0%	5.2%	0.9%
女性・50歳代(N=111)	37.8%	45.9%	8.1%	0.9%	0.0%	6.3%	0.9%
女性・60歳代(N=171)	38.0%	42.7%	4.7%	0.0%	0.0%	11.1%	3.5%
女性・70歳代以上(N=149)	30.9%	40.9%	4.0%	0.7%	0.0%	12.8%	10.7%

就業・非就業別に「賃金や昇進」についてみると、「就業」、「非就業」とも、「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計が約8割となっている。

表2-6 就業・非就業別 各分野での平等感（賃金や昇進）

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答
合計(N=1,273)	32.5%	48.2%	8.4%	0.5%	0.1%	6.8%	3.5%
就業(N=724)	32.0%	50.4%	10.9%	0.6%	0.1%	4.1%	1.8%
非就業(N=492)	34.6%	45.1%	4.9%	0.6%	0.0%	9.8%	5.1%
無回答(N=57)	21.1%	45.6%	7.0%	0.0%	0.0%	15.8%	10.5%

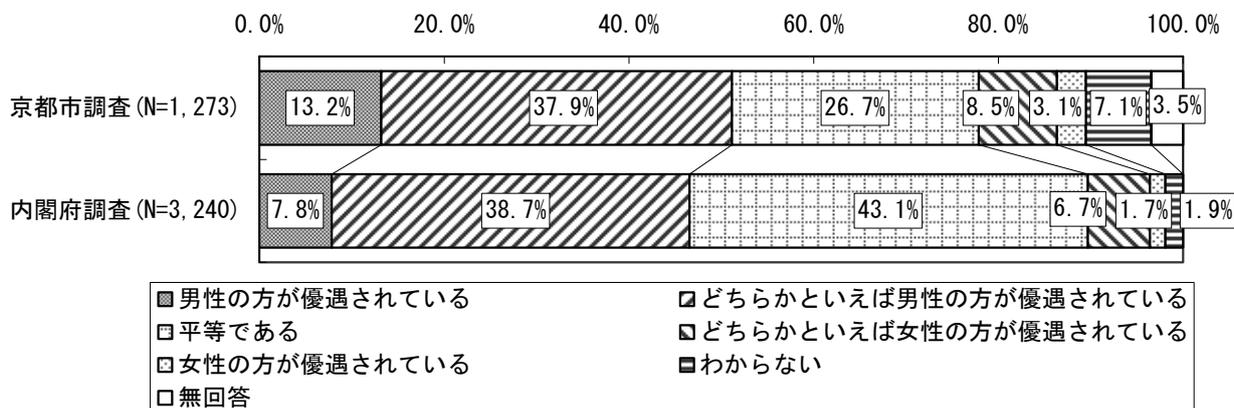
性別・年齢別に「家庭生活」をみると、男性は60歳代を除き「平等である」と回答している割合が最も高く、女性は20歳代を除き「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も多く、男女間での意識の違いが見られる。

表2-7 性別・年齢別 各分野での平等感（家庭生活）

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答
男性(N=515)	7.4%	32.0%	36.9%	10.5%	3.9%	6.0%	3.3%
男性・20歳代(N=47)	6.4%	23.4%	42.6%	6.4%	4.3%	17.0%	0.0%
男性・30歳代(N=69)	10.1%	23.2%	42.0%	15.9%	1.4%	7.2%	0.0%
男性・40歳代(N=87)	2.3%	31.0%	35.6%	17.2%	2.3%	11.5%	0.0%
男性・50歳代(N=84)	7.1%	31.0%	40.5%	9.5%	3.6%	6.0%	2.4%
男性・60歳代(N=115)	8.7%	46.1%	27.0%	6.1%	5.2%	1.7%	5.2%
男性・70歳代以上(N=113)	8.8%	28.3%	39.8%	8.8%	5.3%	0.9%	8.0%
女性(N=745)	17.3%	42.1%	19.9%	7.0%	2.7%	7.7%	3.4%
女性・20歳代(N=71)	15.5%	31.0%	33.8%	7.0%	0.0%	11.3%	1.4%
女性・30歳代(N=126)	17.5%	42.1%	15.9%	7.9%	2.4%	11.9%	2.4%
女性・40歳代(N=116)	22.4%	45.7%	18.1%	1.7%	5.2%	6.9%	0.0%
女性・50歳代(N=111)	13.5%	58.6%	14.4%	7.2%	0.9%	5.4%	0.0%
女性・60歳代(N=171)	22.8%	39.2%	21.1%	5.8%	3.5%	4.1%	3.5%
女性・70歳代以上(N=149)	10.7%	36.2%	20.8%	10.7%	2.7%	8.7%	10.1%

内閣府調査と比較すると、京都市調査では、「男性の方が優遇されている」という割合が13.2%と内閣府調査に比べ多く、「平等である」は26.7%と内閣府調査の43.1%より少ない。

図2-3 各分野での平等感（家庭生活）【平成21年度内閣府調査との比較】



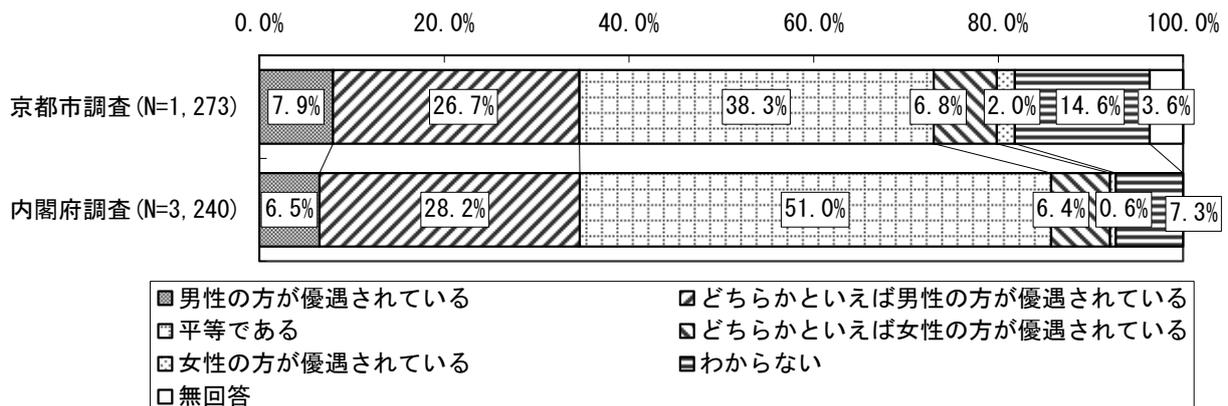
性別・年齢別に「地域活動」についてみると、男性はいずれの年齢層でも約半数が「平等である」と回答しているが、女性は「平等である」と回答した人は、いずれの年齢階層でも約3分の1に止まっており、女性の30歳代～50歳代では3分の1強が「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答し、他の年代に比べて多くなっている。

表2-8 性別・年齢別 各分野での平等感（地域活動）

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答
男性(N=515)	4.5%	22.9%	46.6%	9.1%	2.7%	11.7%	2.5%
男性・20歳代(N=47)	4.3%	8.5%	46.8%	6.4%	0.0%	34.0%	0.0%
男性・30歳代(N=69)	4.3%	27.5%	52.2%	4.3%	0.0%	11.6%	0.0%
男性・40歳代(N=87)	2.3%	20.7%	46.0%	16.1%	4.6%	10.3%	0.0%
男性・50歳代(N=84)	4.8%	23.8%	50.0%	4.8%	3.6%	11.9%	1.2%
男性・60歳代(N=115)	4.3%	27.0%	45.2%	11.3%	4.3%	4.3%	3.5%
男性・70歳代以上(N=113)	6.2%	23.0%	42.5%	8.8%	1.8%	10.6%	7.1%
女性(N=745)	10.2%	29.8%	32.6%	5.1%	1.5%	16.8%	4.0%
女性・20歳代(N=71)	5.6%	19.7%	32.4%	7.0%	1.4%	31.0%	2.8%
女性・30歳代(N=126)	9.5%	33.3%	31.0%	1.6%	0.0%	24.6%	0.0%
女性・40歳代(N=116)	12.1%	37.9%	25.9%	1.7%	3.4%	16.4%	2.6%
女性・50歳代(N=111)	8.1%	36.9%	27.9%	9.0%	0.9%	17.1%	0.0%
女性・60歳代(N=171)	15.8%	25.1%	38.0%	6.4%	0.6%	9.4%	4.7%
女性・70歳代以上(N=149)	6.7%	25.5%	36.2%	5.4%	2.7%	12.1%	11.4%

内閣府調査と比較すると、「平等である」が、京都市調査では38.3%と内閣府調査の51.0%に比べて少ない。

図2-4 各分野での平等感（地域活動）【平成21年度内閣府調査との比較】



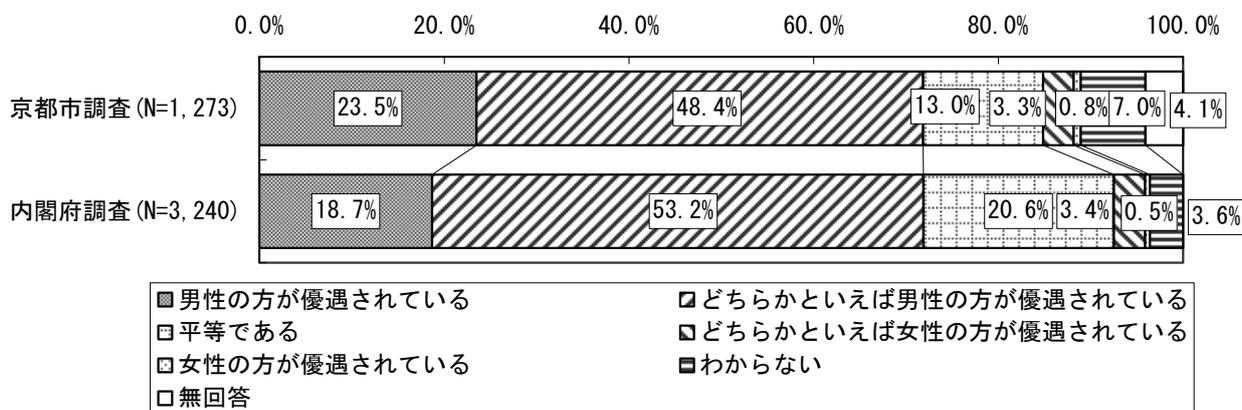
性別・年齢別に「社会の慣習やしきたり」についてみると、男女ともすべての年代で「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計が60%以上となっている。

表2-9 性別・年齢別 各分野での平等感（社会の慣習やしきたり）

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答
男性(N=515)	19.6%	48.5%	17.5%	4.1%	1.4%	5.2%	3.7%
男性・20歳代(N=47)	14.9%	57.4%	10.6%	4.3%	0.0%	12.8%	0.0%
男性・30歳代(N=69)	26.1%	47.8%	18.8%	5.8%	0.0%	1.4%	0.0%
男性・40歳代(N=87)	13.8%	48.3%	25.3%	5.7%	1.1%	5.7%	0.0%
男性・50歳代(N=84)	20.2%	42.9%	21.4%	2.4%	7.1%	2.4%	3.6%
男性・60歳代(N=115)	27.8%	48.7%	12.2%	2.6%	0.0%	4.3%	4.3%
男性・70歳代以上(N=113)	13.3%	49.6%	15.9%	4.4%	0.0%	7.1%	9.7%
女性(N=745)	26.3%	48.9%	9.5%	2.7%	0.4%	8.2%	4.0%
女性・20歳代(N=71)	25.4%	43.7%	12.7%	2.8%	0.0%	14.1%	1.4%
女性・30歳代(N=126)	36.5%	45.2%	7.1%	1.6%	0.0%	8.7%	0.8%
女性・40歳代(N=116)	29.3%	56.0%	6.0%	1.7%	1.7%	4.3%	0.9%
女性・50歳代(N=111)	20.7%	69.4%	5.4%	2.7%	0.0%	1.8%	0.0%
女性・60歳代(N=171)	27.5%	41.5%	13.5%	3.5%	0.6%	8.2%	5.3%
女性・70歳代以上(N=149)	18.1%	42.3%	11.4%	3.4%	0.0%	12.8%	12.1%

内閣府調査と比較すると、京都市調査では「男性の方が優遇されている」との回答が23.5%と内閣府調査と比べ多く、逆に「平等である」が13.0%と少ない。

図2-5 各分野での平等感（社会の慣習やしきたり）【平成21年度内閣府調査との比較】



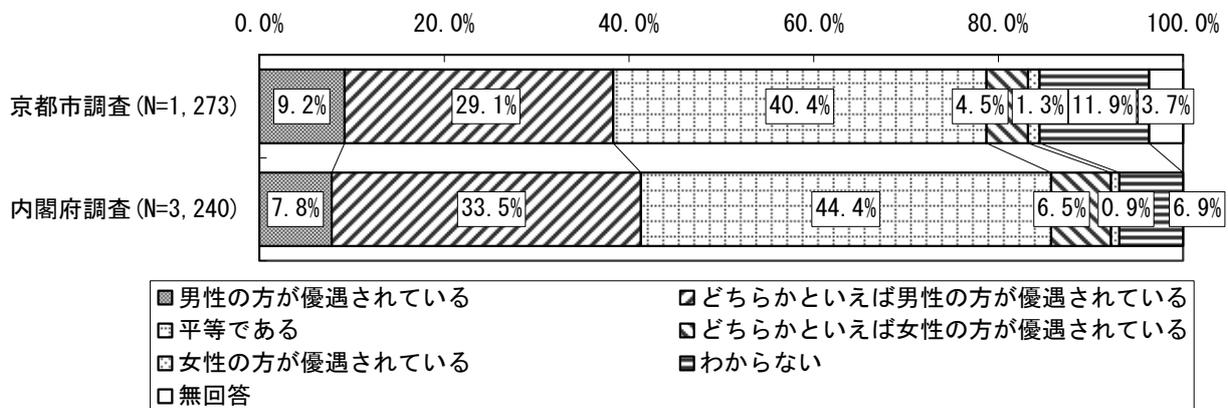
性別・年齢別に「法律や制度」についてみると、女性の20歳代～50歳代では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答が最も多いが、男性はすべての年代で「平等である」という回答が最も多くなっている。

表2-10 性別・年齢別 各分野での平等感（法律や制度）

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答
男性(N=515)	5.2%	21.4%	52.6%	7.0%	2.1%	8.5%	3.1%
男性・20歳代(N=47)	4.3%	12.8%	48.9%	19.1%	0.0%	14.9%	0.0%
男性・30歳代(N=69)	8.7%	33.3%	37.7%	13.0%	1.4%	5.8%	0.0%
男性・40歳代(N=87)	2.3%	20.7%	58.6%	3.4%	8.0%	5.7%	1.1%
男性・50歳代(N=84)	2.4%	10.7%	61.9%	10.7%	1.2%	10.7%	2.4%
男性・60歳代(N=115)	7.8%	31.3%	46.1%	1.7%	0.9%	7.8%	4.3%
男性・70歳代以上(N=113)	5.3%	15.9%	58.4%	3.5%	0.9%	8.8%	7.1%
女性(N=745)	11.9%	34.6%	32.1%	2.7%	0.7%	14.2%	3.8%
女性・20歳代(N=71)	12.7%	29.6%	28.2%	4.2%	1.4%	22.5%	1.4%
女性・30歳代(N=126)	12.7%	35.7%	31.0%	3.2%	0.0%	15.9%	1.6%
女性・40歳代(N=116)	12.1%	45.7%	27.6%	4.3%	0.9%	8.6%	0.9%
女性・50歳代(N=111)	11.7%	45.0%	30.6%	2.7%	0.9%	8.1%	0.9%
女性・60歳代(N=171)	15.8%	26.9%	35.1%	1.8%	1.2%	15.2%	4.1%
女性・70歳代以上(N=149)	6.7%	28.9%	36.2%	1.3%	0.0%	16.1%	10.7%

内閣府調査と比較しても、特に大きな差異はみられない。

図2-6 性別 各分野での平等感（法律や制度）【平成21年度内閣府調査との比較】



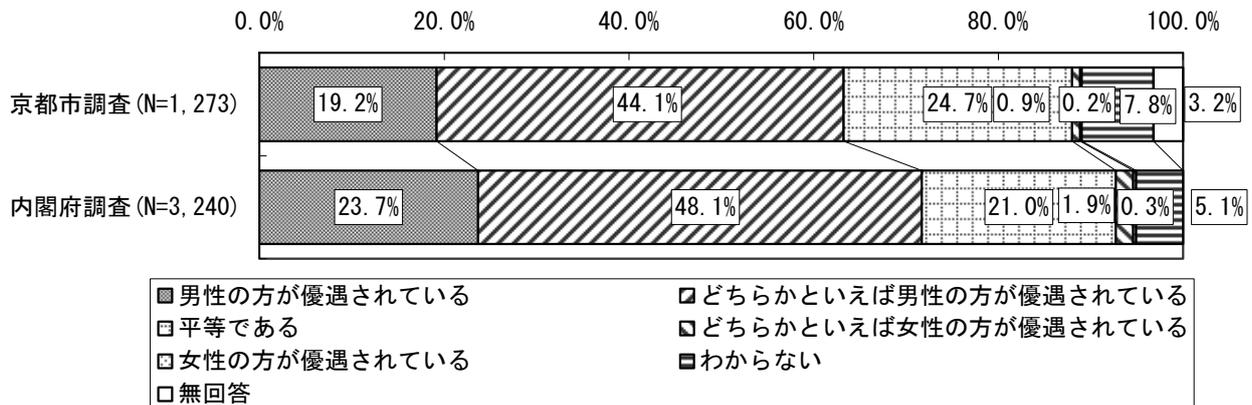
性別・年齢別に「政治・経済活動への参加」についてみると、男性の40歳代、50歳代を除くと、男女共に、すべての年代で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答が最も多くなっている。

表2-11 性別・年齢別 各分野での平等感（政治・経済活動への参加）

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答
男性(N=515)	12.6%	40.6%	37.1%	1.4%	0.2%	5.6%	2.5%
男性・20歳代(N=47)	8.5%	48.9%	34.0%	0.0%	0.0%	8.5%	0.0%
男性・30歳代(N=69)	20.3%	46.4%	26.1%	2.9%	0.0%	4.3%	0.0%
男性・40歳代(N=87)	11.5%	40.2%	42.5%	2.3%	0.0%	3.4%	0.0%
男性・50歳代(N=84)	10.7%	27.4%	53.6%	0.0%	0.0%	7.1%	1.2%
男性・60歳代(N=115)	15.7%	42.6%	33.0%	0.9%	0.0%	4.3%	3.5%
男性・70歳代以上(N=113)	8.8%	41.6%	32.7%	1.8%	0.9%	7.1%	7.1%
女性(N=745)	23.5%	47.0%	16.2%	0.5%	0.1%	9.3%	3.4%
女性・20歳代(N=71)	21.1%	40.8%	16.9%	2.8%	0.0%	15.5%	2.8%
女性・30歳代(N=126)	30.2%	42.1%	14.3%	0.8%	0.0%	12.7%	0.0%
女性・40歳代(N=116)	26.7%	47.4%	15.5%	0.9%	0.0%	7.8%	1.7%
女性・50歳代(N=111)	26.1%	57.7%	11.7%	0.0%	0.9%	3.6%	0.0%
女性・60歳代(N=171)	25.1%	46.2%	16.4%	0.0%	0.0%	8.2%	4.1%
女性・70歳代以上(N=149)	12.8%	46.3%	21.5%	0.0%	0.0%	10.1%	9.4%

内閣府調査と比較すると、京都市調査では、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が、それぞれ19.2%、44.1%とやや少ない。

図2-7 性別 各分野での平等感（政治・経済活動への参加）【平成21年度内閣府調査との比較】



2-3 「男は仕事，女は家事・育児」という考え方について（性別役割分担意識）

問3 あなたは、「男は仕事，女は家事・育児」という考え方についてどう思いますか。

【1つに〇】

- 1 賛成
- 2 どちらかといえば賛成
- 3 どちらかといえば反対
- 4 反対

- ・「男は仕事，女は家事・育児」という考え方については，賛成が反対をわずかに上回る
- ・賛成が男女共に前回より減少

「男は仕事，女は家事・育児」という考え方についてみると，賛成（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計）が48.9%，反対（「反対」と「どちらかといえば反対」の合計）が47.0%となっており，賛成がわずかに上回っている。

性別で見ると，賛成（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計）する男性（56.5%）は女性（44.2%）がよりも12.3%上回っている。逆に，反対（「反対」と「どちらかといえば反対」）とする女性（51.6%）は男性（40.2%）よりも11.4%上回っている。

前回と比較すると，「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計では男女共に減少しているが，女性では「賛成」と回答した人が5.9%増加している。

図3-1 性別 「男は仕事，女は家事・育児」という考え方について

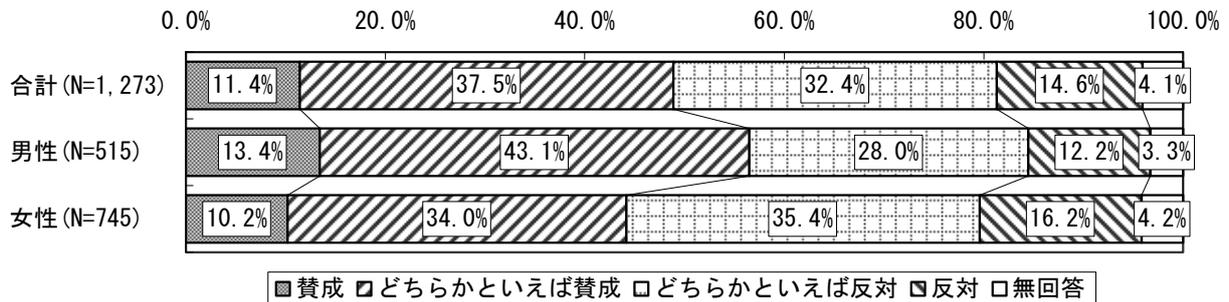
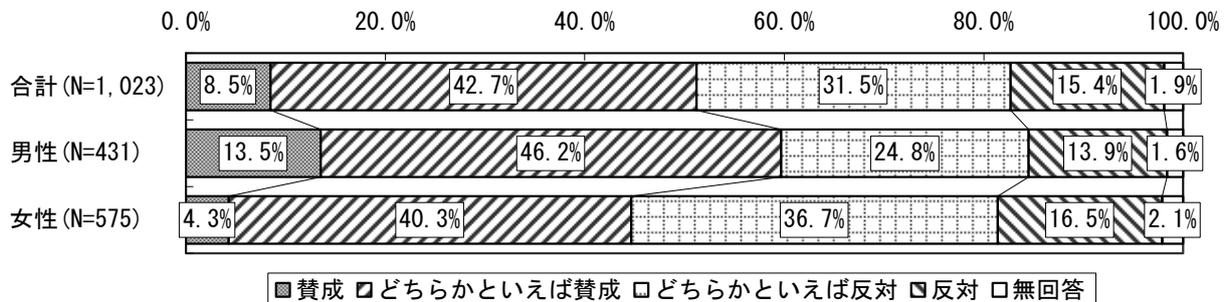


図3-2 性別 「男は仕事，女は家事・育児」という考え方について【前回調査】



性別・年齢別に「男は仕事，女は家事・育児」という考え方についてみると，20歳代，30歳代の男性は反対（「反対」と「どちらかといえば反対」の合計）が賛成（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計）を上回っているが，40歳代～70歳代以上の年齢層では，賛成が反対を上回っている。

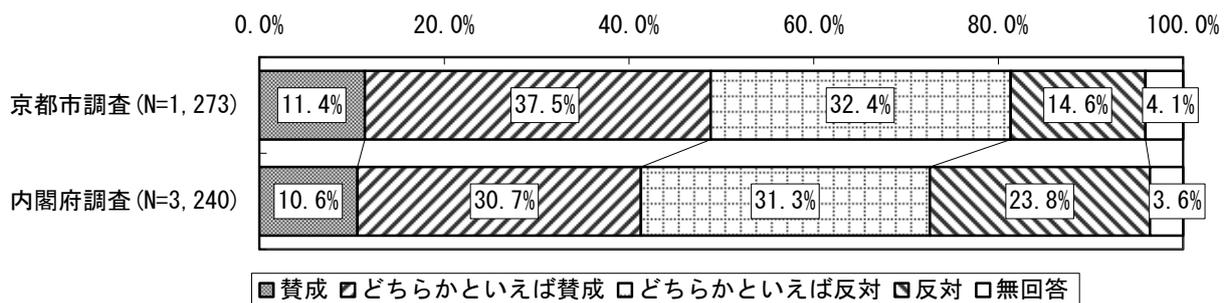
女性は20歳代から50歳代までは反対が賛成を上回っており，特に20歳代から40歳代までは，顕著である。

表3-1 性別・年齢別 「男は仕事，女は家事・育児」という考え方について

	賛成	どちらか といえば 賛成	どちらか といえば 反対	反対	無回答
男性(N=515)	13.4%	43.1%	28.0%	12.2%	3.3%
男性・20歳代(N=47)	10.6%	29.8%	34.0%	25.5%	0.0%
男性・30歳代(N=69)	11.6%	34.8%	31.9%	20.3%	1.4%
男性・40歳代(N=87)	11.5%	44.8%	28.7%	11.5%	3.4%
男性・50歳代(N=84)	8.3%	41.7%	29.8%	16.7%	3.6%
男性・60歳代(N=115)	12.2%	49.6%	26.1%	7.8%	4.3%
男性・70歳代以上(N=113)	22.1%	46.9%	23.0%	3.5%	4.4%
女性(N=745)	10.2%	34.0%	35.4%	16.2%	4.2%
女性・20歳代(N=71)	12.7%	22.5%	40.8%	22.5%	1.4%
女性・30歳代(N=126)	2.4%	34.1%	38.9%	19.8%	4.8%
女性・40歳代(N=116)	5.2%	29.3%	43.1%	19.8%	2.6%
女性・50歳代(N=111)	10.8%	36.0%	37.8%	10.8%	4.5%
女性・60歳代(N=171)	12.9%	36.3%	30.4%	18.1%	2.3%
女性・70歳代以上(N=149)	15.4%	38.9%	28.2%	9.4%	8.1%

内閣府調査と比較すると，京都市調査は「どちらかといえば賛成」が37.5%と内閣府調査より6.8%多く，「反対」が14.6%と内閣府調査より9.2%少ない。

図3-3 「男は仕事，女は家事・育児」という考え方について【平成21年度内閣府調査との比較】



2-4 子どもに身につけさせたい能力

問4 あなたは、子どもにどのような能力を身につけさせたいと思いますか。「男子」、「女子」それぞれの場合について、あてはまる番号に○をつけてください。子どもがいない方も、一般的な考えをお答えください。

【それぞれ3つまでに○】

- | | | | |
|-----------|----------|----------|-----------|
| 1 礼儀作法 | 2 家事能力 | 3 職業能力 | 4 リーダーシップ |
| 5 協調性 | 6 実行力 | 7 たくましさ | 8 やさしさ |
| 9 国際感覚 | 10 おもいやり | 11 自立心 | 12 忍耐力 |
| 13 男女平等意識 | 14 その他 | 15 わからない | |

- ・男子・女子共に「礼儀作法」が最も多く、次いで「おもいやり」
- ・男子で多いのは「実行力」「たくましさ」、女子で多いのは「家事能力」「やさしさ」など

子どもに身につけさせたい能力をみると、男子・女子共に「礼儀作法」が最も多く、次いで「おもいやり」となっている。男子と女子で大きな差が出ている項目は、「実行力」(17.8ポイント差)、「たくましさ」(17.0ポイント差)などでは男子が女子に比べて多く、「家事能力」(25.2ポイント差)、「やさしさ」(28.2ポイント差)などでは女子が男子に比べて多い。

性別でみると、男性の回答は、男子、女子共に「礼儀作法」(男子49.7%、女子60.6%)が最も多く、次いで「おもいやり」(男子44.5%、女子55.7%)、男子が「自立心」(35.9%)、女子が「やさしさ」(53.2%)となっている。女性の回答は、男子、女子共に「おもいやり」(男子47.0%、女子64.2%)が最も多く、次いで「礼儀作法」(男子44.3%、女子61.6%)、男子が「自立心」(40.5%)、女子が「やさしさ」(39.1%)となっている。

前回と比較すると、男子で「たくましさ」や「おもいやり」が、女子で「やさしさ」や「おもいやり」が増加している。

図 4-1 性別 子どもに身につけさせたい能力（男子）

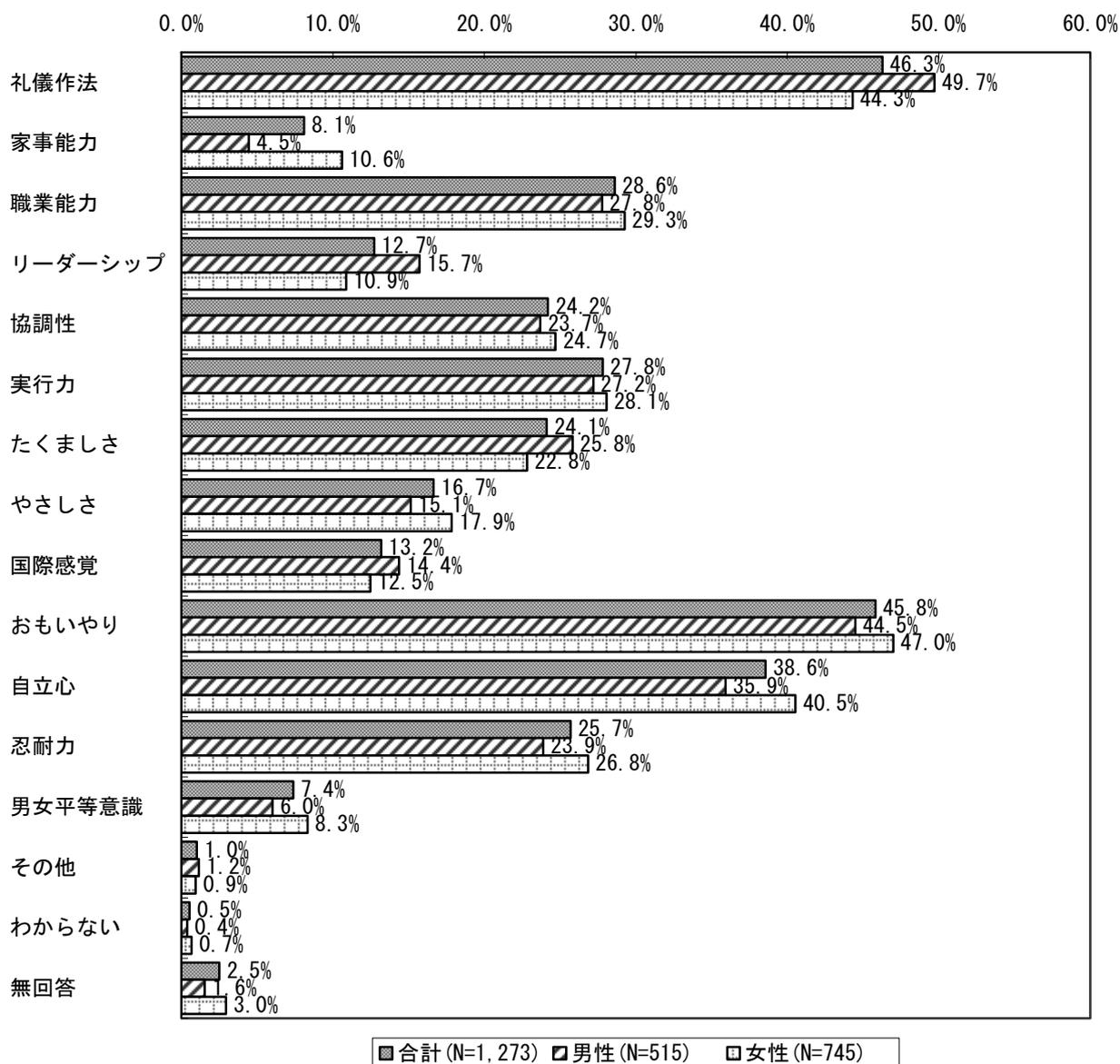


図 4-2 性別 子どもに身につけさせたい能力（女子）

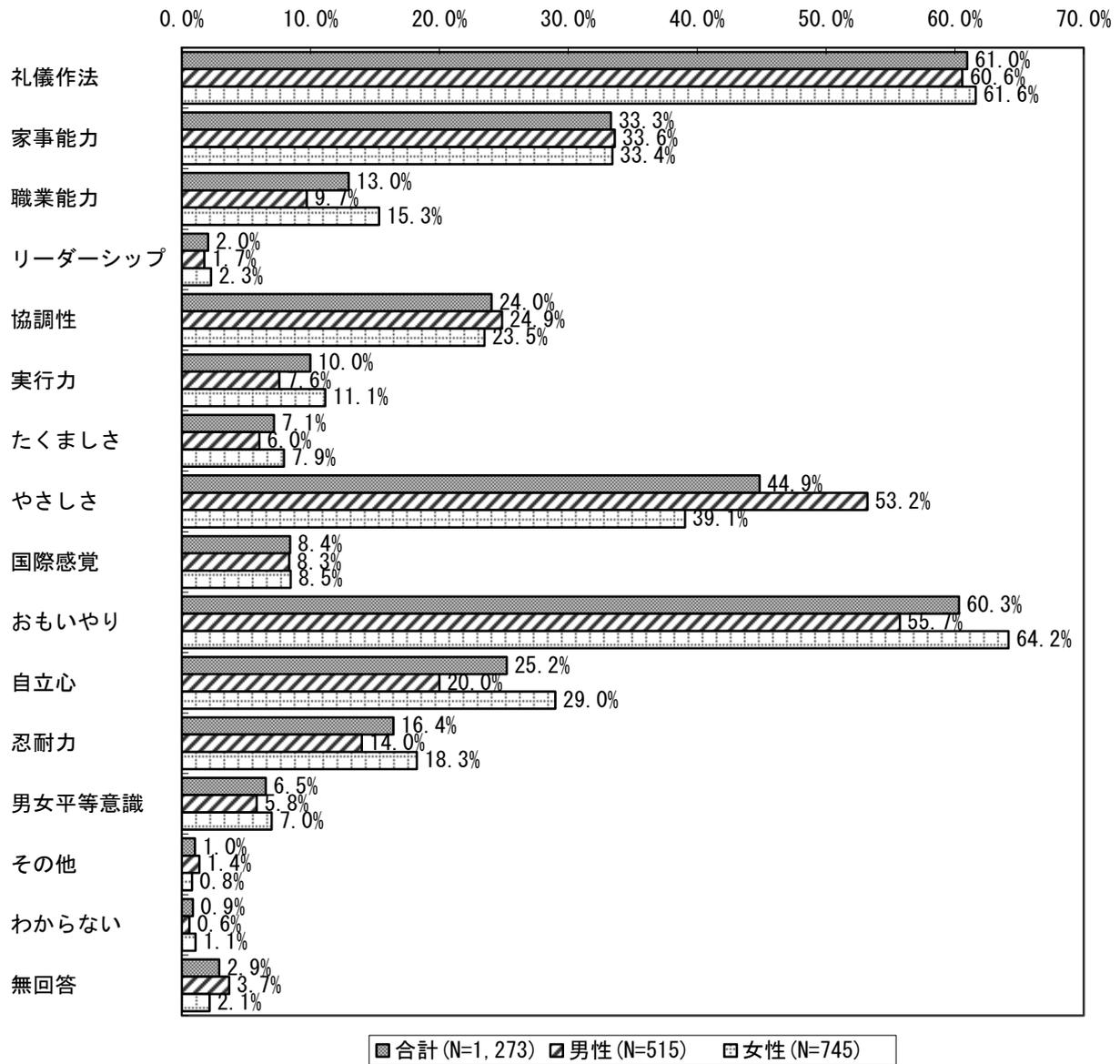


図4-3 性別 子どもに身につけさせたい能力（男子）【前回調査】

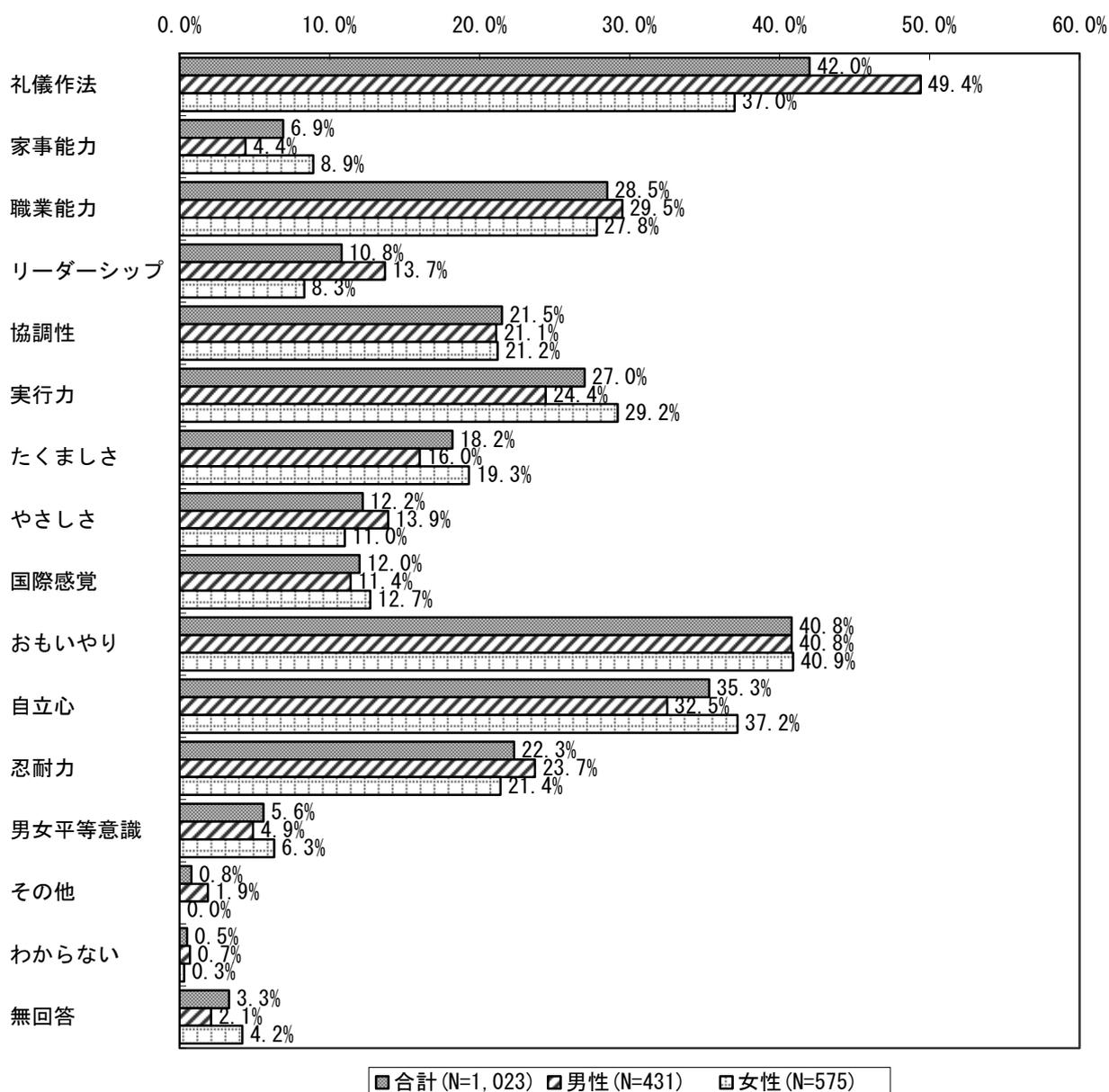
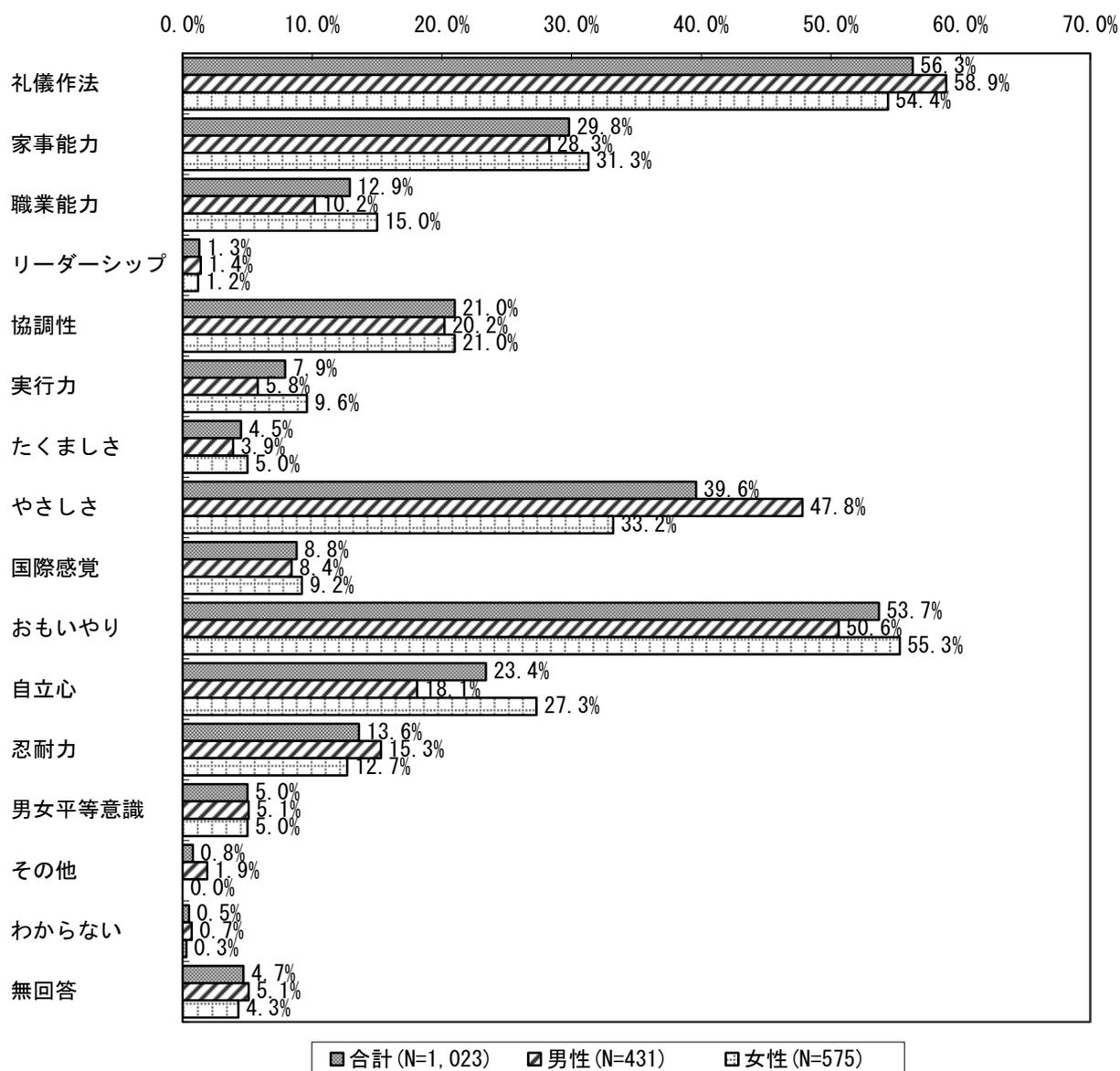


図4-4 性別 子どもに身につけさせたい能力（女子）【前回調査】



2-5 女性の人権が尊重されていないと思うこと

問5 次のうち、あなたが「女性の人権が尊重されていない」ことだと思うものはどれですか。【あてはまるものすべてに○】

- 1 買春・売春，援助交際
- 2 風俗産業
- 3 ストーカー（つきまとい）行為
- 4 痴漢行為や強制わいせつ等の性犯罪
- 5 夫婦や恋人等のパートナー間での暴力（ドメスティック・バイオレンス）
- 6 職場におけるセクシュアル・ハラスメント
- 7 募集・採用や昇進・昇給における性別による差別的な取扱い
- 8 女性のヌードや水着姿の写真を掲載又は使用した雑誌や広告
- 9 インターネット上のアダルト向けホームページ
- 10 女性の容ぼうを競うミス・コンテスト
- 11 「女流○○」，「○○女史」のように女性にだけ用いられる言葉
- 12 伝統行事や文化の中で女性を受け入れないものがあること
- 13 その他（具体的に： _____)
- 14 特にない
- 15 わからない

男女共に「痴漢行為や強制わいせつ等の性犯罪」が最も多く、次いで「募集・採用や昇進・昇級における性別による差別的な取扱い」「夫婦や恋人等のパートナー間での暴力」となっている

女性の人権が尊重されていないと思うことについてみると、「痴漢行為や強制わいせつ等の性犯罪」が59.8%と最も多く、次いで「募集・採用や昇進・昇給における性別による差別的な取扱い」（56.6%）、「夫婦や恋人等のパートナー間での暴力」（51.6%）となっている。

性別でみると、「夫婦や恋人等のパートナー間での暴力」と「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」で男女間の差が大きい。

前回と比較すると、「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」や「募集・採用や昇進・昇給における性別による差別的な取扱い」などがやや増加しており、一方で「買春・売春，援助交際」や「風俗産業」などは減少している。

図5-1 性別 女性の人権が尊重されていないと思うこと

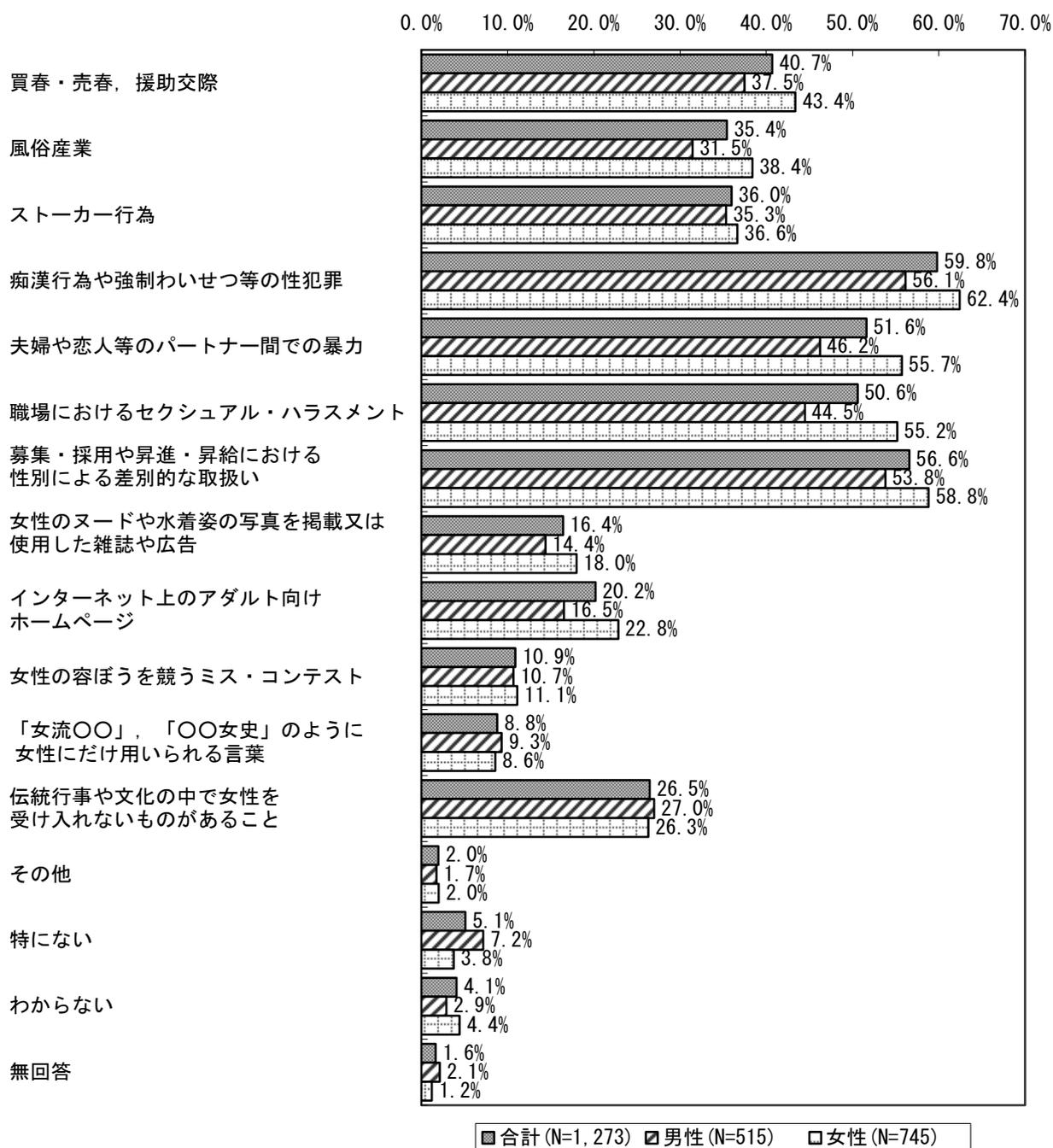
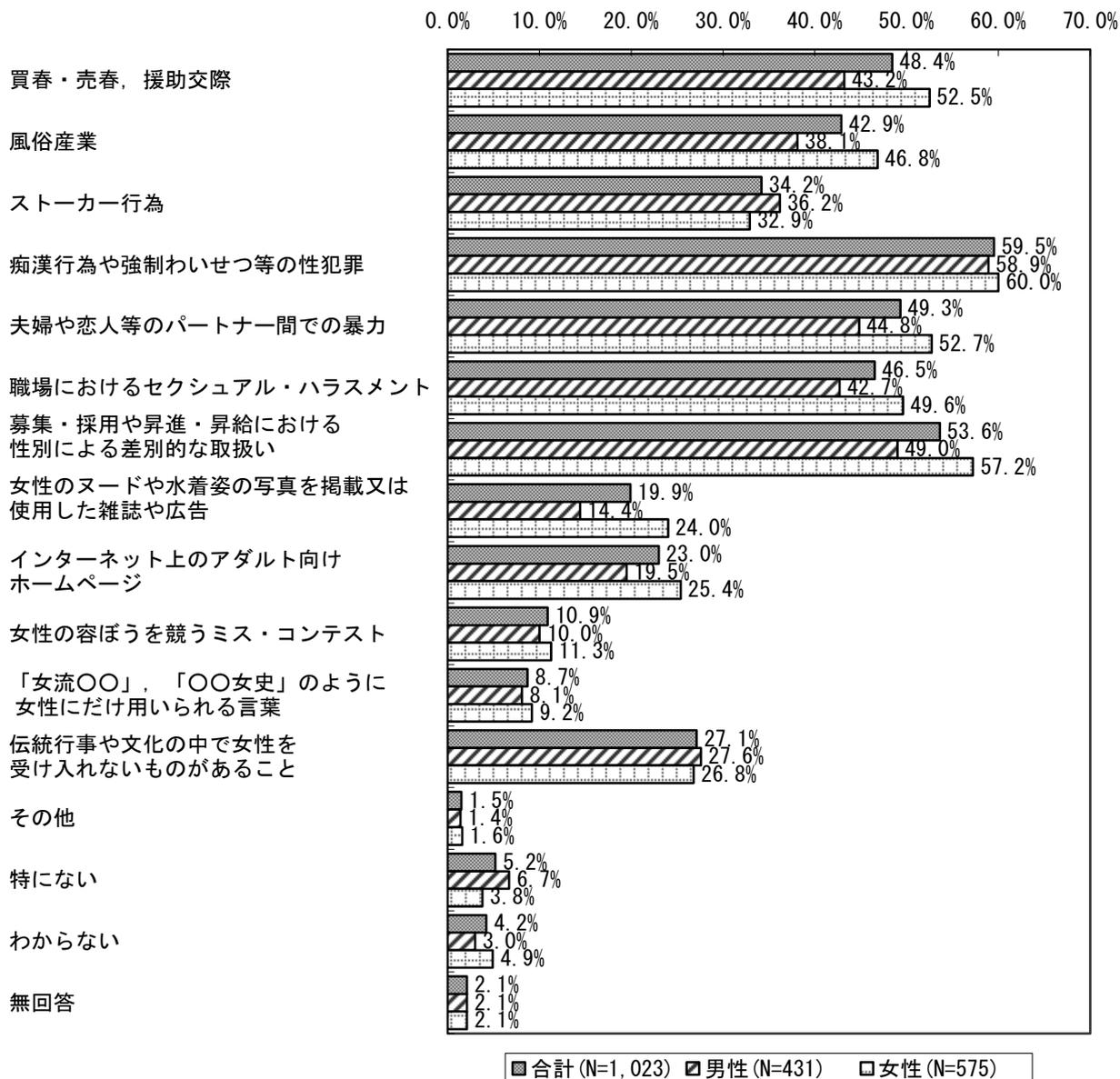


図5-2 性別 女性の人権が尊重されていないと思うこと【前回調査】



2-6 政策・方針決定における男女平等な参画について

問6 議員や審議会委員などに占める女性の割合は、全国的に、依然として低いのが現状です。あなたは、今後、こうした政策・方針を決定する場に男女が平等に参画していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。【3つまでに○】

- 1 男女の意見を等しく政策・方針に反映していくことの大切さを広く啓発する
- 2 審議会などの女性委員の目標比率を設定し、それを達成する
- 3 家庭・地域・職場など日常的な場での男性優位の意識や実態を解消する
- 4 家事や子育てなど家庭内での責任を男女がバランスよく分かちあう
- 5 女性の学習・研修・能力開発の機会を充実させる
- 6 男性が男女共同参画について学ぶ講座等の学習機会を充実させる
- 7 女性の活動を支援するネットワークづくりを促進する
- 8 女性自らが政策・方針を決定する場に参画することに関心や積極性を持つ
- 9 その他（具体的に： _____）
- 10 特別な取組は必要ない
- 11 わからない

- ・「女性自らが政策・方針を決定する場に参画することに関心や積極性を持つ」が最も多く、次いで「家事や子育てなど家庭内での責任を男女がバランスよく分かちあう」となっている
- ・「家事や子育てなど家庭内での責任を男女がバランスよく分かちあう」が増加

政策・方針決定における男女平等な参画についてみると、「女性自らが政策・方針を決定する場に参画することに関心や積極性を持つ」が43.1%と最も多く、次いで「家事や子育てなど家庭内での責任を男女がバランスよく分かちあう」(42.3%)、「男女の意見を等しく政策・方針に反映していくことの大切さを広く啓発する」(37.3%)となっている。

性別で見ると、男性では「女性自らが政策・方針を決定する場に参画することに関心や積極性を持つ」が44.5%と最も多く、次いで「男女の意見を等しく政策・方針に反映していくことの大切さを広く啓発する」(39.6%)、「家事や子育てなど家庭内での責任を男女がバランスよく分かちあう」(38.6%)となっている。女性では「家事や子育てなど家庭内での責任を男女がバランスよく分かちあう」が44.8%と最も多く、次いで「女性自らが政策・方針を決定する場に参画することに関心や積極性を持つ」(42.3%)、「男女の意見を等しく政策・方針に反映していくことの大切さを広く啓発する」(36.2%)となっている。

前回と比較すると、「家事や子育てなど家庭内での責任を男女がバランスよく分かちあう」で男性が12.8ポイント、女性が5.5ポイント増加している。

図6-1 性別 政策・方針決定における男女平等な参画について

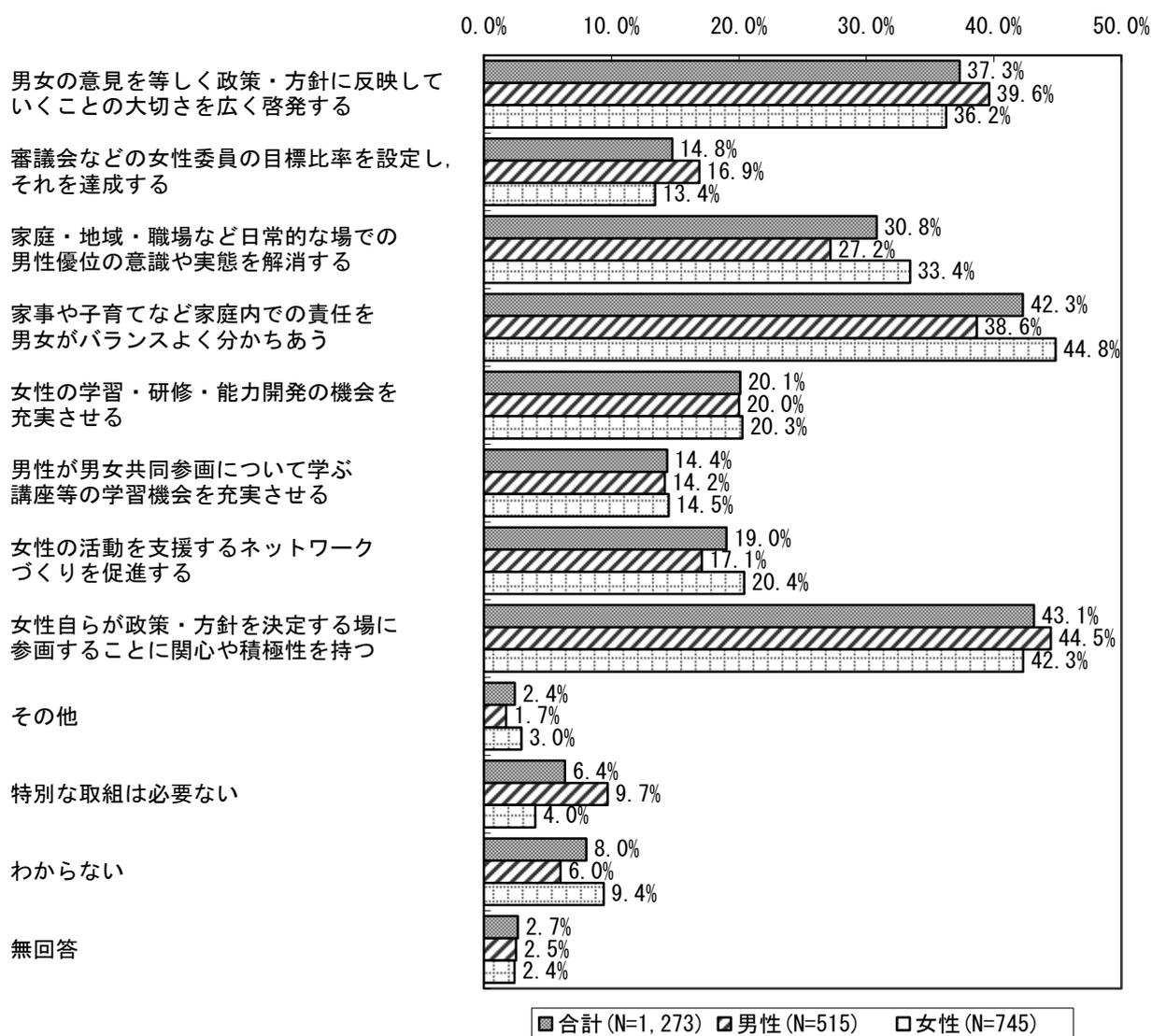
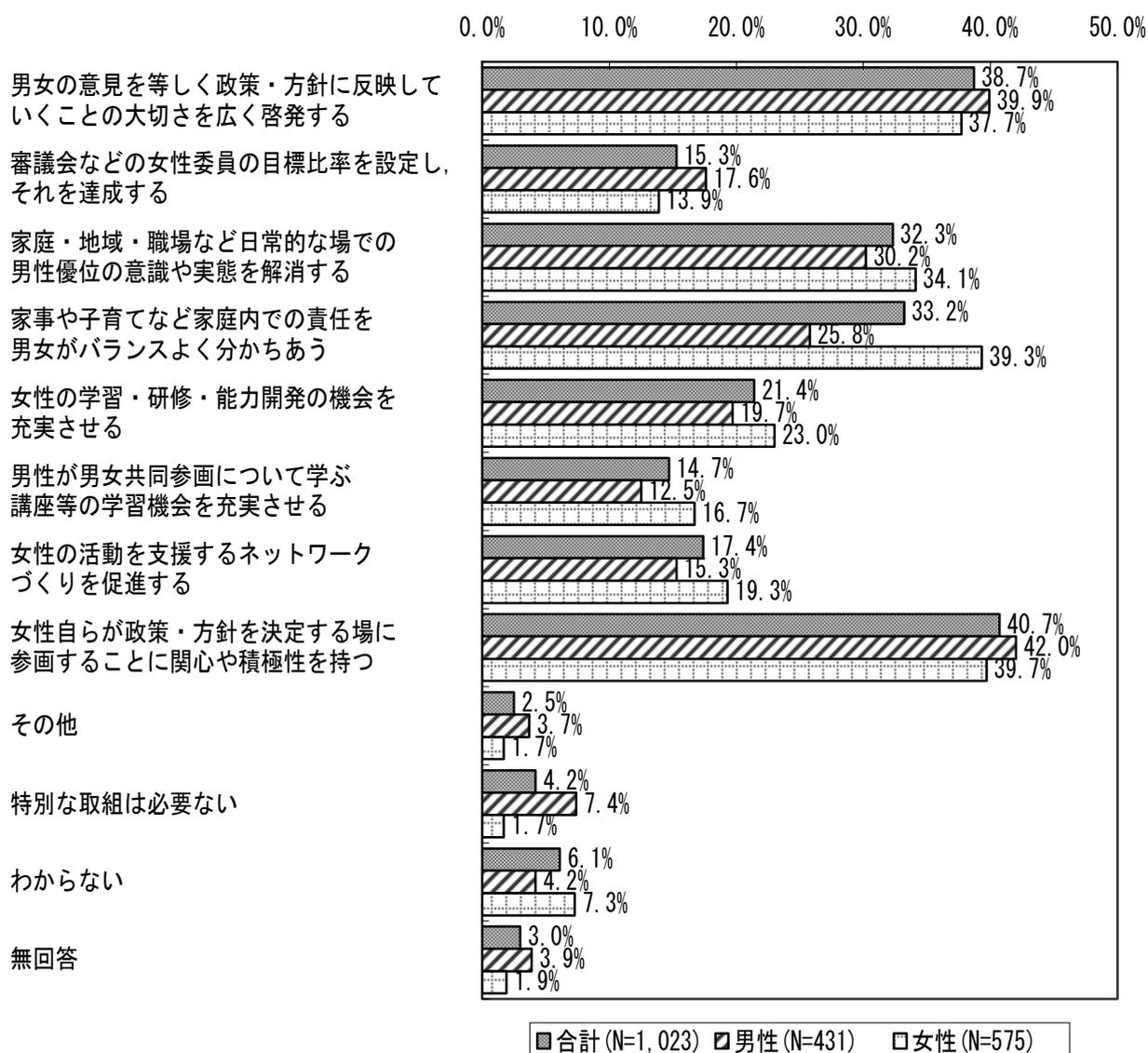


図6-2 性別 政策・方針決定における男女平等な参画について【前回調査】



2-7 用語の認知度

問7 あなたは、次の名称や言葉について御存知ですか。【それぞれ1つに○】

- (1) 男女共同参画社会基本法（1999年）
- (2) 京都市男女共同参画推進条例（2003年）
- (3) 男女雇用機会均等法（1999年改正）
- (4) 労働基準法（1999年改正）
- (5) 育児・介護休業法（2005年改正）

「男女共同参画社会基本法」「京都市男女共同参画推進条例」の認知度が低い

用語の認知度をみると、「男女雇用機会均等法」「労働基準法」「育児・介護休業法」は「内容をよく知っている」と「少しは内容を知っている」の合計が50%を超えており認知度が高い。一方、「男女共同参画社会基本法」「京都市男女共同参画推進条例」は「知らない」が50%を超えており、認知度が低くなっている。

性別でみると、男女共に「男女共同参画社会基本法」と「京都市男女共同参画推進条例」は、「知らない」が最も多い。「育児・介護休業法」について、「内容をよく知っている」と「少しは内容を知っている」の合計は女性（60.4%）が男性（52.4%）に比べて多くなっている。「男女雇用機会均等法」「労働基準法」については、同率あるいは男性がやや上回っている。

前回と比較すると、男性では「男女共同参画社会基本法」及び「京都市男女共同参画推進条例」が共に認知度が低下している。

図7-1 性別 用語の認知度「男女共同参画社会基本法」

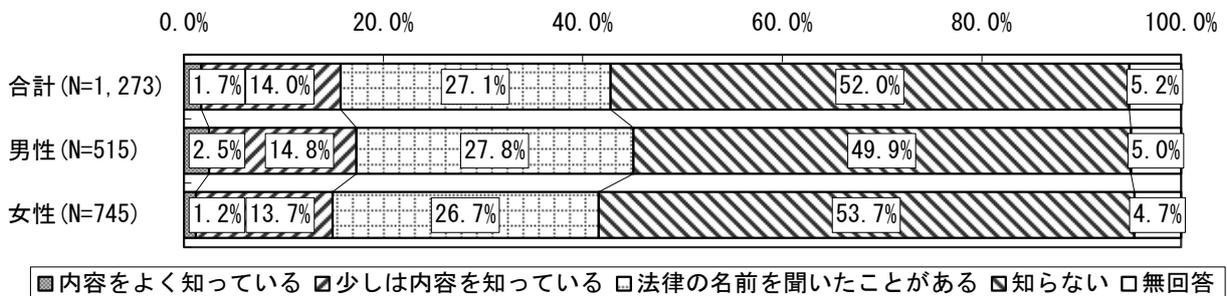


図7-2 性別 用語の認知度「男女共同参画社会基本法」【前回調査】

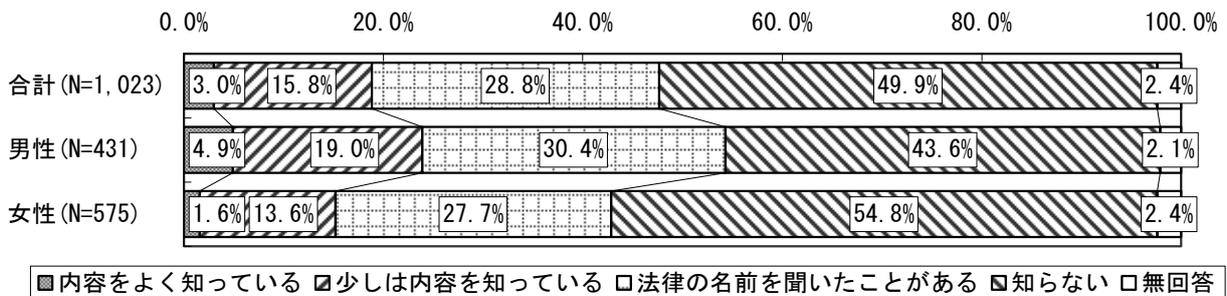


図7-3 性別 用語の認知度「京都市男女共同参画推進条例」

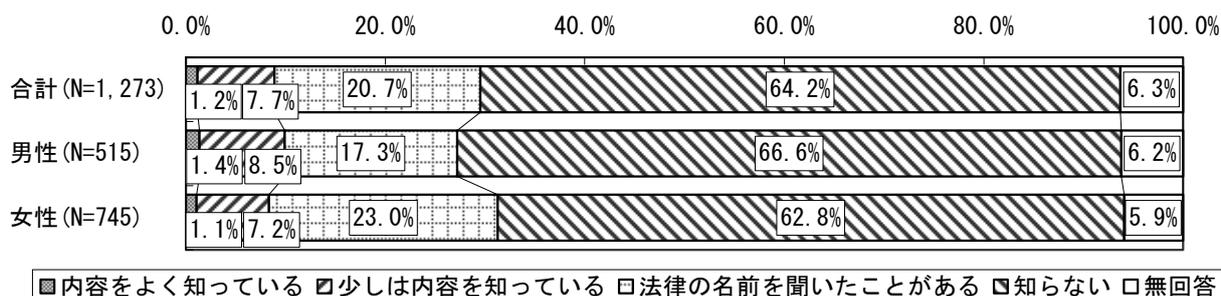


図7-4 性別 用語の認知度「京都市男女共同参画推進条例」【前回調査】

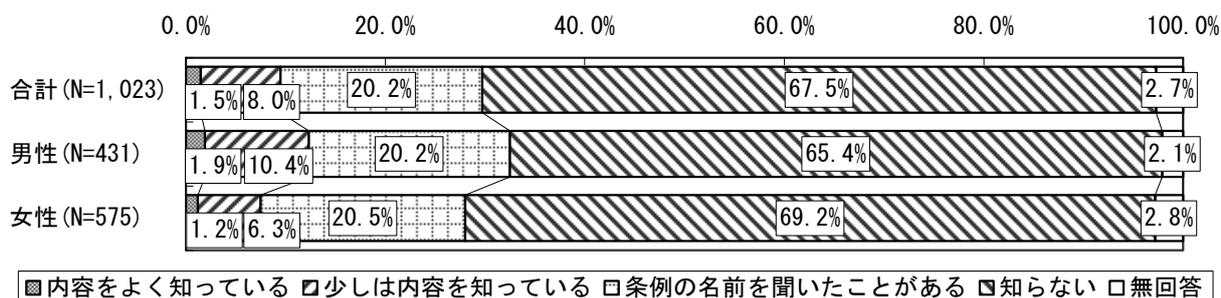


図7-5 性別 用語の認知度「男女雇用機会均等法」

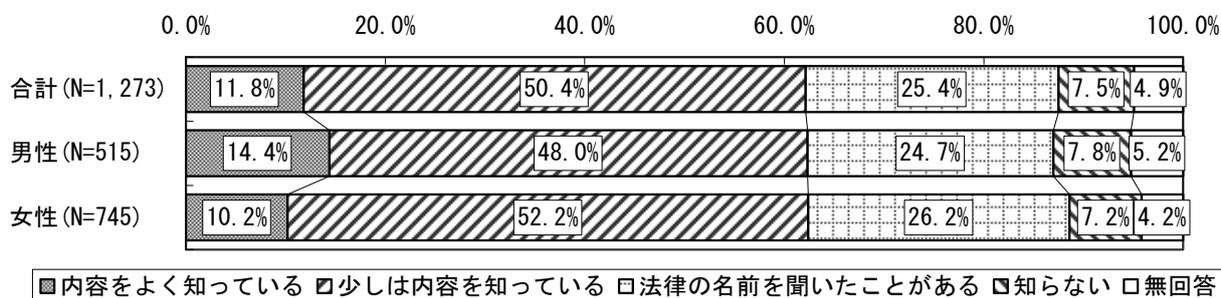


図7-6 性別 用語の認知度「労働基準法」

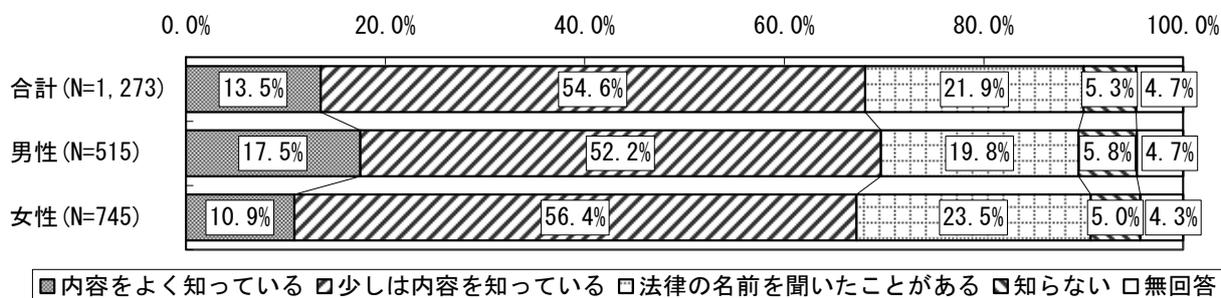
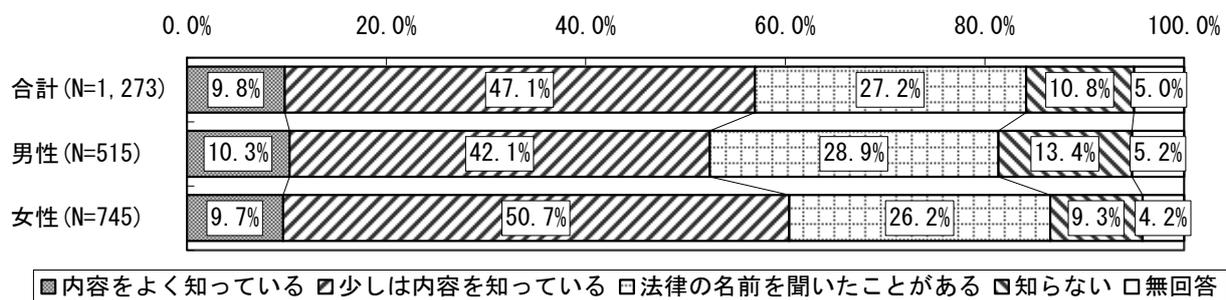


図 7-7 性別 用語の認知度「育児・介護休業法」



2-8 男女共同参画社会に期待すること

問8 あなたが「男女共同参画社会」に期待することは何ですか。【3つまでに○】

- 1 家庭生活において男女がともに家事や子育てに参加できる
- 2 男女がともに参加することで地域活動が活発になる
- 3 男女が支え合うことで高齢期を安心して過ごせる
- 4 自分の希望や能力に合った仕事をする事ができる
- 5 職場において賃金や待遇面での男女格差がなくなる
- 6 地域のお祭りや伝統文化、宗教上の儀式などに、男女の区別なく参加できる
- 7 性別にとらわれず子どもが個性豊かに育つ
- 8 男女がそれぞれの役割を果たし合う
- 9 何も希望することはない
- 10 わからない
- 11 その他（具体的に： _____)

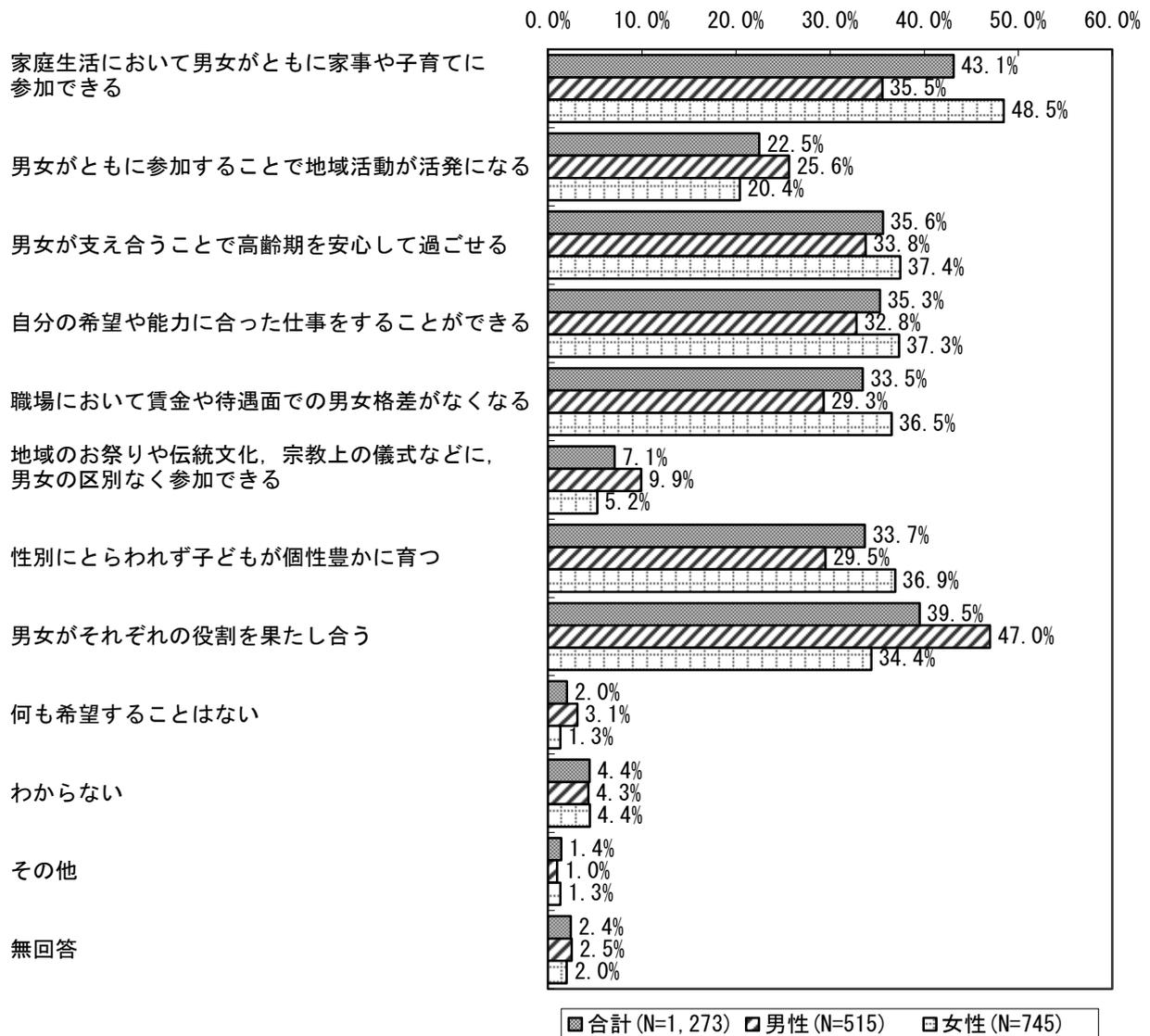
・「家庭生活において男女がともに家事や子育てに参加できる」が最も多く、次いで「男女がそれぞれの役割を果たし合う」となっている

・男性では「男女がそれぞれの役割を果たし合う」、女性では「家庭生活において男女がともに家事や子育てに参加できる」が最も多くなっている

男女共同参画社会に期待することをみると、「家庭生活において男女がともに家事や子育てに参加できる」が43.1%と最も多く、次いで「男女がそれぞれの役割を果たし合う」(39.5%)、「男女が支え合うことで高齢期を安心して過ごせる」(35.6%)となっている。

性別でみると、男性は、「男女がそれぞれの役割を果たし合う」が47.0%と最も多く、次いで「家庭生活において男女がともに家事や子育てに参加できる」(35.5%)となっている。女性は、「家庭生活において男女がともに家事や子育てに参加できる」(48.5%)が最も多く、次いで「男女が支え合うことで高齢期を安心して過ごせる」(37.4%)、「自分の希望や能力に合った仕事をする事ができる」(37.3%)となっている。また、男女で大きな差が見られるのは「家庭生活において男女がともに家事や子育てに参加できる」「男女がそれぞれの役割を果たし合う」となっている。

図8 性別 男女共同参画社会に期待すること



性別・年齢別に男女共同参画社会に期待することをみると、男性の30歳代では「家庭生活において男女がともに家事や子育てに参加できる」が最も多く、40歳代～70歳代以上では「男女がそれぞれの役割を果たし合う」が最も多い。女性の20歳代～50歳代では「家庭生活において男女がともに家事や子育てに参加できる」が最も多く、また、50歳代までの世代においては女性の方が「職場において賃金や待遇面での男女格差がなくなる」で男性に比べて多くなっている。

表8 性別・年齢別 男女共同参画社会に期待すること

	家庭生活において男女がともに家事や子育てに参加できる	男女がともに参加する地域活動になる	男女がえ合うと期待させる	支え合う高年齢を安心して過ごすことができる	自分や希望に合った仕事ができる	希能力を十分に発揮できる	職場において賃金や待遇面での格差がなくなる	お金の面で男女が格差なく参加できる	地域のお祭りや伝統文化、宗教上の儀式などに、男女が参加できる
男性(N=515)	35.5%	25.6%	33.8%	32.8%	29.3%	9.9%			
男性・20歳代(N=47)	44.7%	14.9%	14.9%	46.8%	31.9%	4.3%			
男性・30歳代(N=69)	55.1%	26.1%	15.9%	34.8%	42.0%	5.8%			
男性・40歳代(N=87)	28.7%	19.5%	24.1%	31.0%	27.6%	11.5%			
男性・50歳代(N=84)	33.3%	21.4%	32.1%	40.5%	31.0%	8.3%			
男性・60歳代(N=115)	35.7%	31.3%	46.1%	27.0%	27.0%	11.3%			
男性・70歳代以上(N=113)	26.5%	31.9%	48.7%	27.4%	23.0%	13.3%			
女性(N=745)	48.5%	20.4%	37.4%	37.3%	36.5%	5.2%			
女性・20歳代(N=71)	59.2%	11.3%	29.6%	54.9%	46.5%	4.2%			
女性・30歳代(N=126)	65.9%	13.5%	27.8%	37.3%	53.2%	4.0%			
女性・40歳代(N=116)	49.1%	25.0%	19.8%	47.4%	41.4%	1.7%			
女性・50歳代(N=111)	47.7%	19.8%	38.7%	45.0%	45.0%	3.6%			
女性・60歳代(N=171)	42.1%	23.4%	47.4%	27.5%	26.9%	8.2%			
女性・70歳代以上(N=149)	36.2%	24.2%	50.3%	26.2%	18.8%	7.4%			
	性別にとらわれず子どもが個性豊かに育つ	男女がそれぞれの役割を果たし合う	何も希望することはない	わからない	その他				
男性(N=515)	29.5%	47.0%	3.1%	4.3%	1.0%				
男性・20歳代(N=47)	40.4%	40.4%	4.3%	0.0%	2.1%				
男性・30歳代(N=69)	27.5%	39.1%	2.9%	7.2%	1.4%				
男性・40歳代(N=87)	34.5%	41.4%	4.6%	2.3%	3.4%				
男性・50歳代(N=84)	22.6%	53.6%	3.6%	3.6%	0.0%				
男性・60歳代(N=115)	27.0%	51.3%	3.5%	2.6%	0.0%				
男性・70歳代以上(N=113)	30.1%	49.6%	0.9%	8.0%	0.0%				
女性(N=745)	36.9%	34.4%	1.3%	4.4%	1.3%				
女性・20歳代(N=71)	35.2%	25.4%	0.0%	2.8%	1.4%				
女性・30歳代(N=126)	39.7%	15.9%	0.8%	3.2%	0.8%				
女性・40歳代(N=116)	44.8%	35.3%	2.6%	2.6%	1.7%				
女性・50歳代(N=111)	34.2%	36.9%	1.8%	2.7%	0.0%				
女性・60歳代(N=171)	31.6%	42.1%	1.2%	4.1%	2.3%				
女性・70歳代以上(N=149)	36.9%	43.0%	1.3%	9.4%	1.3%				

Ⅲ 家庭生活や地域活動について

3-1 家庭での役割分担

問9 あなたのご家庭では、次のことがらは主にどなたが担当・決定されていますか。
【それぞれ1つに○】

▼食事

- (1) 食事の仕度（料理） (2) 食事のあとかたづけ（食器洗い）

▼家庭の管理と運営

- (1) 食料品や日用品の買い物 (2) そうじ (3) 洗濯
(4) ごみ出し (5) 高額な家財道具の購入 (6) 住宅の購入
(7) 預貯金等の資産の運用

▼子どもと介護の必要な高齢者・障害者

- (1) 育児（乳幼児の世話） (2) 子どもの日常的なしつけ (3) 子どもとの遊び
(4) 子どもの教育方針（進学など） (5) 高齢者・障害者の実際の介護

- ・「食事」に関する分野は主に女性が担当している
- ・「家庭の管理と運営」に関する分野は「高額な家財道具の購入」「住宅の購入」以外は女性が中心
- ・「子どもと介護の必要な高齢者・障害者」に関する分野では、「子どもの教育方針」を除き、男性が担当する部分は非常に少ない

食事に関する分野について、性別で見ると、男性では、「配偶者」が5割弱～6割と最も多く、次いで「自分」が「配偶者」の2分の1以下となっている。女性では「自分」が全体の約7割を占め、次いで「その他の家族」となっていて、「自分」以外の全ての項目の回答率は1割未満となっている。

図9-1 性別 家庭での役割分担（食事の仕度）

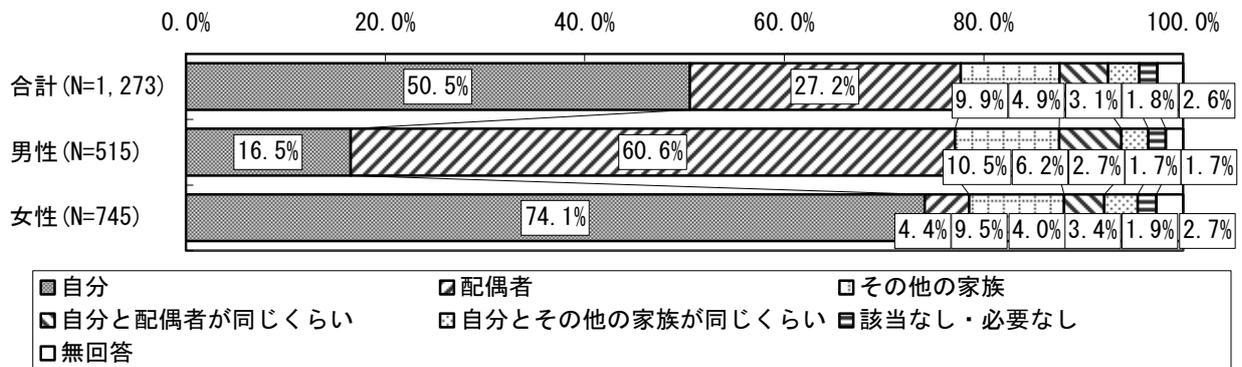
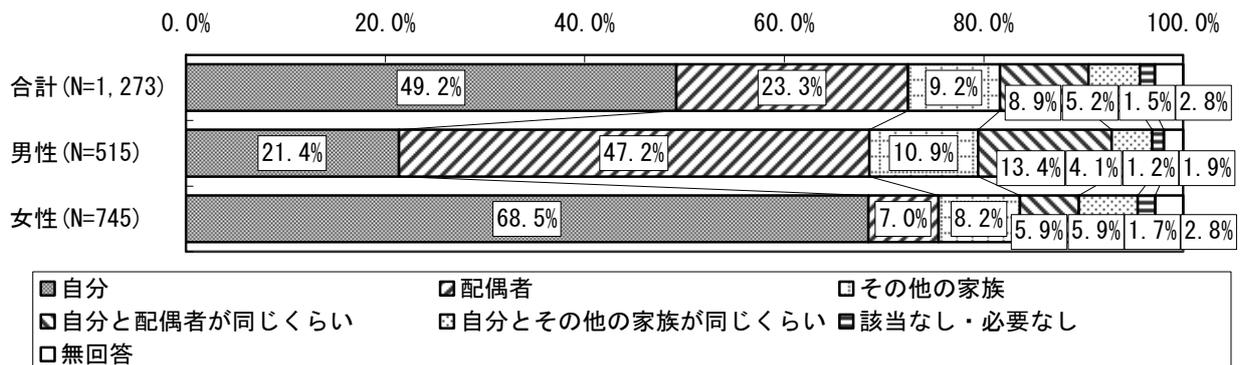


図9-2 性別 家庭での役割分担（食事のあとかたづけ）



「食料品や日用品の買い物」「そうじ」「洗濯」は、食事に関する分野と同様の傾向である。「ごみ出し」は男性で「自分」と回答した人が 36.5%おり、「配偶者」と回答した人（32.4%）をやや上回っている。「高額な家財道具の購入」「住宅の購入」「預貯金等の資産の運用」は、男性では、「自分」と回答した人が約 3 割と最も多い。女性では、「預貯金等の資産の運用」で「自分」が 41.7%と最も多いものの、「高額な家財道具の購入」や「住宅の購入」では「自分と配偶者が同じくらい」が最も多くなっている。

図 9-3 性別 家庭での役割分担（食料品や日用品の買い物）

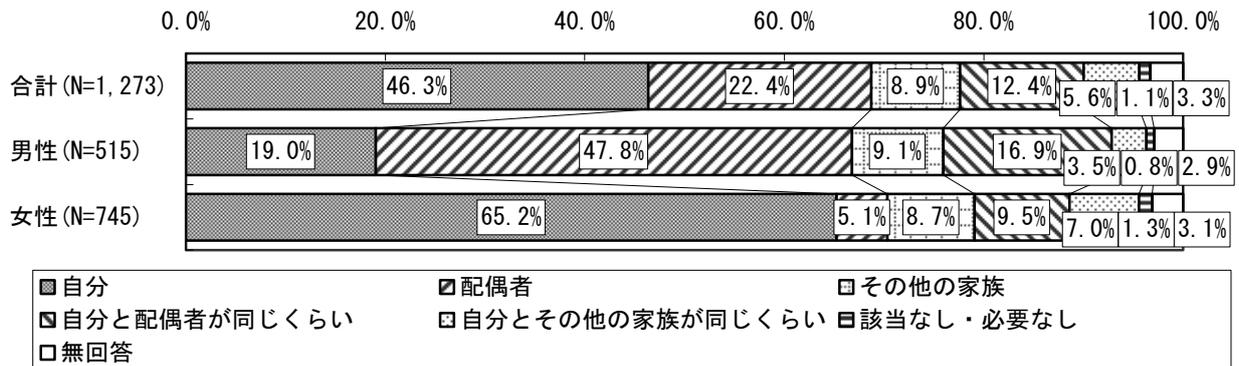


図 9-4 性別 家庭での役割分担（そうじ）

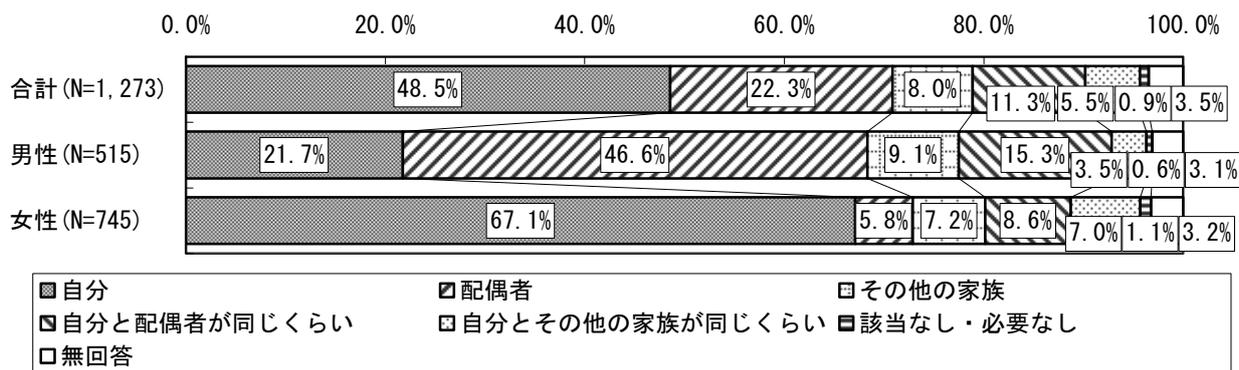


図 9-5 性別 家庭での役割分担（洗濯）

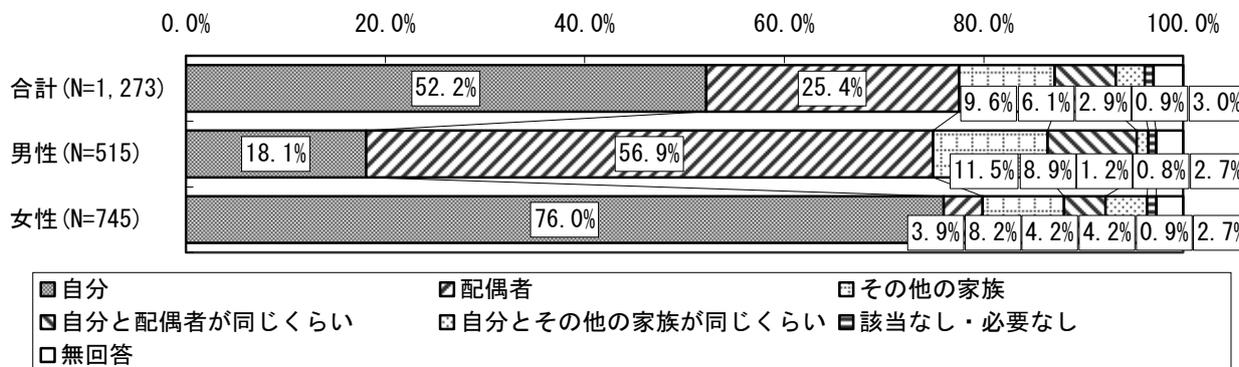


図9-6 性別 家庭での役割分担（ごみ出し）

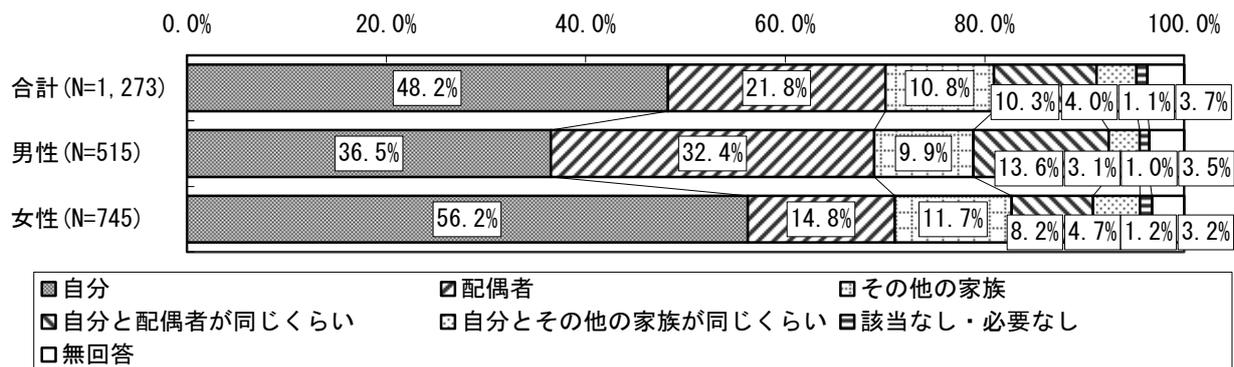


図9-7 性別 家庭での役割分担（高額な家財道具の購入）

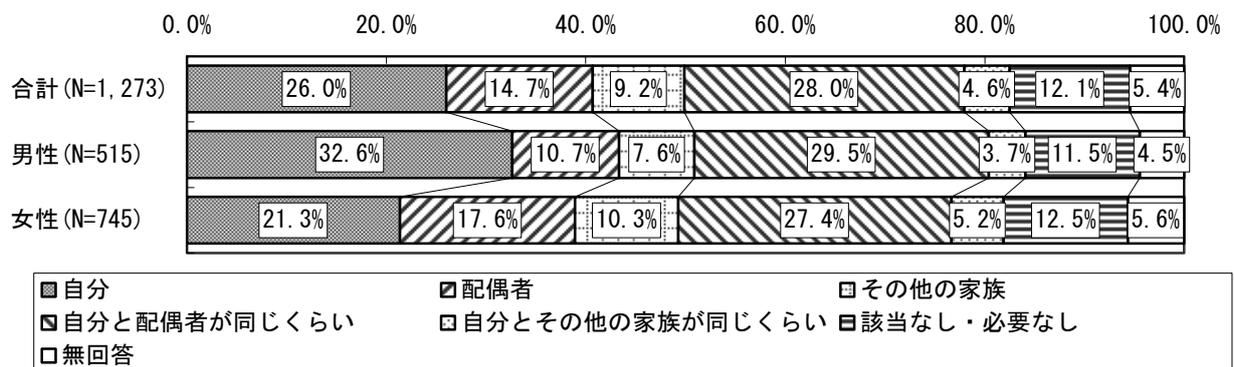


図9-8 性別 家庭での役割分担（住宅の購入）

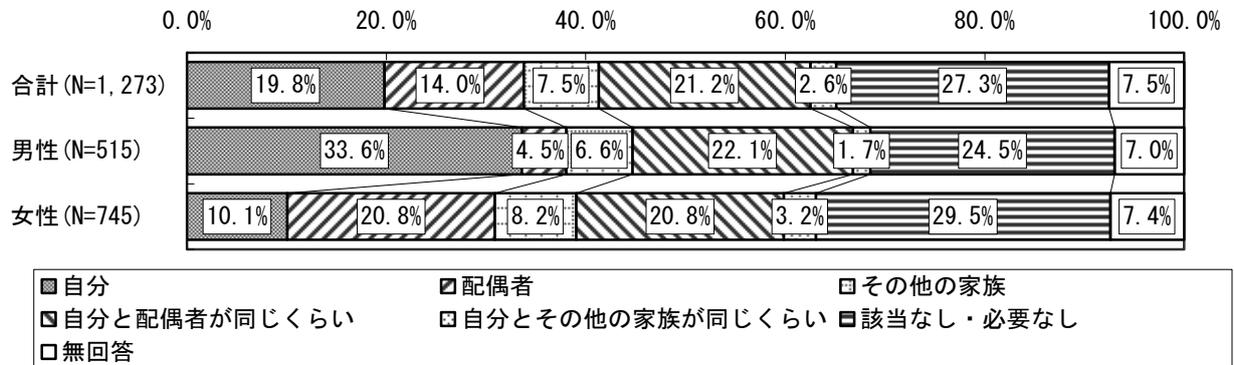
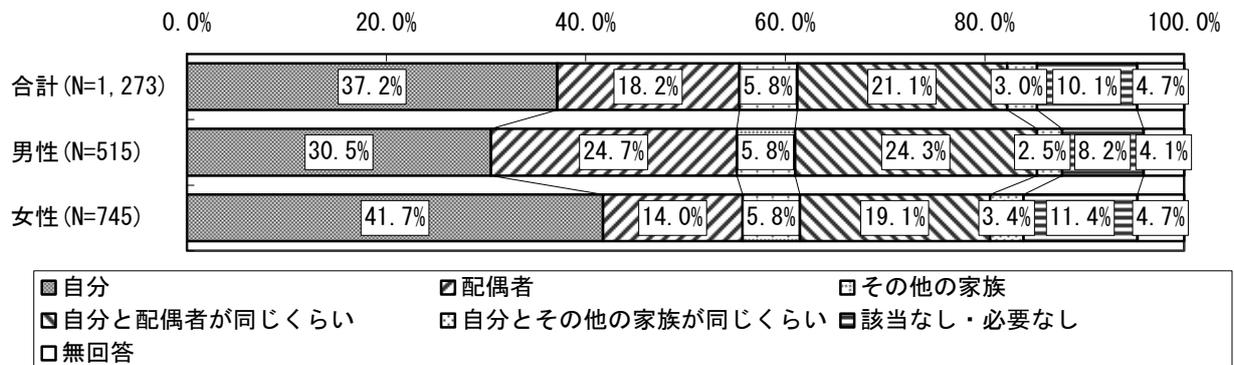


図9-9 性別 家庭での役割分担（預貯金等の資産の運用）



性別にみた子どもと介護の必要な高齢者・障害者に関する分野では、「該当なし・必要なし」を除くと、男性では「育児」「子どもの日常的なしつけ」「高齢者・障害者の実際の介護」で「配偶者」が最も多く、「子どもとの遊び」「子どもの教育方針」では「自分と配偶者が同じくらい」が最も多い。女性では「子どもの教育方針」では「自分と配偶者が同じくらい」、それ以外では「自分」が多い。また、「育児」「子どもの日常的なしつけ」で「自分」と答えた男性と女性の差が大きくなっている。

図9-10 性別 家庭での役割分担（育児）

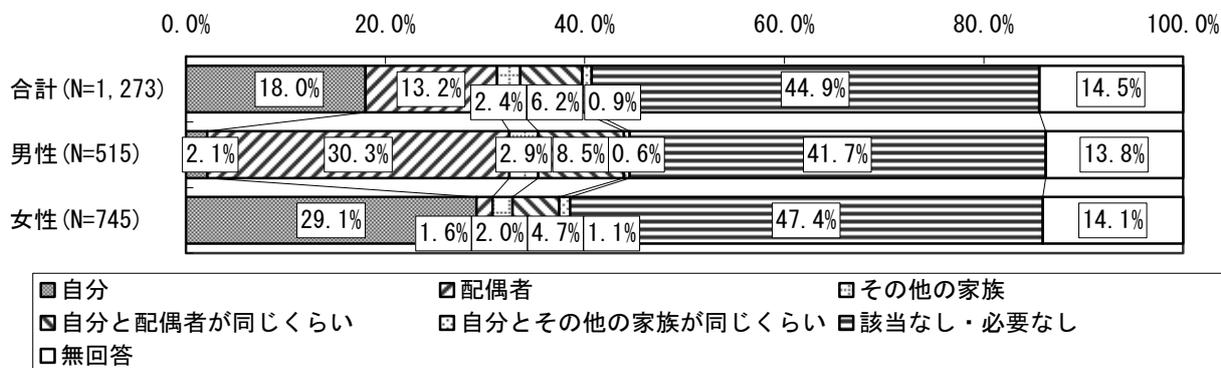


図9-11 性別 家庭での役割分担（子どもの日常的なしつけ）

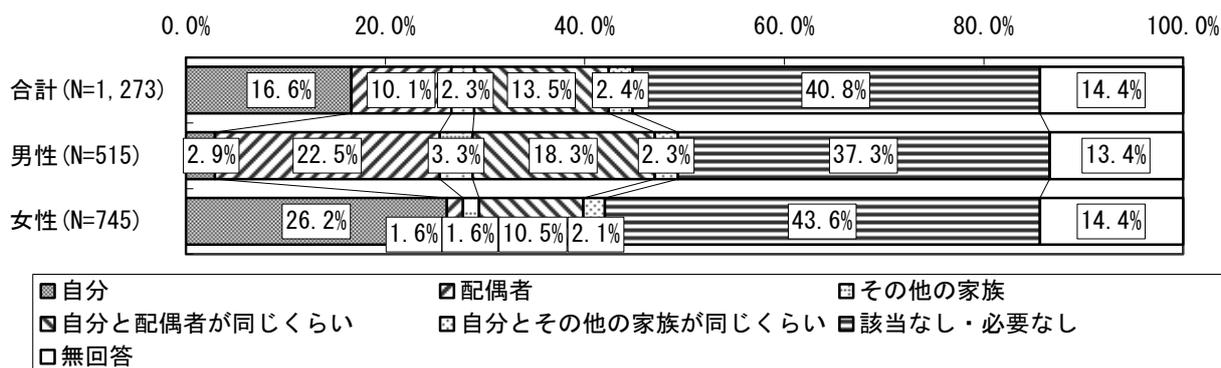


図9-12 性別 家庭での役割分担（子どもとの遊び）

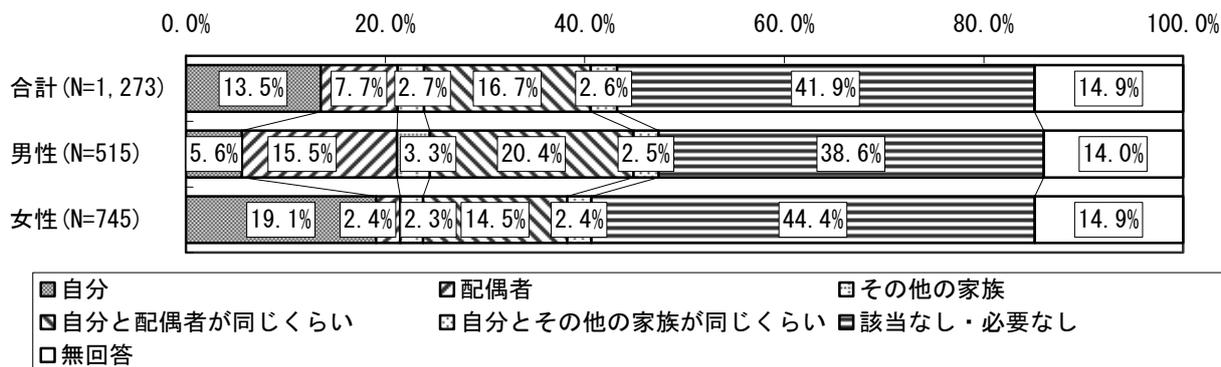


図 9-13 性別 家庭での役割分担（子どもの教育方針）

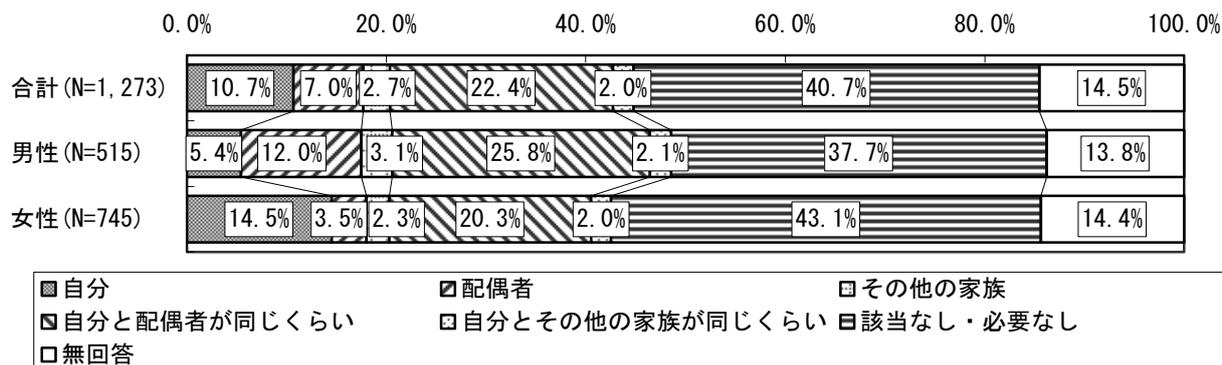
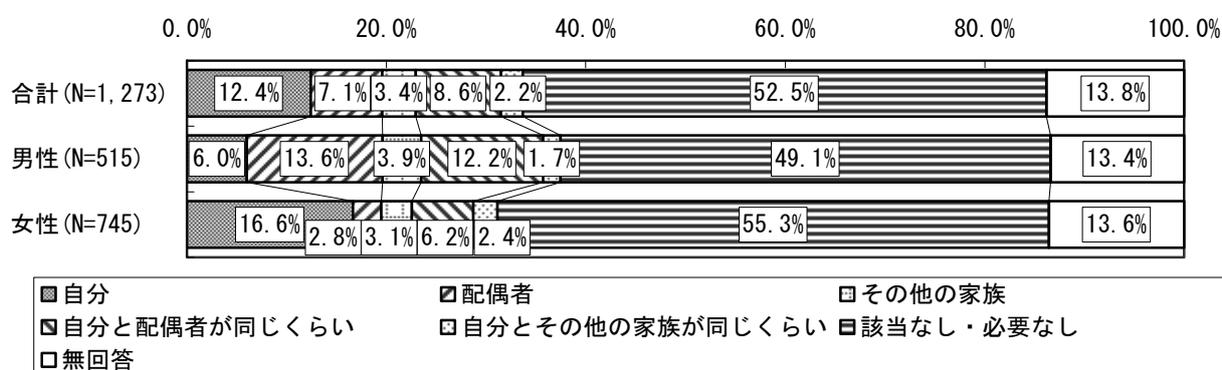


図 9-14 性別 家庭での役割分担（高齢者・障害者の実際の介護）



3-2 家族の協力が必要なこと

問10 問9でお答えいただいたことがらのうち、特に、あなたにとって負担であり、
家族の協力や手助けが必要と感じているものはどれですか。【3つまでに○】

- | | |
|--------------|-------------------|
| 1 食事の仕度（料理） | 2 食事のあとかたづけ（食器洗い） |
| 3 食料品や日用品の買物 | 4 そうじ |
| 5 洗濯 | 6 ごみ出し |
| 7 育児（乳幼児の世話） | 8 子どもの日常的なしつけ |
| 9 子どもとの遊び | 10 高齢者・障害者の実際の介護 |
| 11 特に必要ない | 12 やっていないのでわからない |

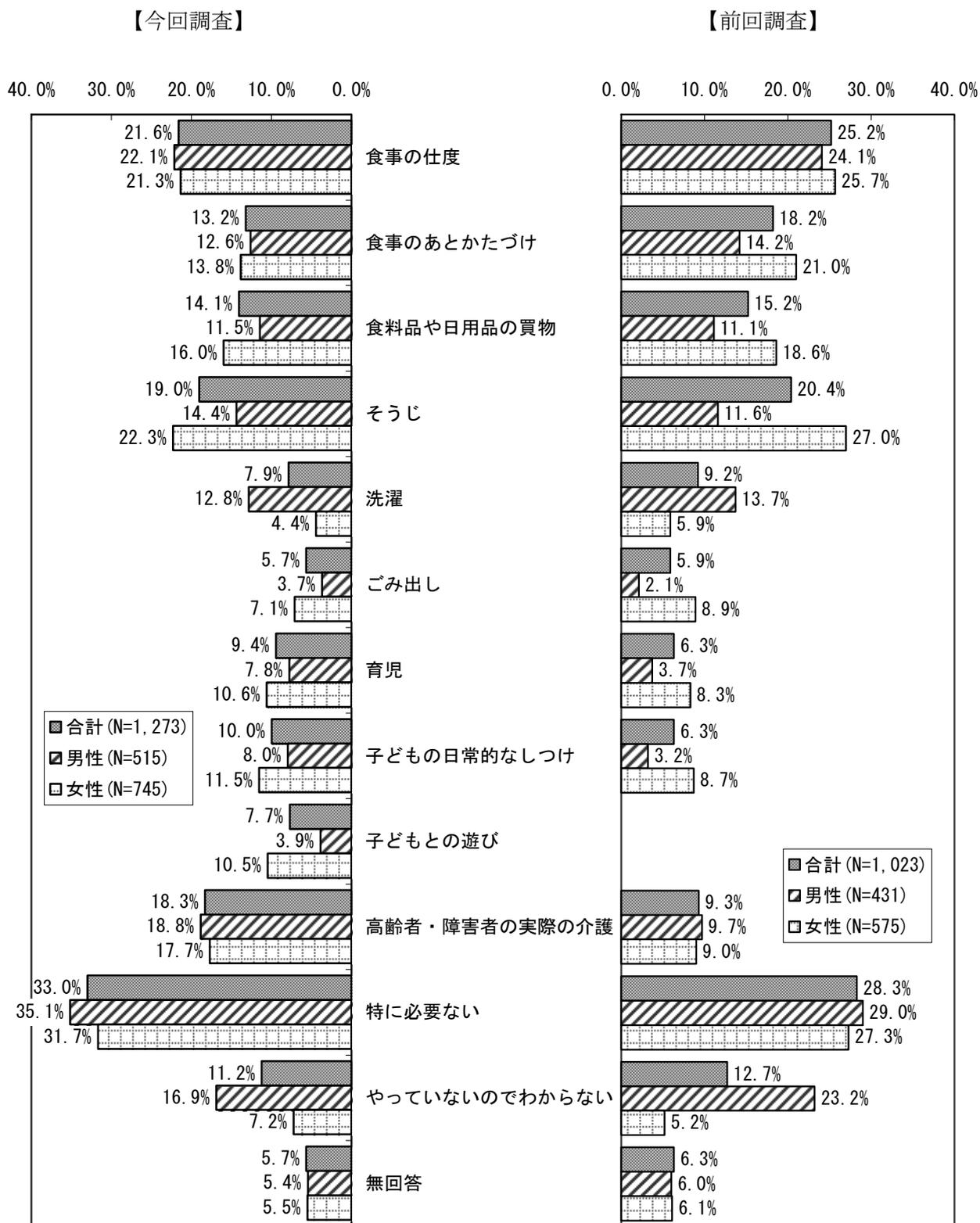
- ・「食事の仕度」「そうじ」「高齢者・障害者の実際の介護」が多い
- ・「高齢者・障害者の実際の介護」が前回より大きく増加

家族の協力が必要なことをみると、「特に必要ない」が33.0%と最も多く、次いで「食事の支度」(21.6%)、「そうじ」(19.0%)、「高齢者・障害者の実際の介護」(18.3%)となっている。

前回と比較すると、「高齢者・障害者の実際の介護」が大きく増加している。

性別でみると、男女共に「特に必要ない」(男性35.1%、女性31.7%)が最も多く、次いで男性では「食事の支度」(22.1%)、「高齢者・障害者の実際の介護」(18.8%)、女性では「そうじ」(22.3%)、「食事の支度」(21.3%)となっている。前回と比較すると、前は男女で大きな差がついていた「食事のあとかたづけ」「そうじ」などの項目で差が少なくなっている。「やっていないのでわからない」「洗濯」などは男性が女性を大きく上回っており、「そうじ」「子どもとの遊び」などは女性が男性を大きく上回っている。

図 10 性別 家族の協力が必要なこと



(前回調査には、「子どもとの遊び」の項目はなかった)

性別・年齢別に家族の協力が必要なことをみると、「特に必要ない」を除くと、「やっていないのでわからない」は、20歳代を除き、男性の方が多くなっている。

また、「特に必要ない」を除くと、男性は「食事の仕度」が20歳代～40歳代、70歳代以上で最も多く、50歳代、60歳代では「高齢者・障害者の実際の介護」が最も多くなっている。

女性は、30歳代では「育児」や「子どもとの遊び」が多く、50歳代では「食事の仕度」「そうじ」、70歳代以上では「食料品や日用品の買物」での協力が必要との回答が他の年代に比べて多くなっている。

表 10 性別・年齢別 家族の協力が必要なこと

	食事の仕度	食事のあとかたづけ	食料品や日用品の買物	そうじ	洗濯	ごみ出し
男性(N=515)	22.1%	12.6%	11.5%	14.4%	12.8%	3.7%
男性・20歳代(N=47)	27.7%	12.8%	6.4%	14.9%	19.1%	0.0%
男性・30歳代(N=69)	21.7%	5.8%	8.7%	14.5%	14.5%	1.4%
男性・40歳代(N=87)	23.0%	12.6%	11.5%	17.2%	16.1%	3.4%
男性・50歳代(N=84)	17.9%	13.1%	8.3%	14.3%	7.1%	2.4%
男性・60歳代(N=115)	18.3%	14.8%	12.2%	10.4%	8.7%	7.0%
男性・70歳代以上(N=113)	26.5%	14.2%	16.8%	15.9%	15.0%	4.4%
女性(N=745)	21.3%	13.8%	16.0%	22.3%	4.4%	7.1%
女性・20歳代(N=71)	18.3%	7.0%	8.5%	15.5%	8.5%	1.4%
女性・30歳代(N=126)	23.0%	11.1%	13.5%	19.0%	4.0%	7.1%
女性・40歳代(N=116)	21.6%	19.8%	12.1%	19.8%	5.2%	7.8%
女性・50歳代(N=111)	30.6%	20.7%	13.5%	31.5%	2.7%	4.5%
女性・60歳代(N=171)	17.0%	16.4%	16.4%	19.9%	2.9%	5.3%
女性・70歳代以上(N=149)	18.8%	6.7%	26.2%	25.5%	5.4%	13.4%
	育児	子どもの日常的なしつけ	子どもとの遊び	高齢者・障害者の実際の介護	特に必要ない	やっていないのでわからない
男性(N=515)	7.8%	8.0%	3.9%	18.8%	35.1%	16.9%
男性・20歳代(N=47)	8.5%	4.3%	6.4%	6.4%	34.0%	17.0%
男性・30歳代(N=69)	11.6%	8.7%	4.3%	7.2%	40.6%	18.8%
男性・40歳代(N=87)	8.0%	6.9%	3.4%	13.8%	43.7%	12.6%
男性・50歳代(N=84)	8.3%	8.3%	6.0%	28.6%	29.8%	16.7%
男性・60歳代(N=115)	8.7%	11.3%	2.6%	26.1%	37.4%	18.3%
男性・70歳代以上(N=113)	3.5%	6.2%	2.7%	20.4%	27.4%	17.7%
女性(N=745)	10.6%	11.5%	10.5%	17.7%	31.7%	7.2%
女性・20歳代(N=71)	15.5%	7.0%	5.6%	11.3%	29.6%	23.9%
女性・30歳代(N=126)	28.6%	25.4%	29.4%	8.7%	21.4%	8.7%
女性・40歳代(N=116)	9.5%	17.2%	16.4%	19.0%	32.8%	2.6%
女性・50歳代(N=111)	11.7%	10.8%	7.2%	22.5%	30.6%	0.9%
女性・60歳代(N=171)	2.9%	7.0%	3.5%	25.7%	35.1%	5.8%
女性・70歳代以上(N=149)	2.0%	3.4%	2.7%	14.1%	37.6%	8.1%

3-3 地域活動への参加

問 1 1 あなたは、ここ5～6年の間に、地域でどのような活動に参加しましたか。また、今後参加してみたい活動は何ですか。【それぞれ1つに○】

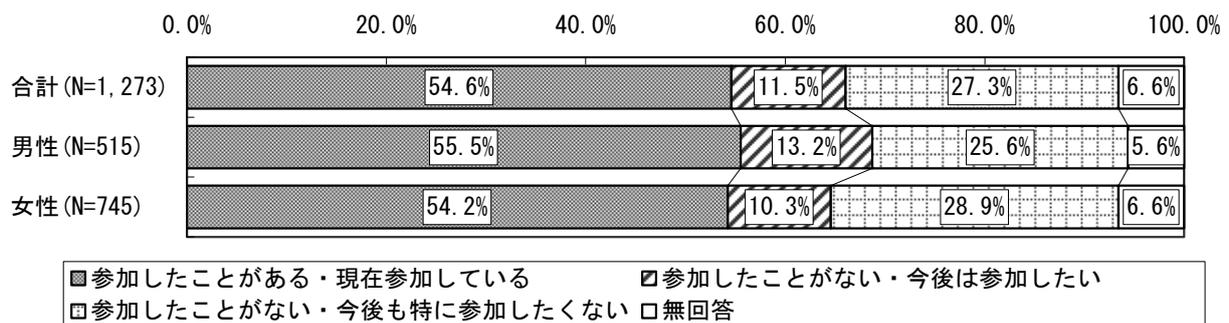
- 1 参加したことがある・現在参加している
- 2 参加したことがない・今後は参加したい
- 3 参加したことがない・今後特に参加したくない

- ・自治会・町内会の活動へは男女共に5割以上が参加
- ・PTAや子ども会の活動は女性の参加が多い

地域活動への参加についてみると、自治会・町内会の活動では「参加したことがある・現在参加している」が54.6%と最も多く、次いで「参加したことがない・今後特に参加したくない」(27.3%)となっている。

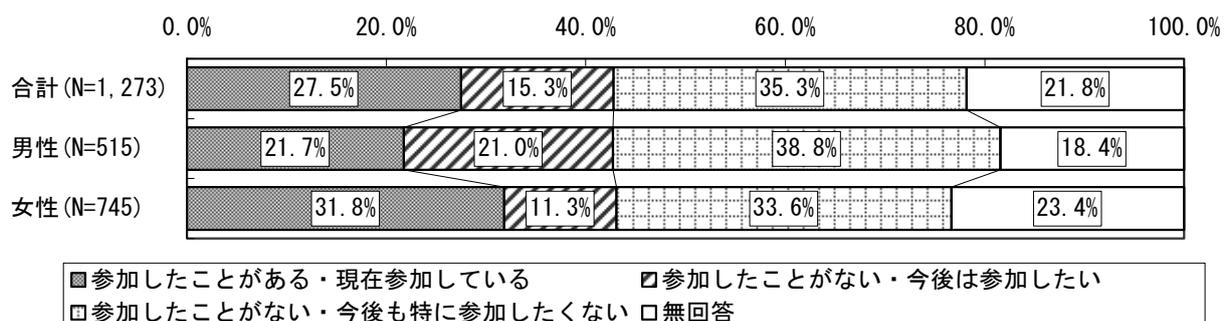
性別でみると、自治会・町内会の活動は、男女共に「参加したことがある・現在参加している」(男性55.5%, 女性54.2%)が最も多く、次いで「参加したことがない・今後特に参加したくない」(男性25.6%, 女性28.9%)となっている。

図 11-1-1 性別 地域活動への参加 (自治会・町内会の活動)



PTAや子ども会の活動では、「参加したことがない・今後特に参加したくない」が35.3%と最も多く、次いで「参加したことがある・現在参加している」(27.5%)となっている。また、男女共に「参加したことがない・今後特に参加したくない」(男性38.8%, 女性33.6%)が最も多く、次いで「参加したことがある・現在参加している」(男性21.7%, 女性31.8%)となっている。「参加したことがある・現在参加している」については、男女の差が大きい。

図 11-1-2 性別 地域活動への参加 (PTAや子ども会の活動)



性別・年齢別に自治会・町内会の活動への参加状況をみると、男女とも20歳代では「参加したことがない・今後も特に参加したくない」が過半数、また、女性では30歳代でも4割超である。それ以外の年齢層となると「参加したことがある・現在参加している」が、男女とも過半数以上と参加の割合が高くなっている。

表 11-1-1 性別・年齢別 地域活動への参加（自治会・町内会の活動）

	参加したことがある・現在参加している	参加したことがない・今後参加したい	参加したことがない・今後も特に参加したくない	無回答
男性(N=515)	55.5%	13.2%	25.6%	5.6%
男性・20歳代(N=47)	12.8%	19.1%	63.8%	4.3%
男性・30歳代(N=69)	50.7%	17.4%	31.9%	0.0%
男性・40歳代(N=87)	58.6%	16.1%	20.7%	4.6%
男性・50歳代(N=84)	64.3%	9.5%	22.6%	3.6%
男性・60歳代(N=115)	61.7%	13.0%	22.6%	2.6%
男性・70歳代以上(N=113)	61.1%	8.8%	15.0%	15.0%
女性(N=745)	54.2%	10.3%	28.9%	6.6%
女性・20歳代(N=71)	14.1%	28.2%	56.3%	1.4%
女性・30歳代(N=126)	38.9%	17.5%	41.3%	2.4%
女性・40歳代(N=116)	59.5%	6.0%	31.9%	2.6%
女性・50歳代(N=111)	70.3%	7.2%	17.1%	5.4%
女性・60歳代(N=171)	67.3%	7.6%	19.9%	5.3%
女性・70歳代以上(N=149)	55.0%	4.7%	22.1%	18.1%

一方、PTAや子ども会の活動の参加状況では、男性は、どの年齢層でも「参加したことがない・今後も特に参加したくない」が最も多いが、女性では、40歳代～60歳代で「参加したことがある・現在参加している」が最も多くなっている。

表 11-1-2 性別・年齢別 地域活動への参加（PTAや子ども会の活動）

	参加したことがある・現在参加している	参加したことがない・今後参加したい	参加したことがない・今後も特に参加したくない	無回答
男性(N=515)	21.7%	21.0%	38.8%	18.4%
男性・20歳代(N=47)	4.3%	25.5%	61.7%	8.5%
男性・30歳代(N=69)	11.6%	39.1%	47.8%	1.4%
男性・40歳代(N=87)	28.7%	21.8%	42.5%	6.9%
男性・50歳代(N=84)	32.1%	16.7%	41.7%	9.5%
男性・60歳代(N=115)	21.7%	18.3%	34.8%	25.2%
男性・70歳代以上(N=113)	22.1%	13.3%	23.0%	41.6%
女性(N=745)	31.8%	11.3%	33.6%	23.4%
女性・20歳代(N=71)	4.2%	33.8%	56.3%	5.6%
女性・30歳代(N=126)	31.7%	22.2%	43.7%	2.4%
女性・40歳代(N=116)	56.9%	2.6%	34.5%	6.0%
女性・50歳代(N=111)	45.9%	5.4%	31.5%	17.1%
女性・60歳代(N=171)	31.0%	7.0%	31.0%	31.0%
女性・70歳代以上(N=149)	15.4%	7.4%	18.1%	59.1%

(不参加の理由)

参加したことがない・今後も特に参加したくない場合、その理由に近いものは何ですか。

【それぞれについて、3つまでに○】

- 1 仕事が忙しいから
- 2 家事・育児・介護で忙しいから
- 3 健康状態がおもわしくないから
- 4 人間関係がわずらわしいから
- 5 男性の意見と女性の意見が平等に扱われないから
- 6 活動の情報が得られないから
- 7 参加するきっかけがないから
- 8 自分以外の家族が参加しており必要がないから
- 9 あまり関心がないから
- 10 その他 (具体的に)

不参加の理由は「あまり関心がないから」が最も多い

地域活動への不参加の理由をみると、自治会・町内会の活動では「あまり関心がないから」が34.5%と最も多く、次いで「仕事が忙しいから」(31.9%)となっている。

性別でみると、自治会・町内会の活動では、男女共に「あまり関心がないから」(男性38.6%、女性32.1%)が最も多く、次いで「仕事が忙しいから」(男性35.6%、女性29.8%)となっている。

前回と比較すると、選択肢が若干異なるので、一概に比較できないが、「参加するきっかけがないから」「自分以外の家族が参加しており必要がないから」は男女共に大きく減少している。

P T Aや子ども会の活動では、「参加するきっかけがないから」が28.7%と最も多く、次いで「あまり関心がないから」(22.7%)となっている。

性別でみると、P T Aや子ども会の活動では、男性では「仕事が忙しいから」(26.5%)が最も多く、次いで「あまり関心がないから」(26.0%)「参加するきっかけがないから」(25.5%)となっている。女性では「参加するきっかけがないから」(31.2%)が最も多く、次いで「あまり関心がないから」(20.0%)となっている。

図 11-2-1 性別 地域活動への不参加の理由（自治会・町内会の活動）

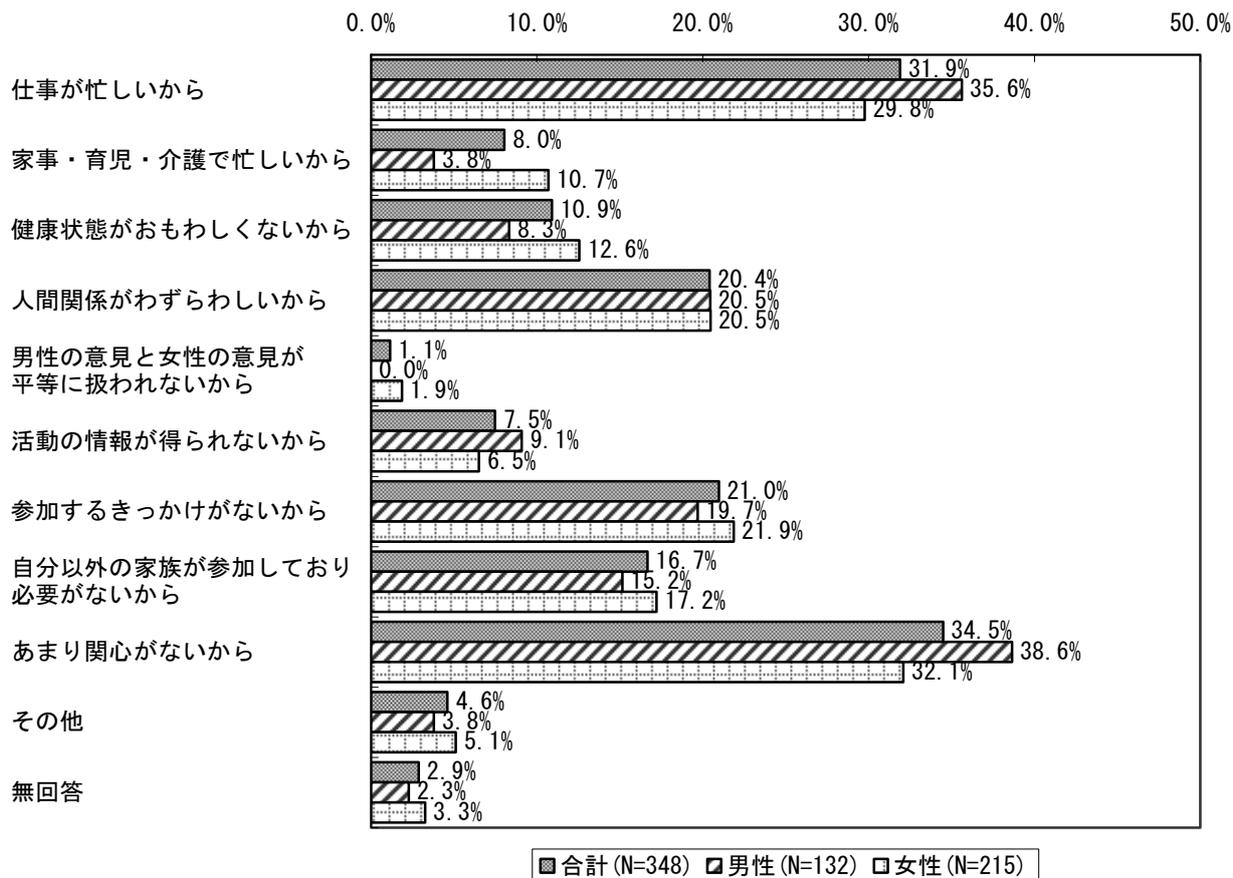


図 11-2-2 性別 地域活動への不参加の理由（自治会・町内会の活動）【前回調査】

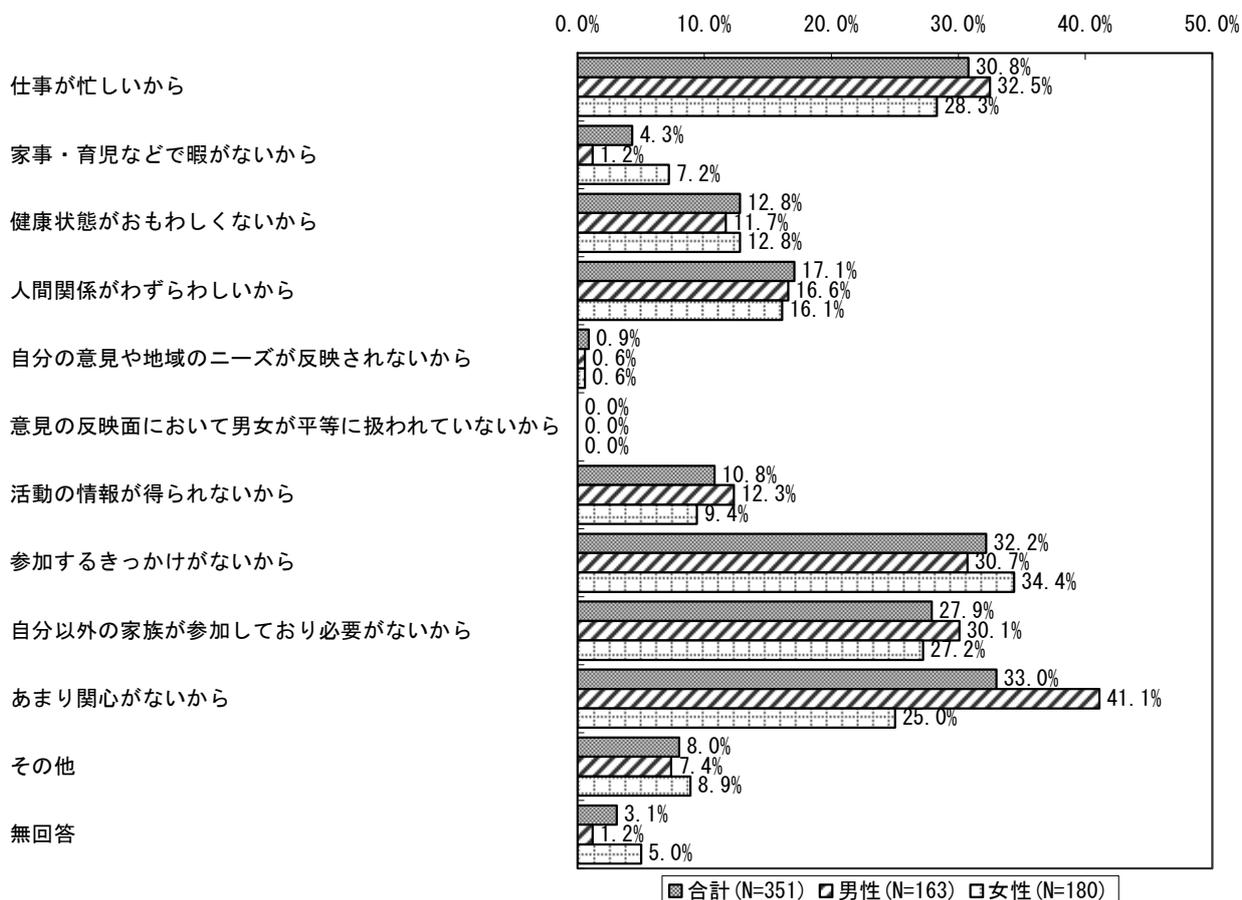
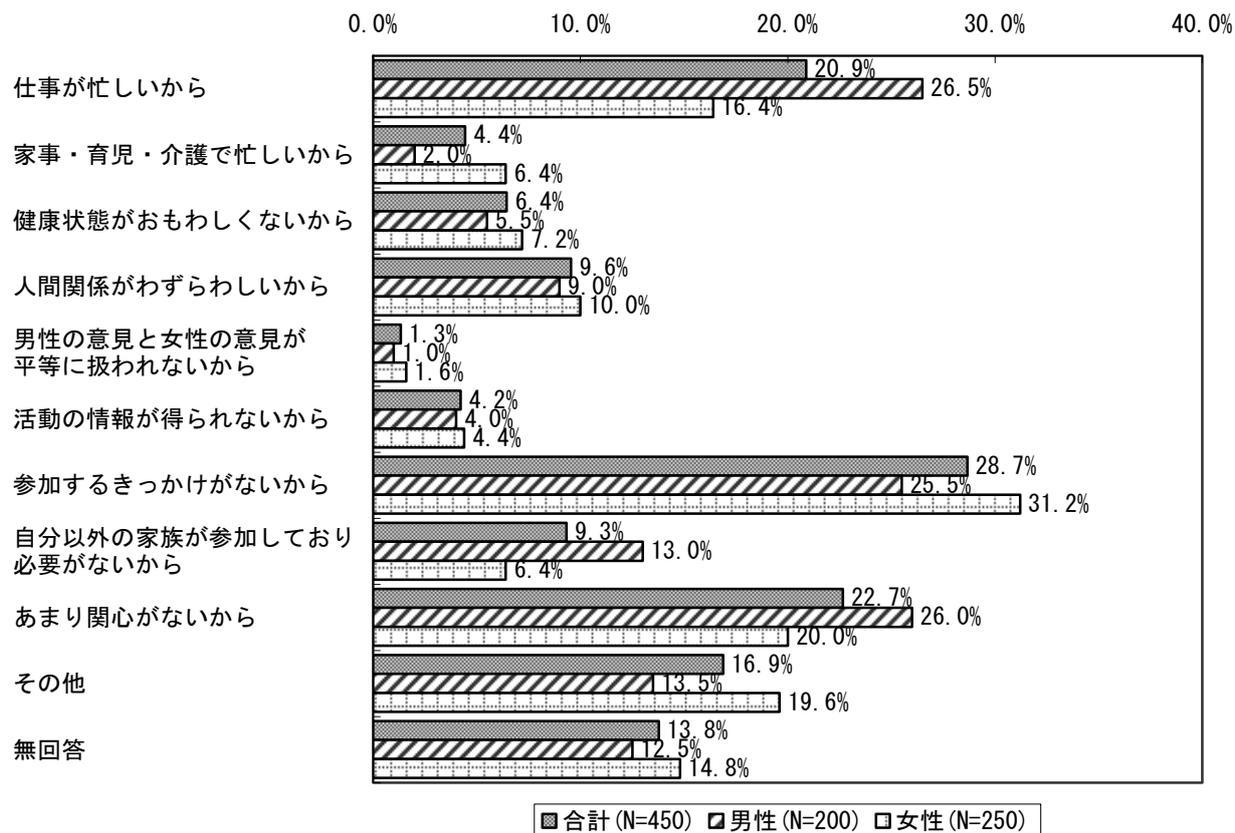


図 11-2-3 性別 地域活動への不参加の理由（PTAや子ども会の活動）



3-4 自治会や町内会の活動の状況

問12 あなたが参加した「自治会や町内会の活動」では、次のようなことがありましたか。【それぞれ1つに○】

- (1) 行事やイベントの企画は主に男性が決定している
- (2) 代表者は男性から選ばれる
- (3) 女性は責任のある役を引き受けたがらない
- (4) お茶入れや食事の準備などは女性がしている
- (5) 女性は発言しにくい雰囲気がある
- (6) 名簿上は男性が会員になっているが実際は女性（配偶者）が活動している
- (7) 男性は仕事で欠席が許されるが、女性が仕事で欠席することを否定する雰囲気がある

「お茶入れや食事の準備などは女性がしている」や「名簿上は男性が会員になっているが実際は女性（配偶者）が活動している」という事例が多い

自治会や町内会の活動の状況を見ると、「ある」という回答が最も多いのは「お茶入れや食事の準備などは女性がしている」（64.3%）で、次いで「名簿上は男性が会員になっているが実際は女性（配偶者）が活動している」（59.6%）となっている。

性別でも、同じ傾向である。男女での「ある」という回答のポイント差が最も大きいのは、「お茶入れや食事の準備などは女性がしている」（女性が13.7ポイント高い）、次いで「女性は責任のある役を引き受けたがらない」（女性が12.0ポイント高い）となっている。

図12-1 性別 自治会や町内会の活動の状況（行事やイベントの企画は主に男性が決定している）

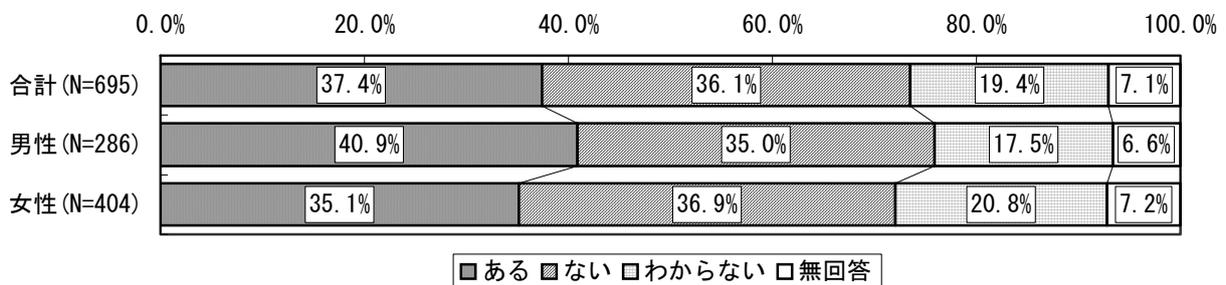


図12-2 性別 自治会や町内会の活動の状況（代表者は男性から選ばれる）

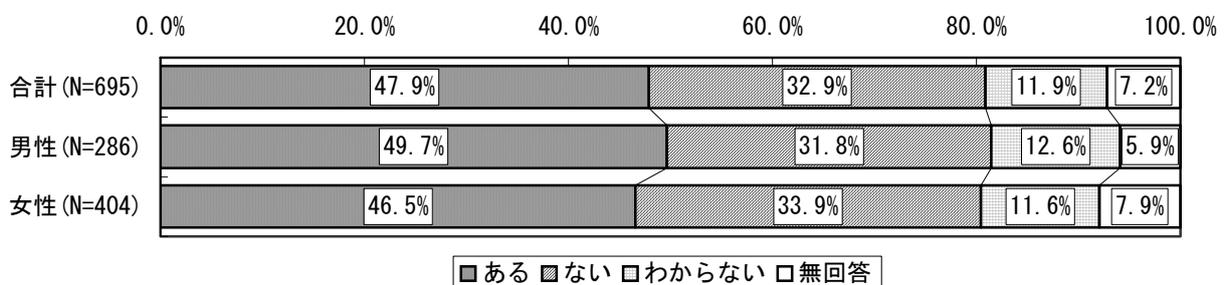


図 12-3 性別 自治会や町内会の活動の状況（女性は責任のある役を引き受けたがらない）

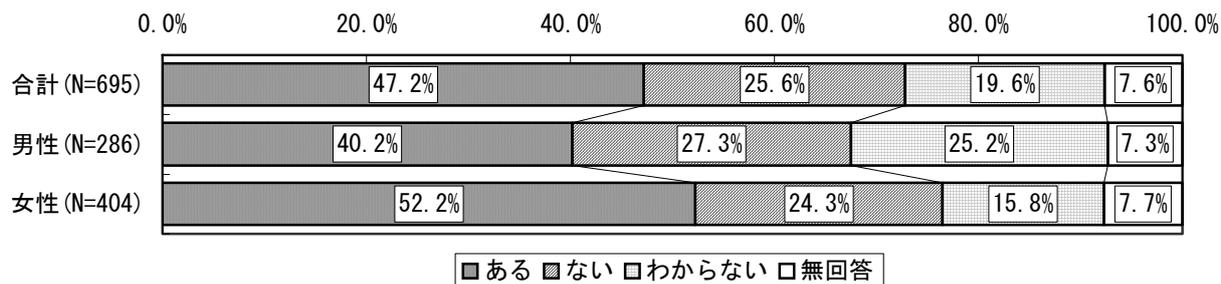


図 12-4 性別 自治会や町内会の活動の状況（お茶入れや食事の準備などは女性がしている）

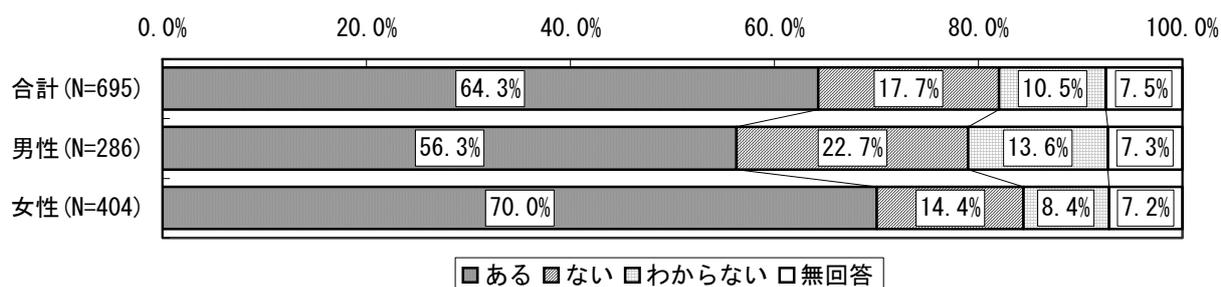


図 12-5 性別 自治会や町内会の活動の状況（女性は発言しにくい雰囲気がある）

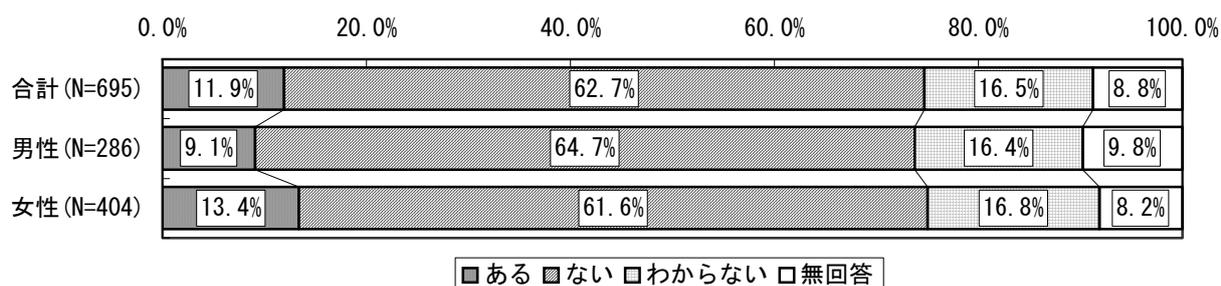


図 12-6 性別 自治会や町内会の活動の状況（名簿上は男性が会員になっているが実際は女性が活動している）

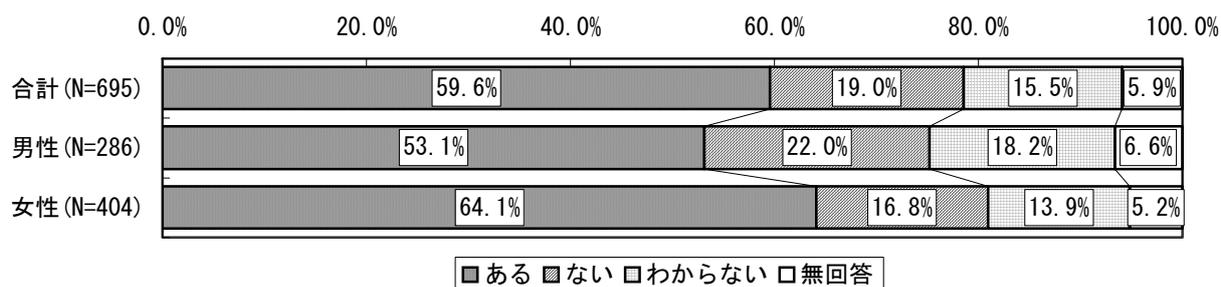
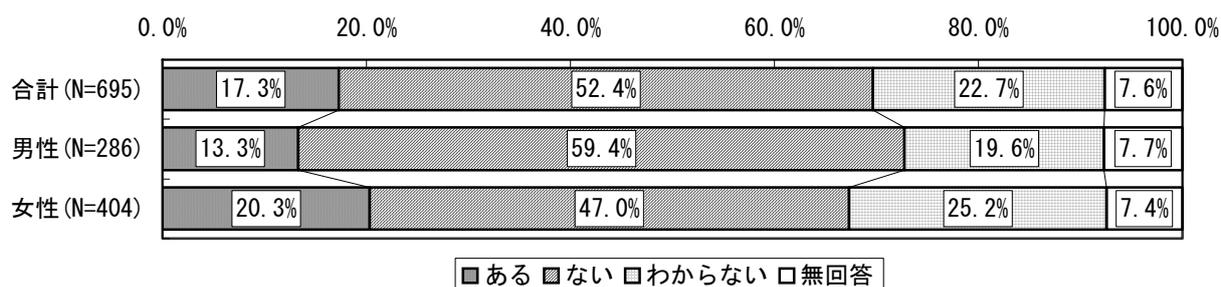


図 12-7 性別 自治会や町内会の活動の状況（女性のみ、仕事で欠席することを否定する雰囲気がある）



3-5 自治会や町内会以外の活動への参加

問13 あなたは、自治会や町内会以外でどのような活動に参加したことがありますか。また、今後参加してみたい活動は何ですか。【それぞれ1つに〇】

- (1) 地域における趣味・スポーツ・学習の活動
- (2) NPO（非営利団体）やボランティアの活動
- (3) 民生委員・市政協力委員など公的な立場での活動

参加経験者、参加希望者はいずれも前回調査より増加

自治会や町内会以外の活動への参加状況を見ると、「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」では「参加したことがある・現在参加している」が35.4%と最も多いが、「NPO（非営利団体）やボランティアの活動」及び「民生委員・市政協力委員など公的な立場での活動」では「参加したことがない・今後特に参加したくない」がそれぞれ40.9%、57.5%と最も多くなっている。

性別でみると、いずれの項目でも「参加したことがある・現在参加している」及び「参加したことがない・今後は参加したい」は男性が女性よりも多くなっている。

前回と比較すると、選択肢が若干異なるので、一概に比較できないが、いずれの活動でも「参加したことがある・現在参加している」「参加したことがない・今後は参加したい」が共に増加している。

図13-1 性別 自治会や町内会以外の活動への参加（地域における趣味・スポーツ・学習の活動）

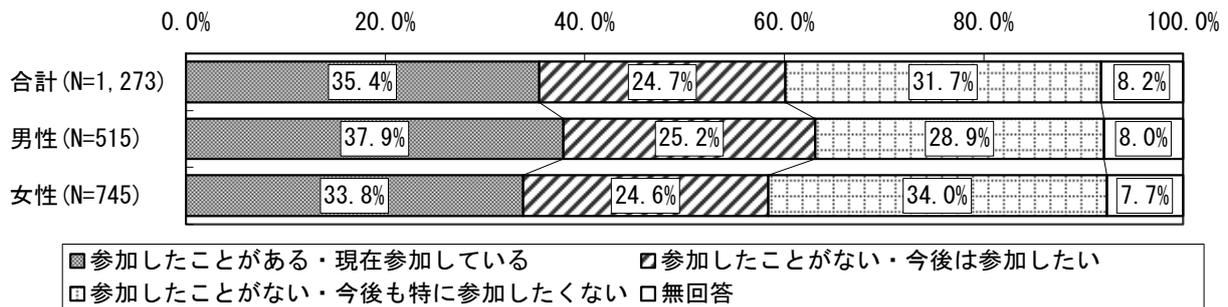


図13-2 性別 自治会や町内会以外の活動への参加（地域における趣味・スポーツ・学習の活動）【前回調査】

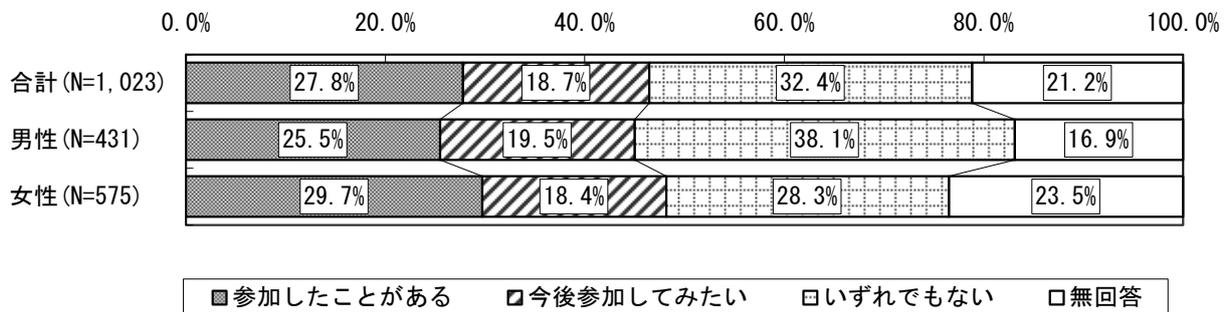


図 13-3 性別 自治会や町内会以外の活動への参加（NPOやボランティアの活動）

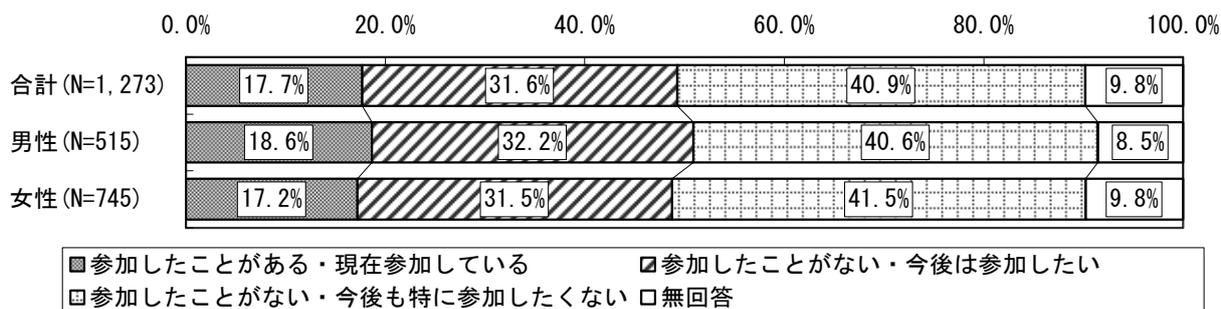


図 13-4 性別 自治会や町内会以外の活動への参加（NPOやボランティアの活動）【前回調査】

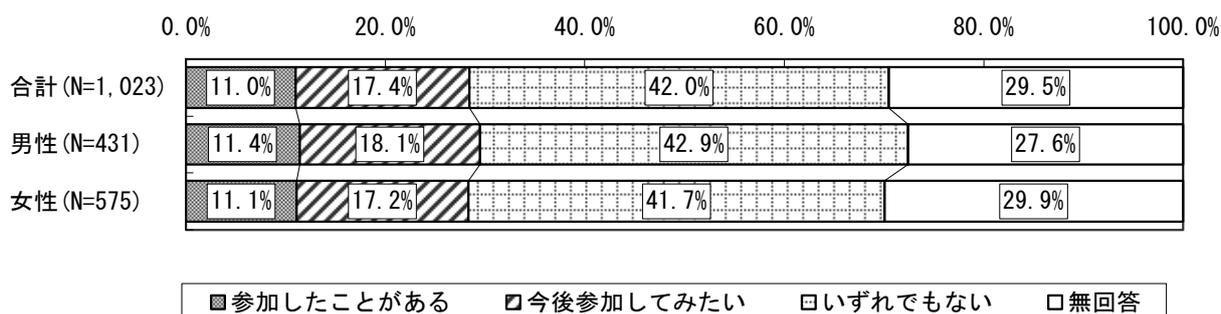


図 13-5 性別 自治会や町内会以外の活動への参加（民生委員・市政協力委員など公的な立場での活動）

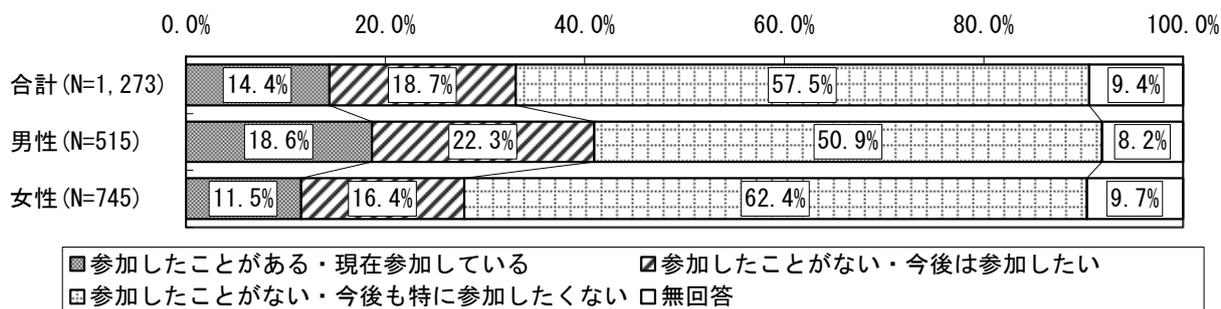
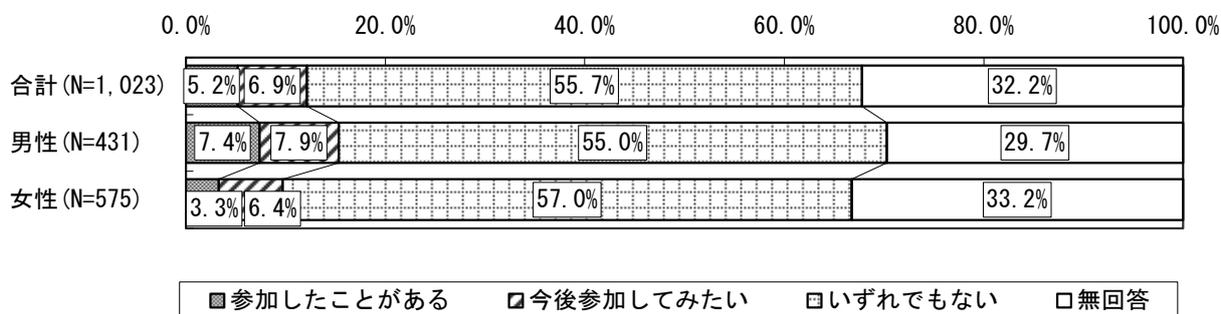


図 13-6 性別 自治会や町内会以外の活動への参加（民生委員・市政協力委員など公的な立場での活動）【前回調査】



3-6 男性の家事等への参加に必要なこと

問14 あなたは、今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくには、どのようなことが必要だと思いますか。【3つまでに○】

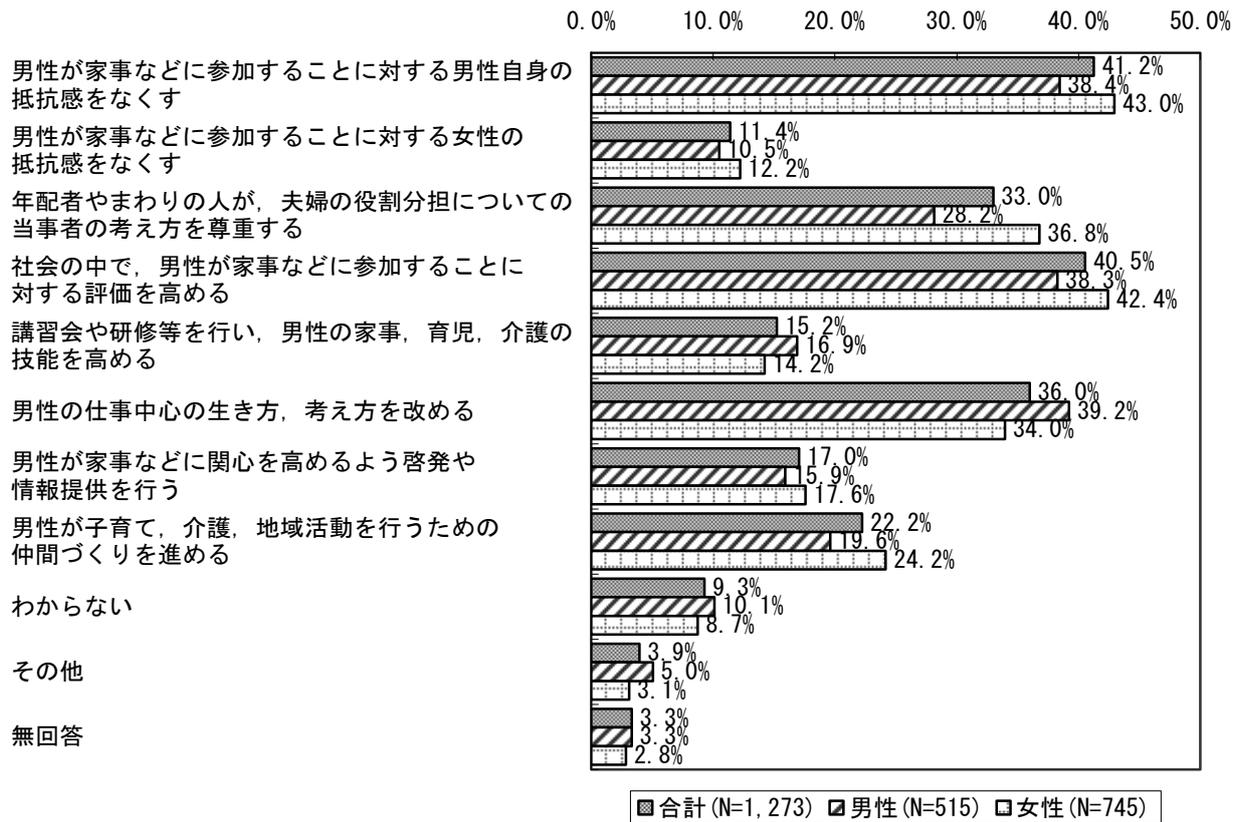
- 1 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす
- 2 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくす
- 3 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担についての当事者の考え方を尊重する
- 4 社会の中で、男性が家事などに参加することに対する評価を高める
- 5 講習会や研修等を行い、男性の家事、育児、介護の技能を高める
- 6 男性の仕事中心の生き方、考え方を改める
- 7 男性が家事などに関心が高めよう啓発や情報提供を行う
- 8 男性が子育て、介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）づくりを進める
- 9 わからない
- 10 その他（具体的に： _____）

「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」が最も多く、次いで「社会の中で、男性が家事などに参加することに対する評価を高める」となっている

男性の家事等への参加に必要なことをみると、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」が41.2%と最も多く、次いで「社会の中で、男性が家事などに参加することに対する評価を高める」(40.5%)、「男性の仕事中心の生き方、考え方を改める」(36.0%)となっている。

性別でみると、男性では「男性の仕事中心の生き方、考え方を改める」(39.2%)が最も多く、次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」(38.4%)、「社会の中で、男性が家事などに参加することに対する評価を高める」(38.3%)となっている。女性では「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」(43.0%)が最も多く、次いで「社会の中で、男性が家事などに参加することに対する評価を高める」(42.4%)、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担についての当事者の考え方を尊重する」(36.8%)となっている。なお、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担についての当事者の考え方を尊重する」は女性が男性を8.6ポイント（男性28.2%、女性36.8%）上回っている。

図 14 性別 男性の家事等への参加に必要なこと



3-7 女性の健康と権利について理解しあうために大切なこと

問15 あなたは妊娠や出産、不妊、避妊、更年期、性感染症など女性の健康と権利について、男女が理解し合うためには、どのようなことが大切だと思いますか。

【3つまでに○】

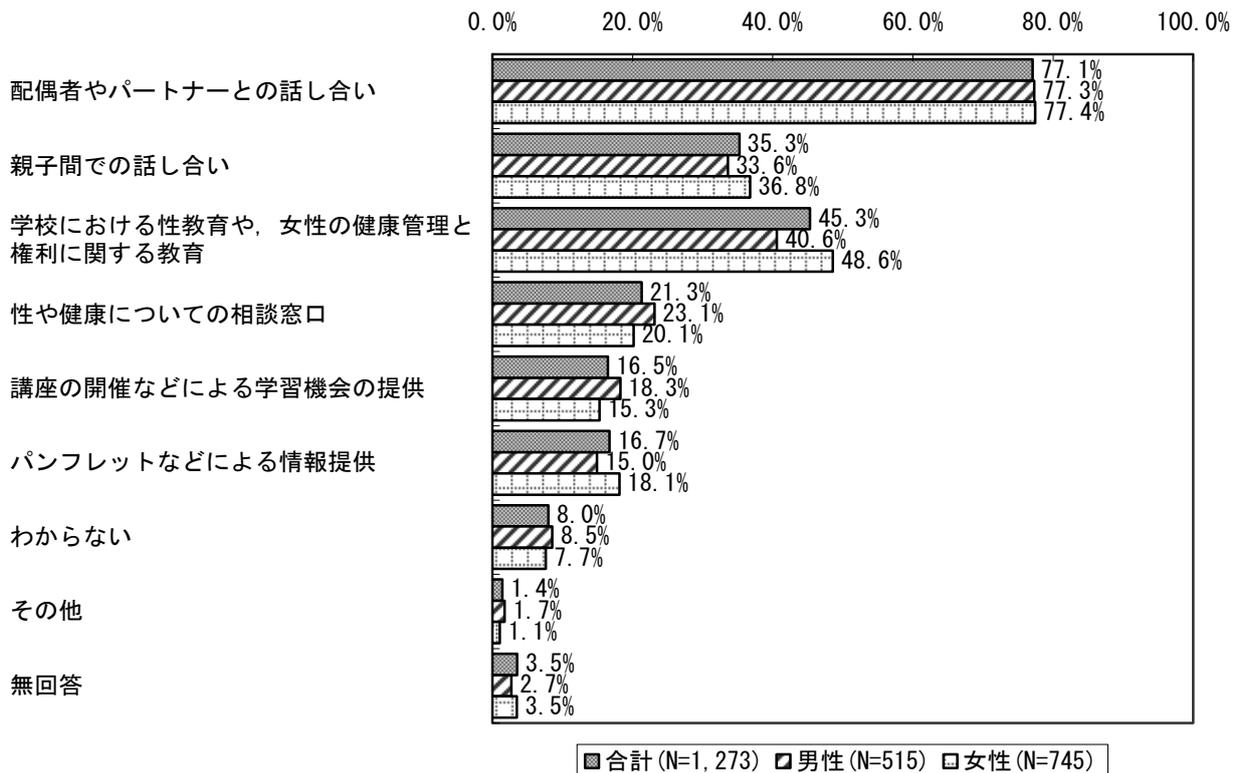
- | | |
|-------------------------------|---------------------|
| 1 配偶者やパートナーとの話し合い | 2 親子間での話し合い |
| 3 学校における性教育や、女性の健康管理と権利に関する教育 | |
| 4 性や健康についての相談窓口 | 5 講座の開催などによる学習機会の提供 |
| 6 パンフレットなどによる情報提供 | 7 わからない |
| 8 その他（具体的に： _____） | |

「配偶者やパートナーとの話し合い」が最も多い

女性の健康と権利について理解しあうために大切なことをみると、「配偶者やパートナーとの話し合い」が77.1%と最も多く、次いで「学校における性教育や、女性の健康管理と権利に関する教育」(45.3%)、「親子間での話し合い」(35.3%)となっている。

性別でみても、特に大きな差はみられない。

図15 性別 女性の健康と権利について理解しあうために大切なこと



3-8 健康診断の受診状況

問16 健康で豊かな生活を送るためには、一人一人が自分の健康を管理していくことが重要です。あなたは、健康診断を定期的に受診されていますか。【1つに〇】

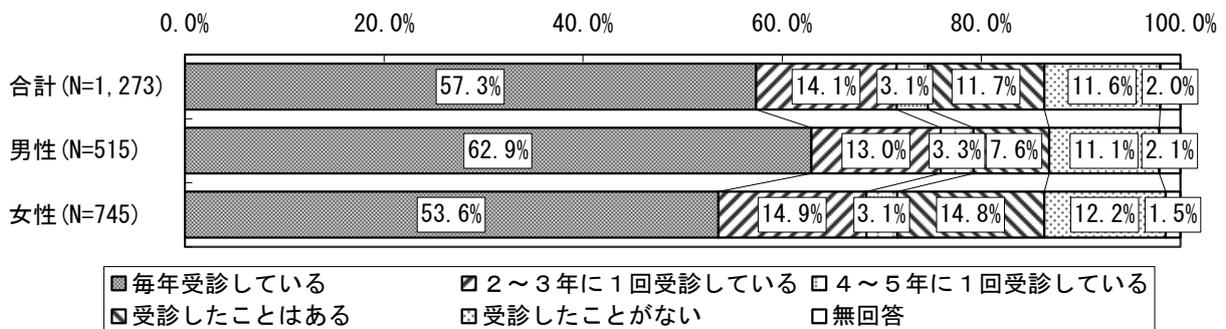
- 1 毎年受診している
- 2 2～3年に1回受診している
- 3 4～5年に1回受診している
- 4 受診したことはある (約 年前)
- 5 受診したことがない

「毎年受診している」が過半数

健康診断の受診状況を見ると、「毎年受診している」が57.3%で過半数を占めている。

性別でみると、男女共に「毎年受診している」（男性は62.9%，女性は53.6%）が最も多く、次いで「2～3年に1回受診している」（男性13.0%，女性14.9%）となっている。「毎年受診している」は男性が女性を9.3ポイント上回っている。

図16 性別 健康診断の受診状況



性別・年齢別の健康診断の受診状況を見ると、「毎年受診している」は、いずれの年齢層においても男性の方が女性より多く、また、女性の30歳代と40歳代ではその他の年代に比べ少なくなっている。

表16-1 性別・年齢別 健康診断の受診状況

	毎年受診している	2～3年に1回受診している	4～5年に1回受診している	受診したことはある	受診したことがない	無回答
男性 (N=515)	62.9%	13.0%	3.3%	7.6%	11.1%	2.1%
男性・20歳代 (N=47)	68.1%	8.5%	2.1%	2.1%	19.1%	0.0%
男性・30歳代 (N=69)	58.0%	13.0%	1.4%	11.6%	13.0%	2.9%
男性・40歳代 (N=87)	70.1%	9.2%	1.1%	6.9%	11.5%	1.1%
男性・50歳代 (N=84)	59.5%	15.5%	7.1%	4.8%	11.9%	1.2%
男性・60歳代 (N=115)	59.1%	17.4%	1.7%	12.2%	8.7%	0.9%
男性・70歳代以上 (N=113)	64.6%	11.5%	5.3%	5.3%	8.0%	5.3%
女性 (N=745)	53.6%	14.9%	3.1%	14.8%	12.2%	1.5%
女性・20歳代 (N=71)	54.9%	4.2%	2.8%	15.5%	22.5%	0.0%
女性・30歳代 (N=126)	43.7%	14.3%	2.4%	18.3%	21.4%	0.0%
女性・40歳代 (N=116)	44.8%	18.1%	3.4%	16.4%	16.4%	0.9%
女性・50歳代 (N=111)	58.6%	18.0%	3.6%	9.0%	9.9%	0.9%
女性・60歳代 (N=171)	54.4%	17.0%	2.9%	15.8%	7.0%	2.9%
女性・70歳代以上 (N=149)	63.1%	13.4%	3.4%	13.4%	4.0%	2.7%

性別・職業別に健康診断の受診状況をみると、男女とも正規従業員では「毎年受診している」が8割超と多いのに対して自営・自由業では3割超と少ない。

表 16-2 性別・職業別 健康診断の受診状況

	毎年受診している	2～3年に1回受診している	4～5年に1回受診している	受診したことはない	受診したことがない	無回答
男性(N=515)	62.9%	13.0%	3.3%	7.6%	11.1%	2.1%
男性・自営・自由業(N=94)	39.4%	21.3%	8.5%	12.8%	16.0%	2.1%
男性・家族従事者(N=7)	42.9%	14.3%	0.0%	0.0%	14.3%	28.6%
男性・正規従業員(N=191)	81.7%	6.8%	2.1%	2.6%	5.8%	1.0%
男性・非正規従業員(N=49)	57.1%	14.3%	2.0%	12.2%	14.3%	0.0%
男性・無職・学生等(N=150)	58.0%	15.3%	2.7%	8.7%	12.7%	2.7%
女性(N=745)	53.6%	14.9%	3.1%	14.8%	12.2%	1.5%
女性・自営・自由業(N=50)	32.0%	20.0%	4.0%	26.0%	18.0%	0.0%
女性・家族従事者(N=16)	56.3%	12.5%	6.3%	0.0%	18.8%	6.3%
女性・正規従業員(N=123)	82.1%	8.1%	0.8%	3.3%	4.9%	0.8%
女性・非正規従業員(N=180)	53.3%	16.1%	2.2%	13.9%	14.4%	0.0%
女性・無職・学生等(N=333)	45.9%	15.9%	4.5%	18.9%	12.6%	2.1%

IV 仕事について

4-1 職業

問17 現在のあなたの職業はどれにあたりますか。【1つに○】

(自営・自由業の方)

- 1 農林漁業者
- 2 商業・工業・サービス業などの自営業主
- 3 自由業（開業医，芸術家，宗教家，弁護士など）
- 4 上記1～3の家族従事者

(お勤めの方)

- | | | |
|-----------|-----------|---------------------------|
| 5 会社・団体役員 | 6 正社員・正職員 | 7 パート・アルバイト・契約社員 |
| 8 派遣社員 | 9 内職・在宅就業 | 10 その他（具体的に： ） |

(無職・学生の方)

- 11 専業主婦・専業主夫（収入を得る仕事をしていない方）
- 12 学生（専門学校生，大学生など）
- 13 その他の無職（年金生活者，失業中の方など）

- ・男性では「正社員・正職員」が最も多い
- ・女性では「専業主婦・専業主夫」が最も多い

職業をみると、「正社員・正職員」と「その他の無職」が共に20.8%で最も多く、次いで「専業主婦・専業主夫」(16.2%)、「パート・アルバイト・契約社員」(15.9%)となっている。

性別でみると男性では「正社員・正職員」が29.7%と最も多く、女性では「専業主婦・専業主夫」が26.3%と最も多くなっている。

図 17-1 性別 職業

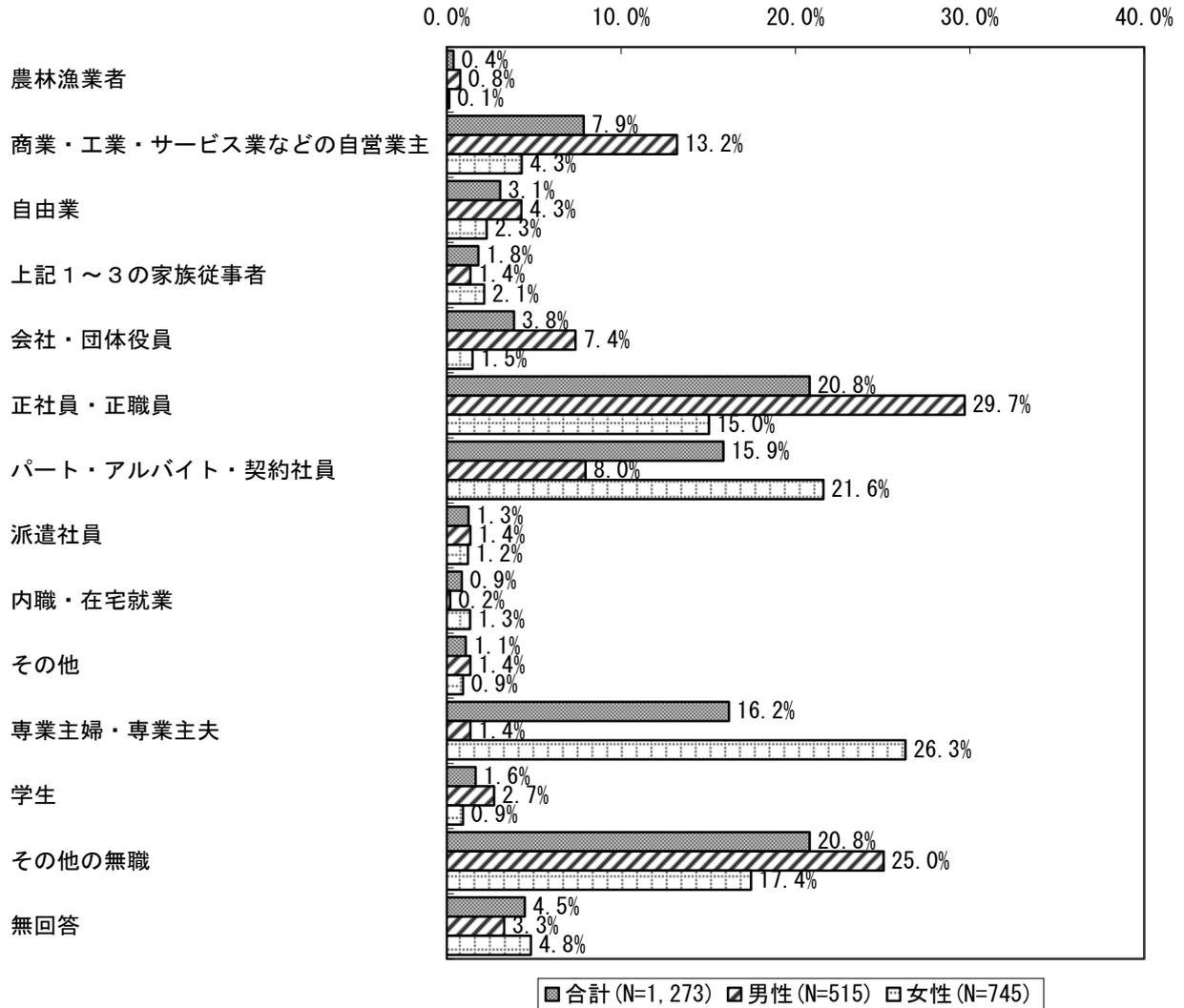
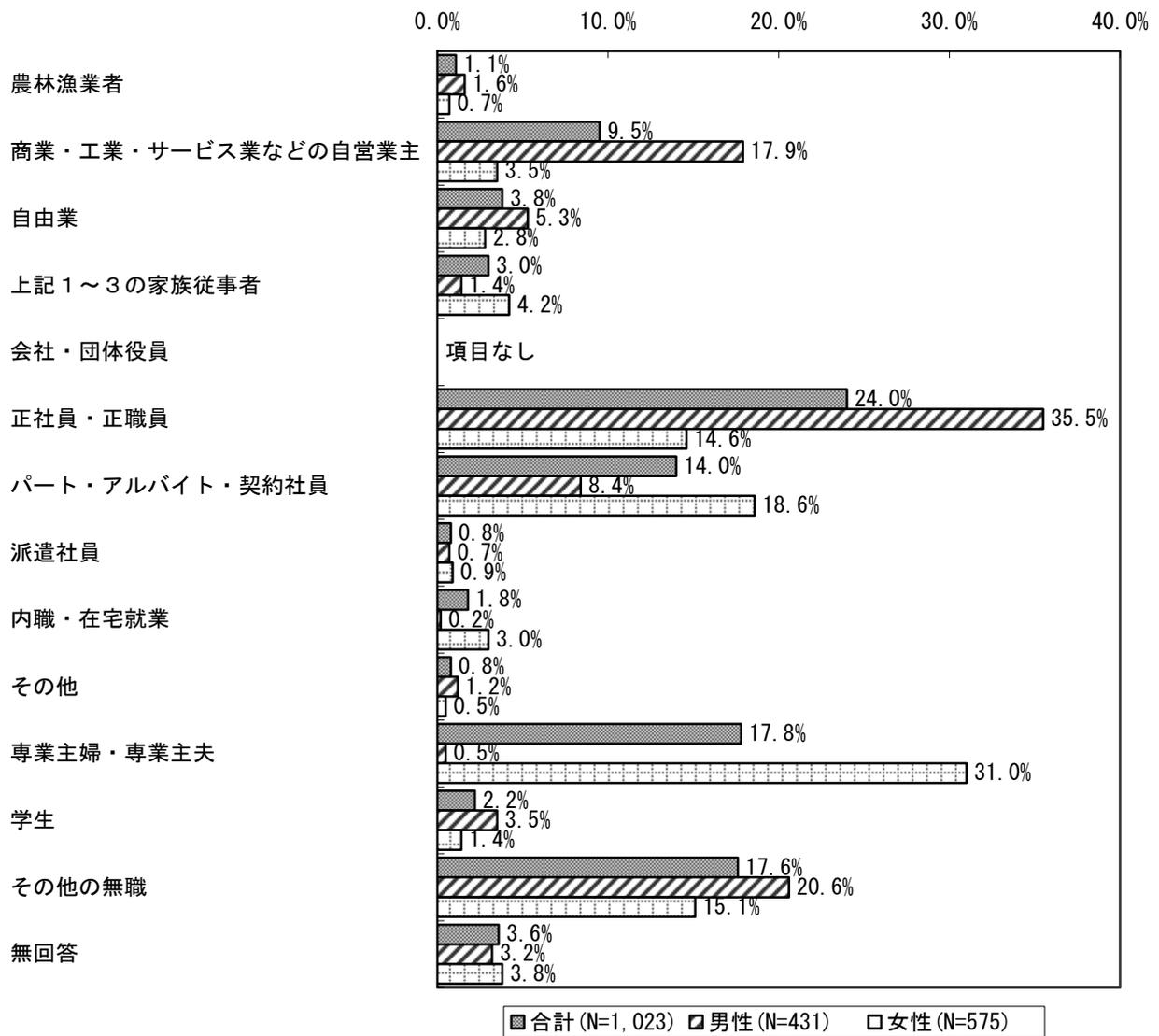


図 17-2 性別 職業【前回調査】



性別・年齢別に職業をみると、男性は20歳代～50歳代では「正社員・正職員」が多く、女性は20歳代では「正社員・正職員」が多いが、30歳代以上は「パート・アルバイト・契約社員」の方が「正社員・正職員」より多くなっている。

表 17 性別・年齢別 職業

	農林漁業者	商業・工業・サービスなどの自営業主	自由業	上記1～3の家族従事者	会社・団体役員	正社員・正職員	パート・アルバイト・契約社員
男性(N=515)	0.8%	13.2%	4.3%	1.4%	7.4%	29.7%	8.0%
男性・20歳代(N=47)	2.1%	0.0%	2.1%	0.0%	4.3%	51.1%	6.4%
男性・30歳代(N=69)	0.0%	10.1%	4.3%	1.4%	5.8%	59.4%	8.7%
男性・40歳代(N=87)	0.0%	11.5%	3.4%	4.6%	12.6%	50.6%	2.3%
男性・50歳代(N=84)	1.2%	15.5%	6.0%	1.2%	17.9%	40.5%	4.8%
男性・60歳代(N=115)	0.9%	21.7%	3.5%	0.0%	4.3%	8.7%	20.0%
男性・70歳代以上(N=113)	0.9%	11.5%	5.3%	0.9%	0.9%	0.0%	2.7%
女性(N=745)	0.1%	4.3%	2.3%	2.1%	1.5%	15.0%	21.6%
女性・20歳代(N=71)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.8%	47.9%	19.7%
女性・30歳代(N=126)	0.0%	2.4%	1.6%	0.8%	2.4%	22.2%	27.0%
女性・40歳代(N=116)	0.0%	4.3%	5.2%	1.7%	0.9%	25.0%	32.8%
女性・50歳代(N=111)	0.0%	3.6%	4.5%	2.7%	1.8%	12.6%	36.0%
女性・60歳代(N=171)	0.6%	8.8%	2.3%	4.7%	1.8%	4.1%	19.3%
女性・70歳代以上(N=149)	0.0%	3.4%	0.0%	1.3%	0.0%	0.0%	1.3%
	派遣社員	内職・在宅就業	その他	専業主婦・専業主夫	学生	その他の無職	無回答
男性(N=515)	1.4%	0.2%	1.4%	1.4%	2.7%	25.0%	3.3%
男性・20歳代(N=47)	2.1%	0.0%	0.0%	0.0%	27.7%	2.1%	2.1%
男性・30歳代(N=69)	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%	7.2%	0.0%
男性・40歳代(N=87)	1.1%	0.0%	2.3%	0.0%	0.0%	10.3%	1.1%
男性・50歳代(N=84)	0.0%	0.0%	2.4%	0.0%	0.0%	6.0%	4.8%
男性・60歳代(N=115)	3.5%	0.0%	2.6%	1.7%	0.0%	28.7%	4.3%
男性・70歳代以上(N=113)	0.0%	0.9%	0.0%	4.4%	0.0%	67.3%	5.3%
女性(N=745)	1.2%	1.3%	0.9%	26.3%	0.9%	17.4%	4.8%
女性・20歳代(N=71)	2.8%	0.0%	1.4%	9.9%	8.5%	5.6%	1.4%
女性・30歳代(N=126)	2.4%	2.4%	0.8%	29.4%	0.8%	5.6%	2.4%
女性・40歳代(N=116)	0.9%	0.0%	0.9%	24.1%	0.0%	1.7%	2.6%
女性・50歳代(N=111)	1.8%	3.6%	0.9%	27.0%	0.0%	2.7%	2.7%
女性・60歳代(N=171)	0.6%	0.0%	1.2%	32.7%	0.0%	21.6%	2.3%
女性・70歳代以上(N=149)	0.0%	2.0%	0.7%	25.5%	0.0%	51.0%	14.8%

4-2 労働状況

4-2-1 1週間の平均労働日数

問18(1) あなたは平均すると、週に何日働いていますか。(1日1時間でも働いていれば、1日と数えてお答えください。【1つに〇】)

1 1日 2 2日 3 3日 4 4日
5 5日 6 6日 7 7日

- ・「5日」が最も多く、次いで「6日」となっている
- ・男性の約3分の1、女性の約4分の1が週6日以上働いている

平均労働日数をみると、「5日」が50.1%で最も多く、次いで「6日」(25.7%)となっている。性別でみると、男女共に「5日」(男性50.9%、女性49.5%)が最も多く、次いで「6日」(男性28.2%、女性23.4%)、男性が「7日」(9.2%)、女性が「4日」(11.4%)となっている。6日以上の方が男性で37.4%、女性で26.6%となっている。

図18-1-1 性別 平均労働日数(週あたり)

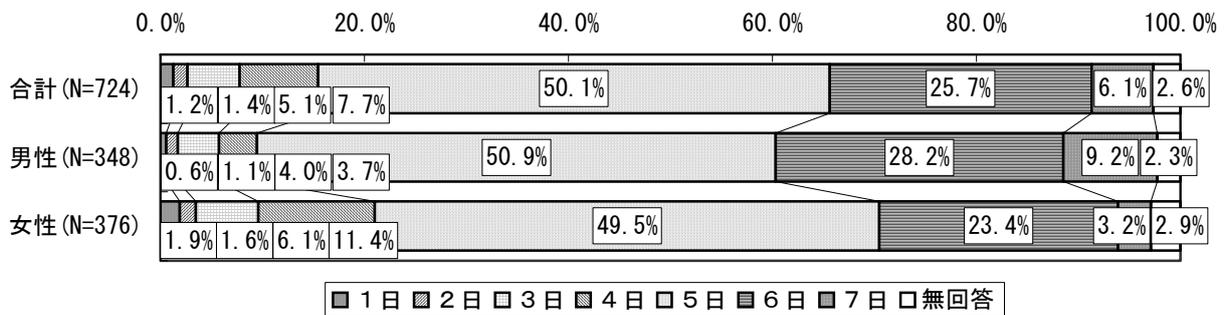
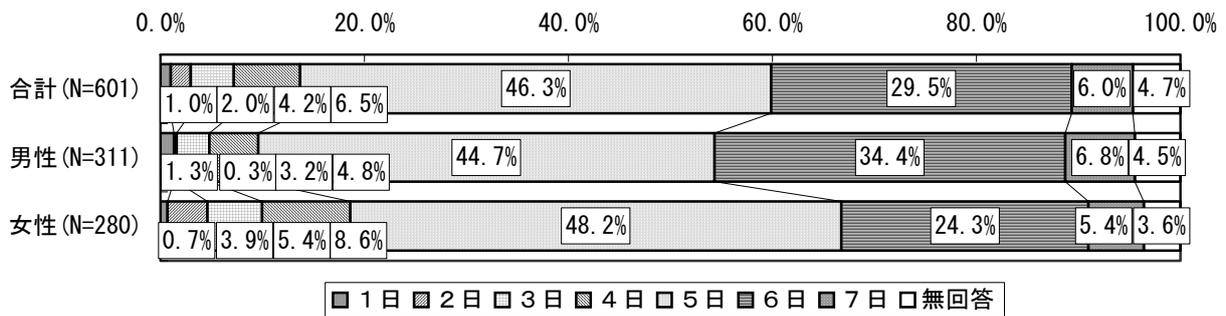


図18-1-2 性別 平均労働日数(週あたり)【前回調査】



性別・職業別の週あたりの平均労働日数をみると男女とも、正規従業員や非正規従業員は、「5日」が多いが、自営・自由業では、「6日」が多くなっている。

表 性別・職業別 平均労働日数（週あたり）

	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	無回答
男性(N=348)	0.6%	1.1%	4.0%	3.7%	50.9%	28.2%	9.2%	2.3%
男性・自営・自由業(N=94)	2.1%	1.1%	5.3%	4.3%	26.6%	37.2%	21.3%	2.1%
男性・家族従事者(N=7)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	42.9%	42.9%	14.3%	0.0%
男性・正規従業員(N=191)	0.0%	0.5%	2.1%	1.6%	63.4%	25.1%	5.2%	2.1%
男性・非正規従業員(N=49)	0.0%	4.1%	10.2%	12.2%	44.9%	22.4%	2.0%	4.1%
女性(N=376)	1.9%	1.6%	6.1%	11.4%	49.5%	23.4%	3.2%	2.9%
女性・自営・自由業(N=50)	4.0%	2.0%	4.0%	10.0%	24.0%	36.0%	16.0%	4.0%
女性・家族従事者(N=16)	6.3%	0.0%	6.3%	0.0%	31.3%	31.3%	6.3%	18.8%
女性・正規従業員(N=123)	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	63.4%	30.9%	1.6%	3.3%
女性・非正規従業員(N=180)	2.2%	2.8%	11.1%	20.6%	48.3%	13.9%	0.6%	0.6%

4-2-2 1週間の平均労働時間

問18(2) あなたは平均すると、週に何時間ぐらい働いていますか。(残業時間は含みますが、休憩時間は除きます。)【1つに○】

- | | |
|----------------|----------------|
| 1 10時間未満 | 2 10時間以上20時間未満 |
| 3 20時間以上30時間未満 | 4 30時間以上40時間未満 |
| 5 40時間以上50時間未満 | 6 50時間以上60時間未満 |
| 7 60時間以上 | |

- ・「40時間以上50時間未満」が最も多い
- ・次いで男性では「50時間以上60時間未満」「60時間以上」が多く(同率)、女性では「30時間以上40時間未満」が多い

平均労働時間をみると、「40時間以上50時間未満」が32.2%と最も多く、次いで「30時間以上40時間未満」(14.5%)となっている。

性別でみると、男女共に「40時間以上50時間未満」(男性37.1%、女性27.7%)が最も多く、次いで男性では「50時間以上60時間未満」と「60時間以上」(共に17.8%)、女性では「30時間以上40時間未満」(18.6%)、「20時間以上30時間未満」(15.7%)となっている。

40時間未満(「10時間未満」,「10時間以上20時間未満」,「20時間以上30時間未満」,「30時間以上40時間未満」の合計)は女性(56.9%)が男性(25.6%)を大きく上回っている。

前回と比較すると、時間帯の区切り方が違い、より細かいので、一概に比較できないが、「60時間以上」の割合が男性で3.4%減少しており、女性で0.4%増加している。

図18-2-1 性別 平均労働時間(週あたり)

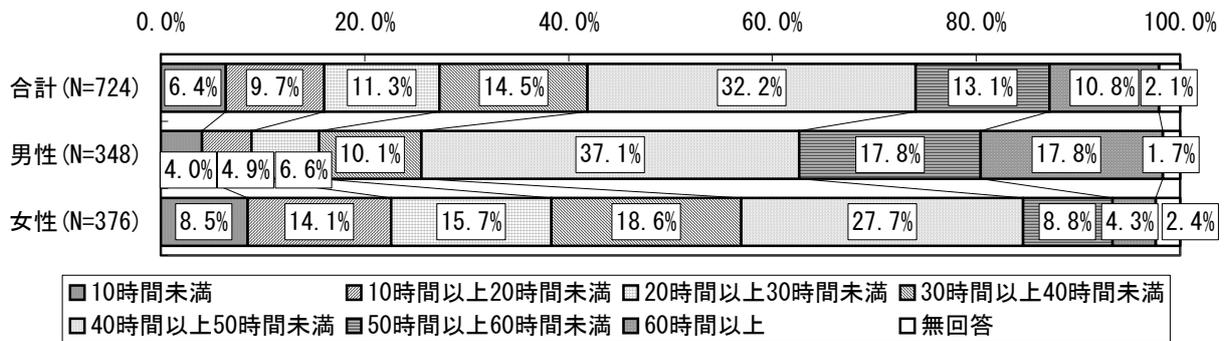
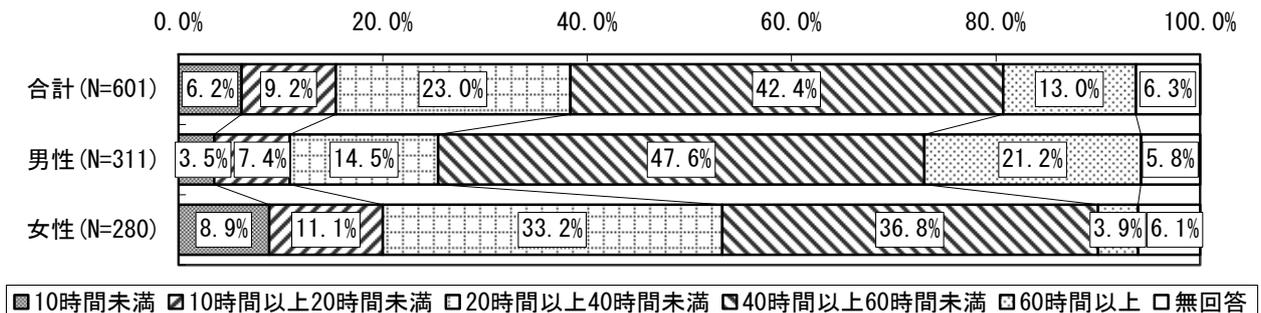


図18-2-2 性別 平均労働時間(週あたり)【前回調査】



性別・年齢別に週あたりの平均労働時間をみると、女性の70歳代以上を除き、男女ともいずれの年齢層も「40時間以上50時間未満」が多い。次いで男性は、40歳代まではそれを超える労働時間と回答する割合が高く、女性では「30時間以上40時間未満」以下の労働時間と回答する割合が高い。労働時間では、男性の方が多くなる傾向がみられる。

表 18-2-1 性別・年齢別 平均労働時間（週あたり）

	10時間 未満	10時間 以上20 時間未満	20時間 以上30 時間未満	30時間 以上40 時間未満	40時間 以上50 時間未満	50時間 以上60 時間未満	60時間 以上	無回答
男性(N=348)	4.0%	4.9%	6.6%	10.1%	37.1%	17.8%	17.8%	1.7%
男性・20歳代(N=32)	6.3%	6.3%	0.0%	9.4%	34.4%	12.5%	31.3%	0.0%
男性・30歳代(N=63)	3.2%	3.2%	3.2%	6.3%	34.9%	25.4%	22.2%	1.6%
男性・40歳代(N=77)	2.6%	3.9%	1.3%	5.2%	39.0%	22.1%	23.4%	2.6%
男性・50歳代(N=75)	2.7%	2.7%	4.0%	17.3%	40.0%	21.3%	12.0%	0.0%
男性・60歳代(N=75)	4.0%	6.7%	20.0%	8.0%	38.7%	8.0%	14.7%	0.0%
男性・70歳代以上(N=26)	11.5%	11.5%	7.7%	19.2%	26.9%	11.5%	0.0%	11.5%
女性(N=376)	8.5%	14.1%	15.7%	18.6%	27.7%	8.8%	4.3%	2.4%
女性・20歳代(N=53)	3.8%	1.9%	7.5%	17.0%	50.9%	11.3%	7.5%	0.0%
女性・30歳代(N=78)	10.3%	15.4%	14.1%	19.2%	28.2%	9.0%	1.3%	2.6%
女性・40歳代(N=83)	7.2%	13.3%	15.7%	18.1%	24.1%	14.5%	6.0%	1.2%
女性・50歳代(N=75)	9.3%	14.7%	21.3%	20.0%	25.3%	5.3%	4.0%	0.0%
女性・60歳代(N=74)	6.8%	20.3%	18.0%	18.9%	21.6%	5.4%	4.1%	4.1%
女性・70歳代以上(N=13)	30.8%	23.1%	7.7%	15.4%	0.0%	0.0%	0.0%	23.1%

性別・職業別に週あたりの平均労働時間をみると、男性の正規従業員では、「40時間以上」（「40時間以上50時間未満」、「50時間以上60時間未満」、「60時間以上」の合計）は8割超と多く、女性の正規従業員は7割弱である。一方、男性の自営・自由業は65.9%、女性の自営・自由業は36.0%である。男性の自営・自由業、正規従業員、非正規従業員では、「40時間以上50時間未満」が最も多い。女性の正規従業員では「40時間以上50時間未満」が最も多い。

表 18-2-2 性別・職業別 平均労働時間（週あたり）

	10時間 未満	10時間 以上20 時間未満	20時間 以上30 時間未満	30時間 以上40 時間未満	40時間 以上50 時間未満	50時間 以上60 時間未満	60時間 以上	無回答
男性(N=348)	4.0%	4.9%	6.6%	10.1%	37.1%	17.8%	17.8%	1.7%
男性・自営・自由業(N=94)	6.4%	5.3%	10.6%	9.6%	33.0%	13.8%	19.1%	2.1%
男性・家族従事者(N=7)	0.0%	0.0%	0.0%	42.9%	28.6%	0.0%	28.6%	0.0%
男性・正規従業員(N=191)	2.6%	3.7%	1.0%	7.9%	38.7%	24.6%	19.9%	1.6%
男性・非正規従業員(N=49)	4.1%	10.2%	20.4%	16.3%	38.8%	2.0%	6.1%	2.0%
女性(N=376)	8.5%	14.1%	15.7%	18.6%	27.7%	8.8%	4.3%	2.4%
女性・自営・自由業(N=50)	8.0%	14.0%	12.0%	28.0%	18.0%	10.0%	8.0%	2.0%
女性・家族従事者(N=16)	25.0%	6.3%	18.8%	12.5%	6.3%	12.5%	0.0%	18.8%
女性・正規従業員(N=123)	5.7%	0.8%	2.4%	13.0%	51.2%	16.3%	8.9%	1.6%
女性・非正規従業員(N=180)	9.4%	24.4%	25.6%	20.0%	16.7%	2.8%	0.0%	1.1%

4-3 職場での待遇の男女差

問19 あなたの職場では、賃金や昇進制度といった待遇に男女間の不当な差があると感じますか。【あてはまるものすべてに○】

- 1 男女間に不当な差はない
- 2 募集・採用時の差別がある
- 3 女性は責任のある仕事をまかされないなど、配置上の差別がある
- 4 残業は男性がするという雰囲気がある
- 5 男性と女性と同じ教育・訓練を受けられない
- 6 同じ仕事でも男女で賃金が異なる
- 7 同等の実力・実績があっても男女で昇進・昇格時期が異なる
- 8 女性は結婚・出産を機に退職するという雰囲気がある
- 9 (気に入らないという理由で解雇されるなど) 女性の雇用が安定していない
- 10 男性は育児休業・介護休業が取りづらい
- 11 その他(具体的に:)

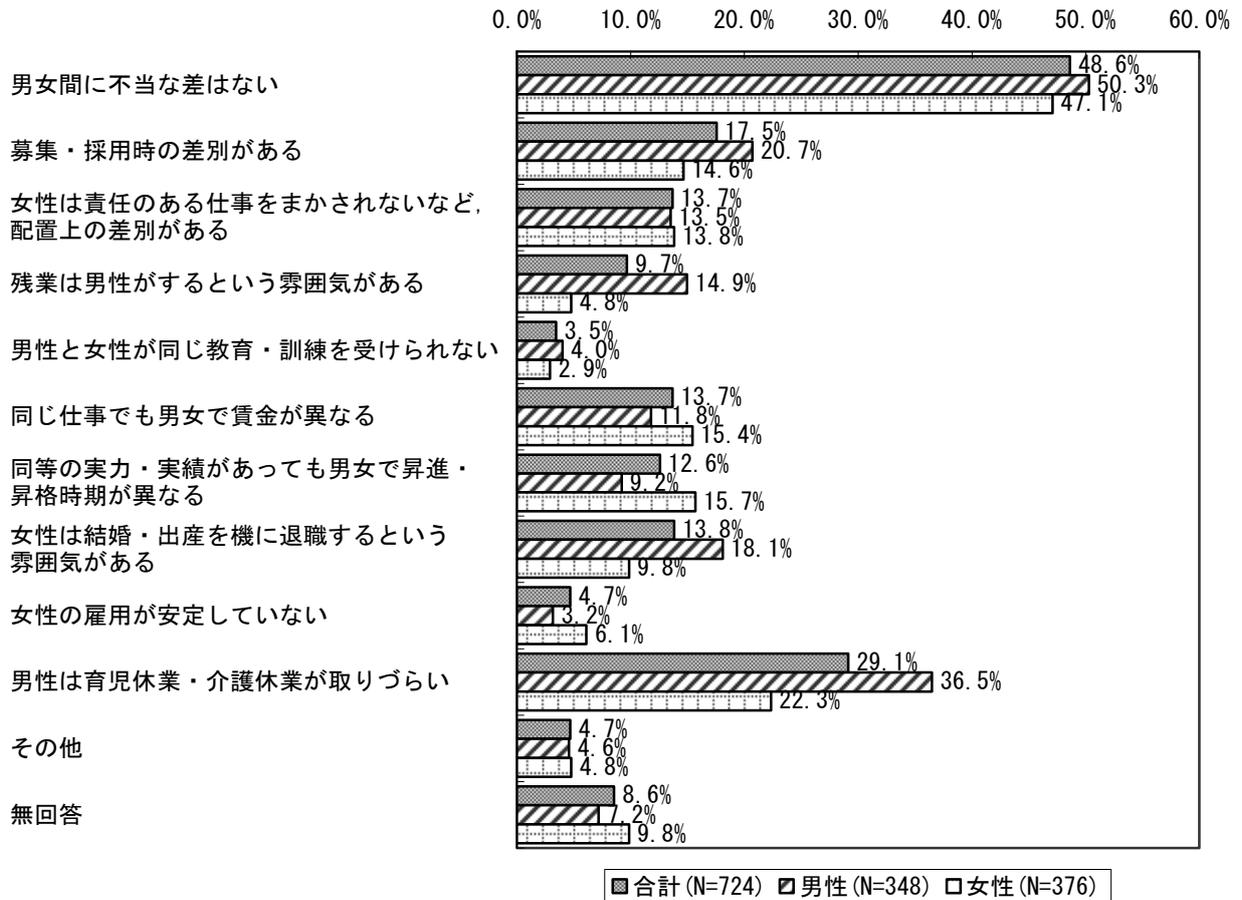
「男女間に不当な差はない」が最も多く、次いで「男性は育児休業・介護休業が取りづらい」が多い

職場での待遇の男女差をみると、「男女間に不当な差はない」が48.6%で最も多く、次いで「男性は育児休業・介護休業が取りづらい」(29.1%)、「募集・採用時の差別がある」(17.5%)となっている。

性別でみると、男女共に「男女間に不当な差はない」(男性50.3%、女性47.1%)が最も多く、次いで男性では「男性は育児休業・介護休業が取りづらい」(36.5%)、「募集・採用時の差別がある」(20.7%)、女性では「男性は育児休業・介護休業が取りづらい」(22.3%)、「同等の実力・実績があっても男女で昇進・昇格時期が異なる」(15.7%)となっている。

「男性は育児休業・介護休業が取りづらい」「残業は男性がするという雰囲気がある」では、それぞれ男性が女性を14.2ポイント、10.1ポイント上回っている。

図 19 性別 職場での待遇の男女差



性別・職業別に職場での待遇の男女差についての考え方をみると、「男女間に不当な差はない」では、「家族従事者」を除いて、男性の方が女性に比べて多くなっている。

「男性は育児休業・介護休業が取りづらい」と回答した人は、男女とも正規従業員がその他の職業に比べ多くなっている。

表 19 性別・職業別 職場での待遇の男女差

	男女間に不当な差はない	募集・採用時の差別がある	女性は責任のある仕事をまかせないなど、配置上の差別がある	残業は男性がするという雰囲気がある	男性と女性が同じ教育・訓練を受けない	同じ仕事でも賃金が異なる
男性 (N=348)	50.3%	20.7%	13.5%	14.9%	4.0%	11.8%
男性・自営・自由業 (N=94)	50.0%	20.2%	7.4%	11.7%	7.4%	11.7%
男性・家族従事者 (N=7)	14.3%	14.3%	28.6%	14.3%	0.0%	0.0%
男性・正規従業員 (N=191)	50.3%	19.9%	15.2%	16.2%	2.6%	11.5%
男性・非正規従業員 (N=49)	55.1%	26.5%	18.4%	18.4%	4.1%	14.3%
女性 (N=376)	47.1%	14.6%	13.8%	4.8%	2.9%	15.4%
女性・自営・自由業 (N=50)	44.0%	16.0%	8.0%	4.0%	4.0%	12.0%
女性・家族従事者 (N=16)	18.8%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%
女性・正規従業員 (N=123)	41.5%	16.3%	18.7%	5.7%	4.9%	20.3%
女性・非正規従業員 (N=180)	53.9%	13.9%	13.3%	5.0%	1.7%	13.9%
	同等の実力・実績があっても男女で昇進・昇格時期が異なる	女性は結婚・出産を機に職を辞するという雰囲気がある	(気に入らないという理由で解雇されるなど)女性の雇用が安定していない	男性は育児休業・介護休業が取りづらい	その他	
男性 (N=348)	9.2%	18.1%	3.2%	36.5%	4.6%	
男性・自営・自由業 (N=94)	5.3%	19.1%	2.1%	24.5%	6.4%	
男性・家族従事者 (N=7)	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	14.3%	
男性・正規従業員 (N=191)	11.5%	18.8%	2.6%	47.1%	3.7%	
男性・非正規従業員 (N=49)	10.2%	16.3%	6.1%	24.5%	4.1%	
女性 (N=376)	15.7%	9.8%	6.1%	22.3%	4.8%	
女性・自営・自由業 (N=50)	14.0%	4.0%	6.0%	18.0%	0.0%	
女性・家族従事者 (N=16)	0.0%	0.0%	0.0%	6.3%	6.3%	
女性・正規従業員 (N=123)	26.0%	13.8%	4.1%	35.8%	3.3%	
女性・非正規従業員 (N=180)	10.6%	10.0%	8.3%	16.7%	6.7%	

4-4 セクシュアル・ハラスメントの経験・見聞き

問20(1) あなたは、セクシュアル・ハラスメントを受けたことや見聞きしたことがありますか。【1つに○】

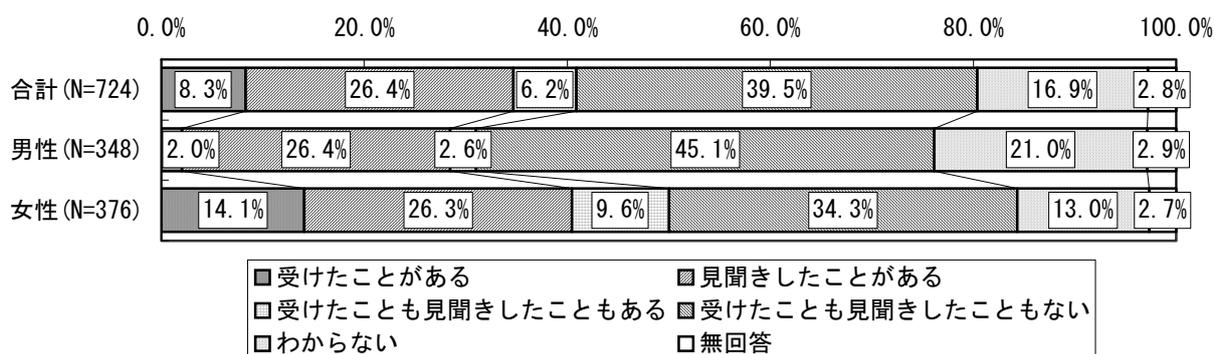
1 受けたことがある	2 見聞きしたことがある
3 受けたことも見聞きしたこともある	4 受けたことも見聞きしたこともない
5 わからない	

セクシュアル・ハラスメントの経験・見聞きをしているのは約4割

セクシュアル・ハラスメントの経験・見聞きをみると、「受けたことも見聞きしたこともない」が39.5%と最も多く、次いで「見聞きしたことがある」(26.4%)となっている。「受けたことがある」「見聞きしたことがある」「受けたことも見聞きしたこともある」の合計は40.9%で、約4割がセクシュアル・ハラスメントの経験・見聞きをしている。

性別でみると、男女共に「受けたことも見聞きしたこともない」(男性45.1%、女性34.3%)が最も多く、次いで「見聞きしたことがある」(男性26.4%、女性26.3%)となっている。「受けたことがある」及び「受けたことも見聞きしたこともある」の合計は男性の4.6%に対して、女性は23.7%となっている。

図20 性別 セクシュアル・ハラスメントの経験・見聞き



4-5 セクシュアル・ハラスメントの内容

問20(2) あなたが受けたり見聞きしたりしたことは、どのような内容ですか。

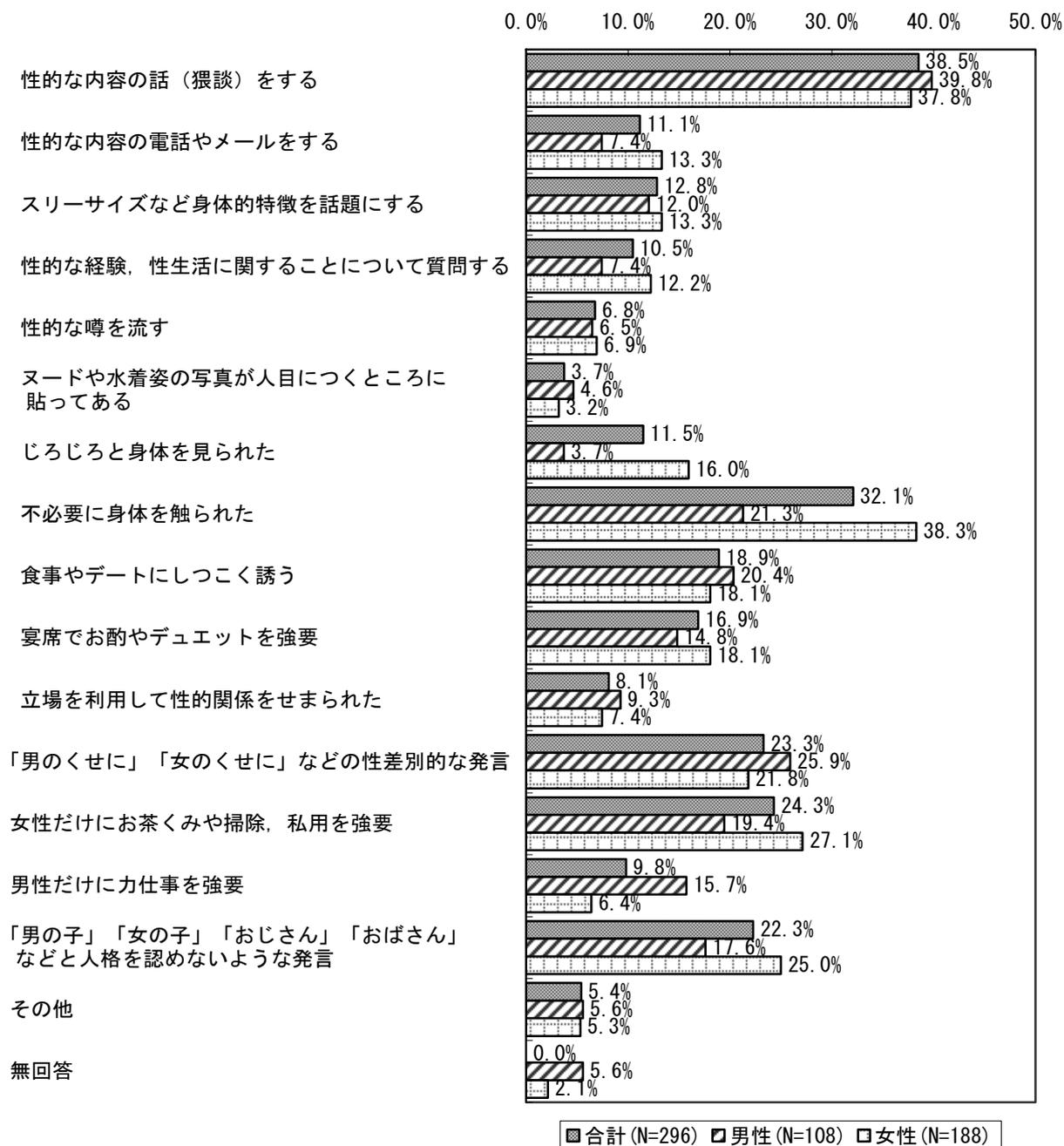
【あてはまるものすべてに○】

- 1 性的な内容の話（猥談）をする
- 2 性的な内容の電話やメールをする
- 3 スリーサイズなど身体的特徴を話題にする
- 4 性的な経験，性生活に関することについて質問する
- 5 性的な噂を流す
- 6 ヌードや水着姿の写真が人目につくところに貼ってある
- 7 じろじろと身体を見られた
- 8 不必要に身体を触られた
- 9 食事やデートにしつこく誘う
- 10 宴席でお酌やデュエットを強要
- 11 立場を利用して性的関係をせまられた
- 12 「男のくせに」「女のくせに」などの性差別的な発言
- 13 女性だけにお茶くみや掃除，私用を強要
- 14 男性だけに力仕事を強要
- 15 「男の子」「女の子」「おじさん」「おばさん」などと人格を認めないような発言
- 16 その他（具体的に： _____)

「性的な内容の話（猥談）をする」が最も多く、次いで「不必要に身体を触られた」となっている

受けたり見聞きしたセクシュアル・ハラスメントの内容をみると、「性的な内容の話（猥談）をする」が 38.5%と最も多く、次いで「不必要に身体を触られた」（32.1%）、「女性だけにお茶くみや掃除，私用を強要」（24.3%）となっている。

図 20-2-1 性別 受けたり見聞きしたセクシュアル・ハラスメントの内容



問 20(1)でセクシュアル・ハラスメントを「受けたことがある」又は「受けたことも見聞きしたこともある」と回答した女性（副設問のため件数が 188 件と全体の件数より少ないことに留意する必要がある）についてセクシュアル・ハラスメントの内容をみると、「不必要に身体を触られた」が 89 人中 48 人（53.9%）と最も多く、次いで「性的な内容の話（猥談）をする」が 89 人中 40 人（44.9%）となっている。

男性は、件数が少なく回答内容の誤差が大きくなる可能性があり、参考程度となるが、「男性だけに力仕事を強要」が女性に比べ多くなっている。

表 20 セクシュアル・ハラスメントの経験・見聞き別 被害内容

	性的な内容の話 (猥談) をする	性的な内容の電話 やメール をする	スリーサイズなど 身体的特徴を話題 にする	性的な経験、性生活に 関することについて質問 する	性的な噂 を流す	ヌードや水着姿が人目につく ところに貼ってある	じろじろと身体を見られた	不必要に身体を触られた	食事やデートに誘う
男性・受けたことがある	2 28.6%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%
男性・見聞きしたことがある	38 41.3%	7 7.6%	10 10.9%	5 5.4%	6 6.5%	4 4.3%	3 3.3%	21 22.8%	21 22.8%
男性・受けたことも見聞きしたこともある	3 33.3%	1 11.1%	2 22.2%	3 33.3%	1 11.1%	1 11.1%	0 0.0%	2 22.2%	1 11.1%
男性	43 39.8%	8 7.4%	13 12.0%	8 7.4%	7 6.5%	5 4.6%	4 3.7%	23 21.3%	22 20.4%
女性・受けたことがある	22 41.5%	8 15.1%	10 18.9%	8 15.1%	6 11.3%	1 1.9%	8 15.1%	29 54.7%	6 11.3%
女性・見聞きしたことがある	31 31.3%	15 15.2%	6 6.1%	8 8.1%	5 5.1%	2 2.0%	15 15.2%	24 24.2%	20 20.2%
女性・受けたことも見聞きしたこともある	18 50.0%	2 5.6%	9 25.0%	7 19.4%	2 5.6%	3 8.3%	7 19.4%	19 52.8%	8 22.2%
女性	71 37.8%	25 13.3%	25 13.3%	23 12.2%	13 6.9%	6 3.2%	30 16.0%	72 38.3%	34 18.1%
	宴席でお酌やデュエットを強要	立場を利用して性的関係をせまられた	「男のくせに」「女のくせに」などの性差別的な発言	女性だけにお茶くみや掃除、私用を強要	男性だけに力仕事を強要	「男の子」「女の子」「おじさん」「おばさん」などと人格を認めないような発言	その他	無回答	有効回答数
男性・受けたことがある	0 0.0%	0 0.0%	2 28.6%	3 42.9%	3 42.9%	2 28.6%	1 14.3%	1 14.3%	7 100.0%
男性・見聞きしたことがある	15 16.3%	9 9.8%	23 25.0%	14 15.2%	10 10.9%	13 14.1%	5 5.4%	5 5.4%	92 100.0%
男性・受けたことも見聞きしたこともある	1 11.1%	1 11.1%	3 33.3%	4 44.4%	4 44.4%	4 44.4%	0 0.0%	0 0.0%	9 100.0%
男性	16 14.8%	10 9.3%	28 25.9%	21 19.4%	17 15.7%	19 17.6%	6 5.6%	6 5.6%	108 100.0%
女性・受けたことがある	7 13.2%	1 1.9%	11 20.8%	14 26.4%	2 3.8%	13 24.5%	4 7.5%	0 0.0%	53 100.0%
女性・見聞きしたことがある	20 20.2%	10 10.1%	22 22.2%	30 30.3%	6 6.1%	22 22.2%	3 3.0%	2 2.0%	99 100.0%
女性・受けたことも見聞きしたこともある	7 19.4%	3 8.3%	8 22.2%	7 19.4%	4 11.1%	12 33.3%	3 8.3%	2 5.6%	36 100.0%
女性	34 18.1%	14 7.4%	41 21.8%	51 27.1%	12 6.4%	47 25.0%	10 5.3%	4 2.1%	188 100.0%

4-6 セクシュアル・ハラスメントを受けた際の対応

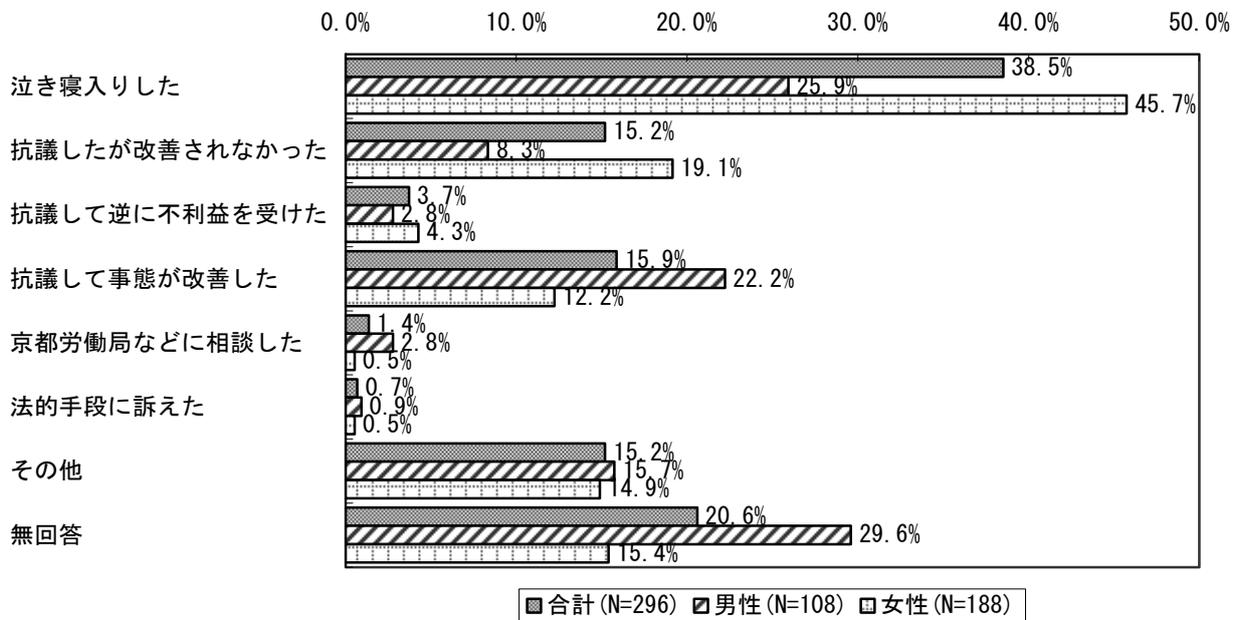
問21 問20のセクシュアル・ハラスメントを受けた時、あなたはどうしましたか。
 (見聞きした場合は、受けた当事者がどうされたかをお答えください。)
 【あてはまるものすべてに○】

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1 泣き寝入りした | 2 抗議したが改善されなかった |
| 3 抗議して逆に不利益を受けた | 4 抗議して事態が改善した |
| 5 京都労働局などに相談した | 6 法的手段に訴えた |
| 7 その他(具体的に: _____) | |

「泣き寝入り」が最も多い

セクシュアル・ハラスメントを受けた際の対応をみると、「泣き寝入りした」が38.5%で最も多く、次いで「抗議して事態が改善した」(15.9%)となっている。

図21-1 性別 セクシュアル・ハラスメントを受けた際の対応



問 20(1)でセクシュアル・ハラスメントを「受けたことがある」又は「受けたことも見聞きしたこともある」と回答した女性についてセクシュアル・ハラスメントを受けた際の対応をみると、「泣き寝入りした」が 89 人中 43 人 (48.3%) と最も多く、次いで「抗議したが改善されなかった」が 89 人中 19 人 (21.3%) となっている。

男性は、前問と同様に件数が少ないので参考程度となるが、「抗議して事態が改善した」との回答が女性に比べ多くなっている。

表 21-1 セクシュアル・ハラスメントの経験・見聞き別 被害対応

	泣き寝入りした	抗議したが改善されなかった	抗議して逆に不利益を受けた	抗議して事態が改善した	京都労働局などに相談した	法的手段に訴えた	その他	無回答	有効回答数
男性・受けたことがある	4 57.1%	0 0.0%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 14.3%	2 28.6%	7 100.0%
男性・見聞きしたことがある	21 22.8%	8 8.7%	2 2.2%	22 23.9%	2 2.2%	1 1.1%	15 16.3%	27 29.3%	92 100.0%
男性・受けたことも見聞きしたこともある	3 33.3%	1 11.1%	1 11.1%	1 11.1%	1 11.1%	0 0.0%	1 11.1%	3 33.3%	9 100.0%
男性	28 25.9%	9 8.3%	3 2.8%	24 22.2%	3 2.8%	1 0.9%	17 15.7%	32 29.6%	108 100.0%
女性・受けたことがある	26 49.1%	12 22.6%	3 5.7%	5 9.4%	0 0.0%	0 0.0%	9 17.0%	6 11.3%	53 100.0%
女性・見聞きしたことがある	43 43.4%	17 17.2%	2 2.0%	12 12.1%	1 1.0%	1 1.0%	12 12.1%	19 19.2%	99 100.0%
女性・受けたことも見聞きしたこともある	17 47.2%	7 19.4%	3 8.3%	6 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	7 19.4%	4 11.1%	36 100.0%
女性	86 45.7%	36 19.1%	8 4.3%	23 12.2%	1 0.5%	1 0.5%	28 14.9%	29 15.4%	188 100.0%

4-7 就労意向

問22 あなたは、今後、収入を得る仕事につきたいと思いますか。【1つに○】

- 1 ぜひ、仕事につきたいと思う 2 できれば、仕事につきたいと思う
3 仕事につきたいと思わない 4 わからない

就労していない人のうち就労を希望する人は3割

就労意向をみると、「仕事につきたいと思わない」が37.8%で最も多く、「ぜひ、仕事につきたいと思う」と「できれば、仕事につきたいと思う」の合計（33.1%）を上回っている。

性別でみると、男女共に「仕事につきたいと思わない」（男性38.7%、女性36.9%）が最も多く、次いで男性では「ぜひ、仕事につきたいと思う」（18.7%）、「できれば、仕事につきたいと思う」（16.7%）、女性では「できれば、仕事につきたいと思う」（21.3%）、「わからない」（12.0%）となっている。

前回調査と比較すると、男女ともに「ぜひ、仕事につきたいと思う」と「できれば、仕事につきたいと思う」がやや減少している。

図 22-1 性別 就労意向

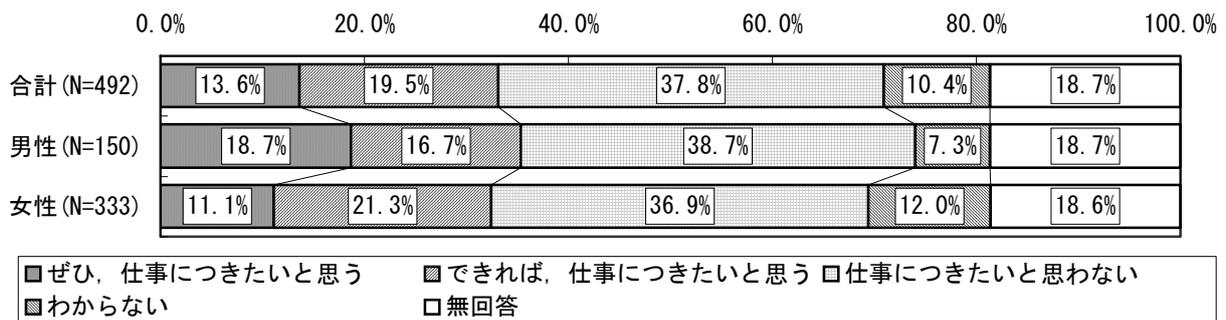
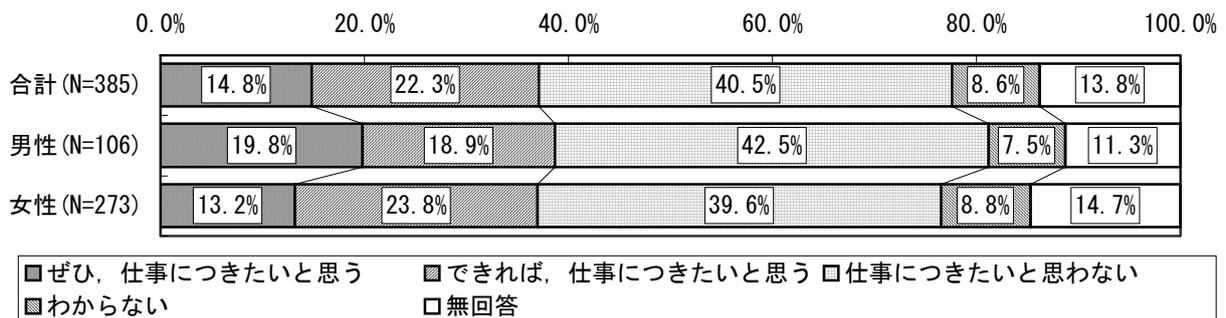


図 22-2 性別 就労意向【前回調査】

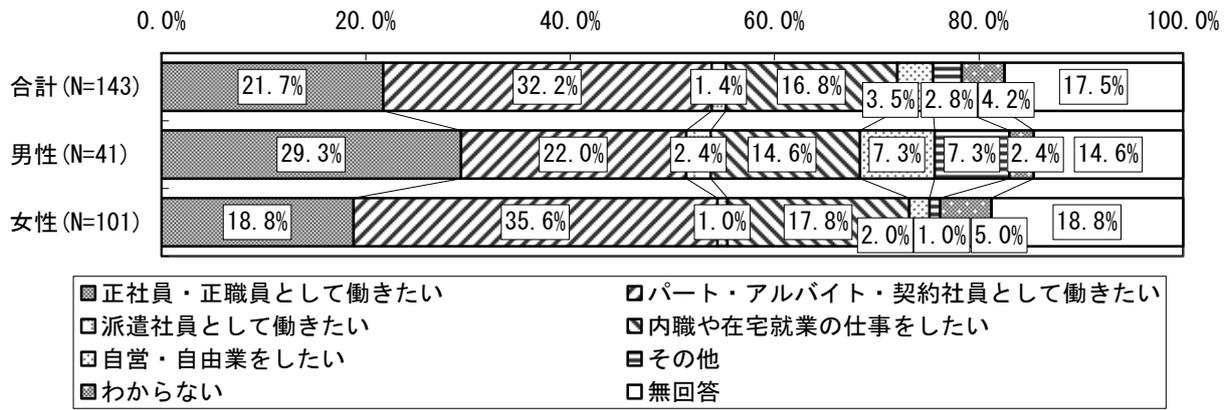


性別・年齢別に就労意向をみると、男性では対象の件数が少ないが、50歳代までは「ぜひ、仕事につきたいと思う」が多い。女性では30歳代～40歳代で「できれば、仕事につきたいと思う」が多い。

表 22 性別・年齢別 就労意向

	ぜひ、仕事につきたいと思う	できれば、仕事につきたいと思う	仕事につきたいと思わない	わからない	無回答
男性(N=150)	18.7%	16.7%	38.7%	7.3%	18.7%
男性・20歳代(N=14)	92.9%	0.0%	7.1%	0.0%	0.0%
男性・30歳代(N=6)	83.3%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%
男性・40歳代(N=9)	66.7%	22.2%	11.1%	0.0%	0.0%
男性・50歳代(N=5)	60.0%	20.0%	0.0%	0.0%	20.0%
男性・60歳代(N=35)	2.9%	34.3%	42.9%	5.7%	14.3%
男性・70歳代以上(N=81)	0.0%	12.3%	50.6%	11.1%	25.9%
女性(N=333)	11.1%	21.3%	36.9%	12.0%	18.6%
女性・20歳代(N=17)	41.2%	29.4%	11.8%	0.0%	17.6%
女性・30歳代(N=45)	35.6%	37.8%	13.3%	2.2%	11.1%
女性・40歳代(N=30)	23.3%	33.3%	20.0%	16.7%	6.7%
女性・50歳代(N=33)	6.1%	33.3%	45.5%	9.1%	6.1%
女性・60歳代(N=93)	4.3%	22.6%	39.8%	10.8%	22.6%
女性・70歳代以上(N=114)	0.9%	6.1%	49.1%	18.4%	25.4%

図 23-1-2 性別 希望する働き方【前回調査】



4-9 働き方を希望する理由

問23(2) (1)で選択した働き方を希望する理由は何ですか。【1つに○】

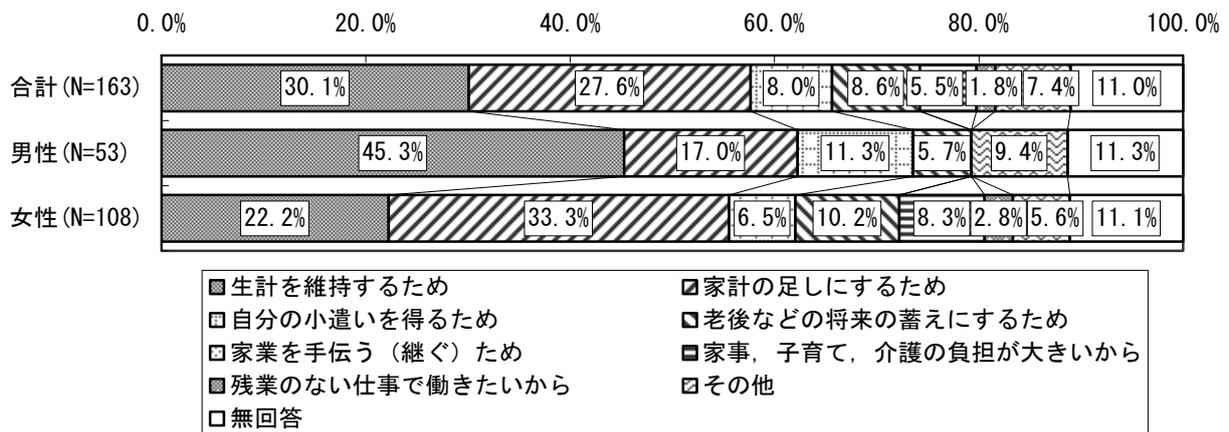
- | | |
|------------------|------------------------|
| 1 生計を維持するため | 2 家計の足しにするため |
| 3 自分の小遣いを得るため | 4 老後などの将来の蓄えにするため |
| 5 家業を手伝う(継ぐ)ため | 6 家事, 子育て, 介護の負担が大きいから |
| 7 残業のない仕事で働きたいから | 8 その他(具体的に:) |

男性では「生計を維持するため」、女性では「家計の足しにするため」が最も多い

働き方を希望する理由をみると、「生計を維持するため」が30.1%と最も多く、次いで「家計の足しにするため」(27.6%)となっている。

性別でみると、男性では「生計を維持するため」(45.3%)が最も多く、次いで「家計の足しにするため」(17.0%)となっており、女性では「家計の足しにするため」(33.3%)が最も多く、次いで「生計を維持するため」(22.2%)となっている。

図23-2 性別 働き方を希望する理由



4-10 仕事につく上で困っていること・気になること

問24 あなたは、仕事につくうえで困っていること、又は、今後働きたいと思ったときに気になることはありますか。【あてはまるものすべてに〇】

- 1 給料・賃金が自分の希望と合うかどうか
- 2 勤務時間や雇用形態が自分の希望と合うかどうか
- 3 自分の資格、能力、適性にあった仕事の募集・採用があるかどうか
- 4 求人募集での年齢や資格の制限に合うかどうか
- 5 自分の能力や体力、健康状態
- 6 仕事を始めるための資金が不足していること
- 7 就職に関する情報が得にくいこと
- 8 募集や採用において雇用の機会が男女均等でないこと
- 9 介護や看護の必要な家族がいること
- 10 仕事をするに当たって家族の理解や協力が得られるかどうか
- 11 保育所や学童保育を利用できるかどうか
- 12 その他（具体的に： _____）
- 13 特に気がかりなことはない

・「勤務時間や雇用形態が自分の希望と合うかどうか」が最も多く、次いで「自分の能力や体力、健康状態」となっている

・「給料・賃金が自分の希望と合うかどうか」「勤務時間や雇用形態が自分の希望と合うかどうか」「自分の資格、能力、適性にあった仕事の募集・採用があるかどうか」「自分の能力や体力、健康状態」は前回よりも大きく増加している

仕事につく上で困っていること・気になることをみると、「勤務時間や雇用形態が自分の希望と合うかどうか」が58.9%で最も多く、次いで「自分の能力や体力、健康状態」(54.0%)、「自分の資格、能力、適性にあった仕事の募集・採用があるかどうか」(49.7%)となっている。

性別でみると、男性では「自分の能力や体力、健康状態」(58.5%)が最も多く、次いで「勤務時間や雇用形態が自分の希望と合うかどうか」(49.1%)、「自分の資格、能力、適性にあった仕事の募集・採用があるかどうか」(47.2%)となっており、女性では「勤務時間や雇用形態が自分の希望と合うかどうか」(63.9%)が最も多く、次いで「自分の能力や体力、健康状態」(52.8%)、「自分の資格、能力、適性にあった仕事の募集・採用があるかどうか」「求人募集での年齢や資格の制限に合うかどうか」(共に50.9%)となっている。

前回よりも大きく増加しているのは、「給料・賃金が自分の希望と合うかどうか」(24.7ポイント増)、「勤務時間や雇用形態が自分の希望と合うかどうか」(23.9ポイント増)、「自分の資格、能力、適性にあった仕事の募集・採用があるかどうか」(28.0ポイント増)「自分の能力や体力、健康状態」(26.7ポイント増)である。

図 24-1 性別 仕事につく上で困っていること・気になること

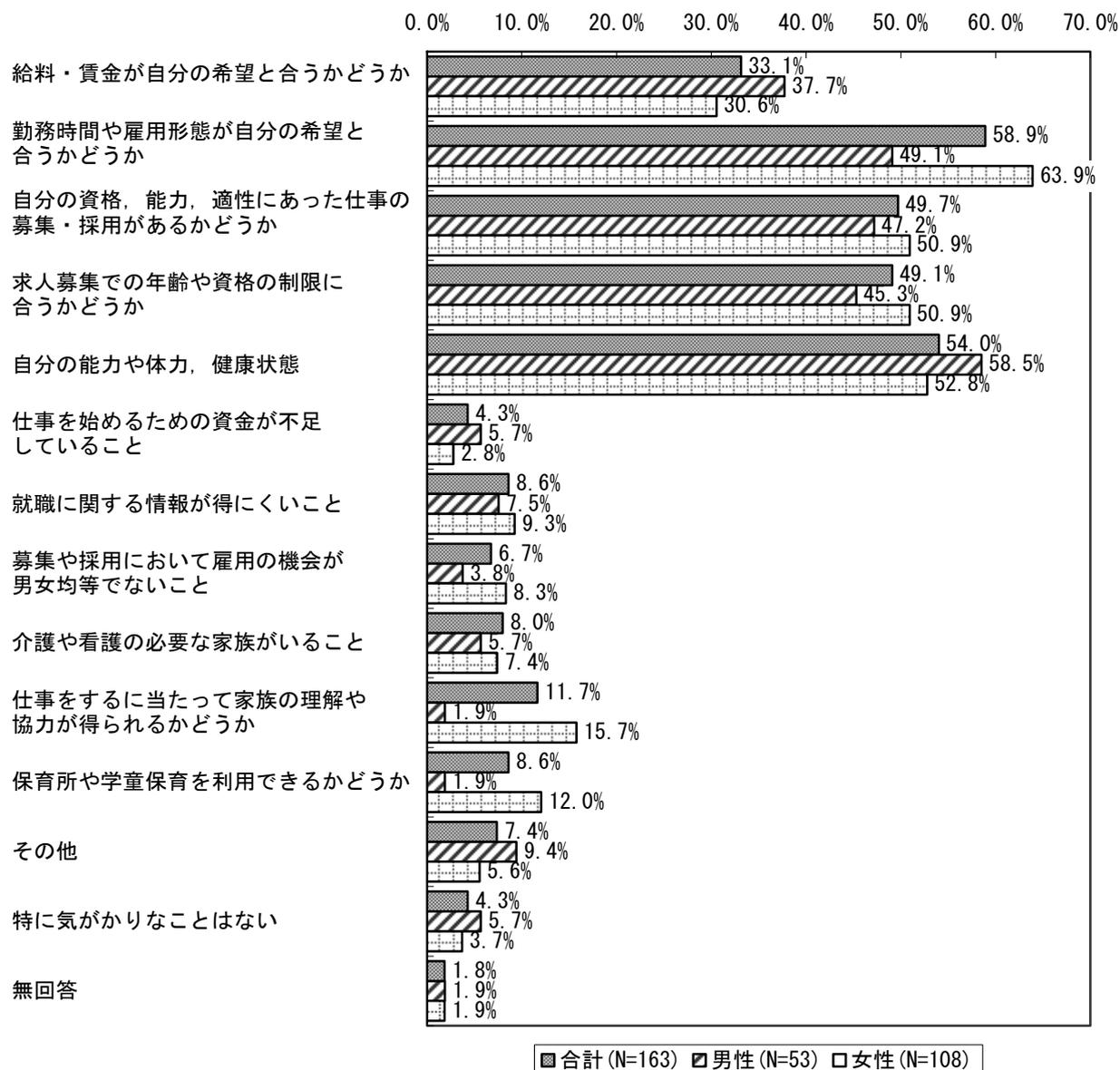
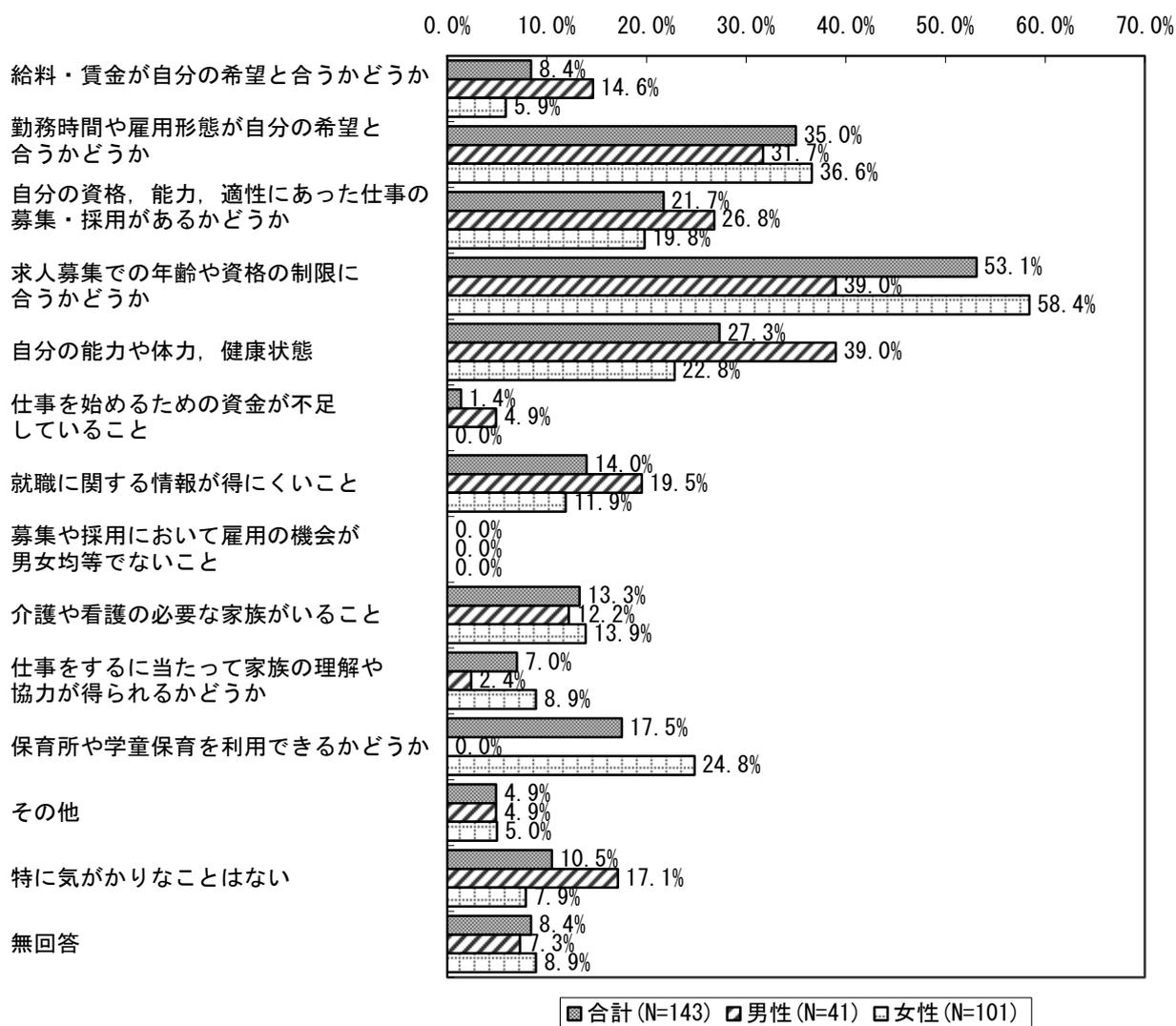


図 24-2 性別 仕事につく上で困っていること・気になること【前回調査】



4-11 仕事につきたいと思わない理由

問25 あなたが、仕事につきたいと思わない理由は何ですか。【3つまでに○】

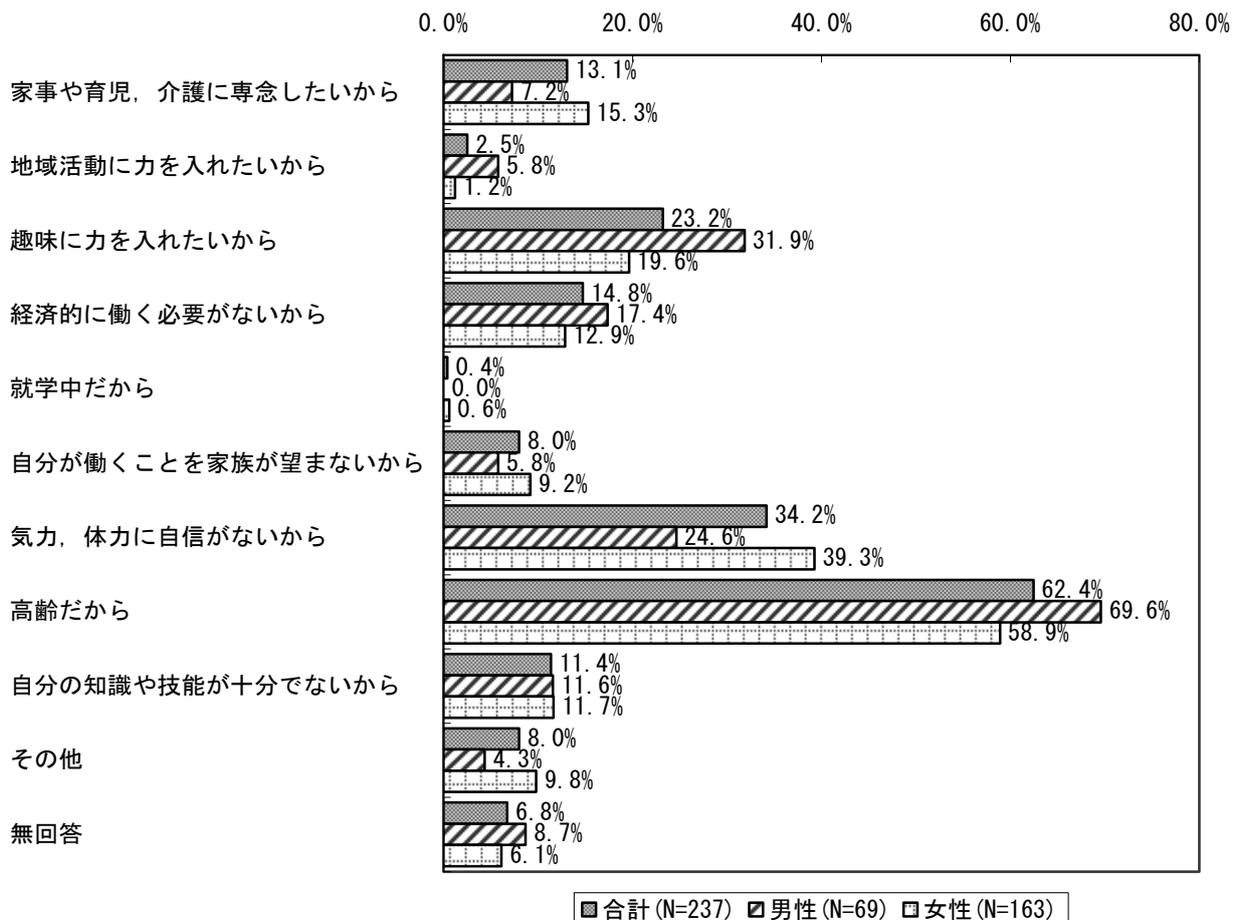
- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1 家事や育児，介護に専念したいから | 2 地域活動に力を入れたいから |
| 3 趣味に力を入れたいから | 4 経済的に働く必要がないから |
| 5 就学中だから | 6 自分が働くことを家族が望まないから |
| 7 気力，体力に自信がないから | 8 高齢だから |
| 9 自分の知識や技能が十分でないから | 10 その他（具体的に： ） |

「高齢だから」が最も多く、次いで「気力，体力に自信がないから」となっている

仕事につきたいと思わない理由をみると、「高齢だから」が62.4%と最も多く、次いで「気力，体力に自信がないから」(34.2%)、「趣味に力を入れたいから」(23.2%)となっている。

性別でみると、男女共に「高齢だから」(男性69.6%，女性58.9%)が最も多く、次いで男性では「趣味に力を入れたいから」(31.9%)、「気力，体力に自信がないから」(24.6%)、女性では「気力，体力に自信がないから」(39.3%)、「趣味に力を入れたいから」(19.6%)となっている。

図25 性別 仕事につきたいと思わない理由



V 京都市の取組について

5-1 「ウイングス京都」の利用状況

問26 京都市では、男女共同参画を推進していく中核施設として、男女共同参画センター「ウイングス京都」（中京区東洞院六角下る）を運営しています。あなたは、これまで「ウイングス京都」を利用したことがありますか。【1つに〇】

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1 毎週1回以上利用している | 2 月に1～3回程度利用している |
| 3 年に数回利用している | 4 今まで何回か利用したことがある |
| 5 知っているが利用したことはない | 6 知らなかった |

「ウイングス京都」の利用状況は横ばいとなっている

「ウイングス京都」の利用状況を見ると、「知らなかった」が47.3%で「知っているが利用したことがない」が34.2%である。利用経験のある人（「毎週1回以上利用している」「月に1～3回程度利用している」「年に数回利用している」「今まで何回か利用したことがある」の合計）は15.6%となっている。

性別でみると、男女共に「知らなかった」（男性56.1%、女性41.2%）が最も多く、次いで「知っているが利用したことはない」（男性31.8%、女性36.4%）、「今まで何回か利用したことがある」（男性8.5%、女性17.7%）となっている。利用経験のある人は女性（19.7%）が男性（9.5%）を上回っている。

前回と比較すると「知らなかった」が男女共に増加している。利用経験のある人の合計は前回が15.4%、今回は15.6%となっており、利用状況は横ばいとなっている。

図26-1 性別 「ウイングス京都」の利用状況

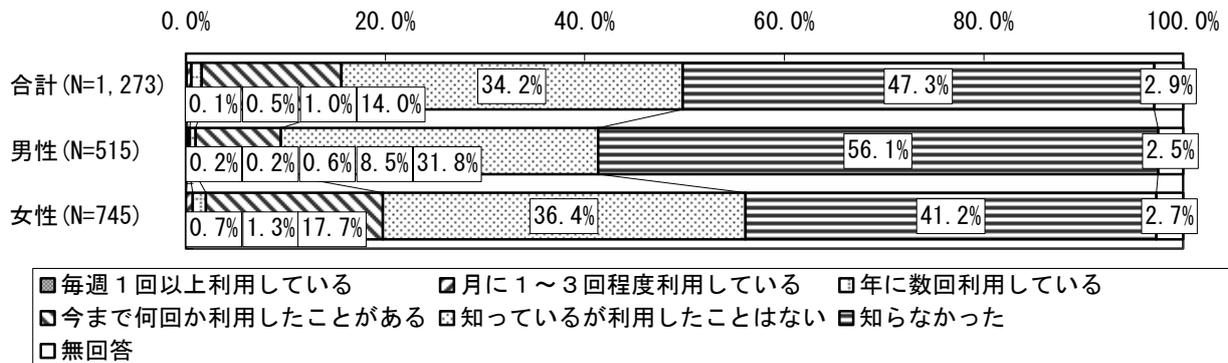
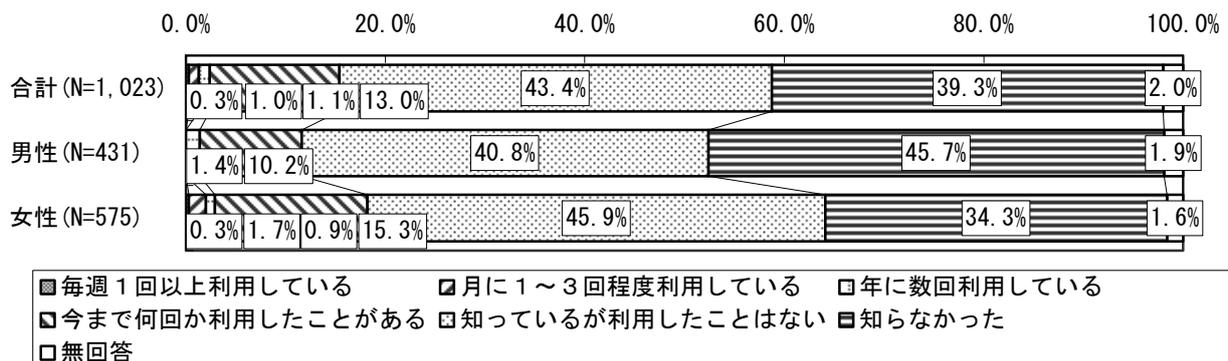


図26-2 性別 「ウイングス京都」の利用状況【前回調査】



性別・年齢別に「ウイングス京都」の利用状況をみると、男性はいずれの年齢層でも「知らなかった」と回答した人が最も多く、女性でも30歳代、40歳代を除いて同様の回答をした人が最も多い。また、「今まで何回か利用したことがある」は、いずれの年齢層でも女性の方が男性に比べて多くなっている。

表 26 性別・年齢別 「ウイングス京都」の利用状況

	毎週1回以上利用している	月に1～3回程度利用している	年に数回利用している	今まで何回か利用したことがある	知っているが利用したことはない	知らなかった	無回答
男性(N=515)	0.2%	0.2%	0.6%	8.5%	31.8%	56.1%	2.5%
男性・20歳代(N=47)	0.0%	0.0%	2.1%	8.5%	29.8%	59.6%	0.0%
男性・30歳代(N=69)	0.0%	0.0%	0.0%	11.6%	36.2%	52.2%	0.0%
男性・40歳代(N=87)	0.0%	0.0%	0.0%	11.5%	23.0%	65.5%	0.0%
男性・50歳代(N=84)	1.2%	0.0%	2.4%	9.5%	25.0%	61.9%	0.0%
男性・60歳代(N=115)	0.0%	0.9%	0.0%	5.2%	36.5%	54.8%	2.6%
男性・70歳代以上(N=113)	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	37.2%	46.9%	8.8%
女性(N=745)	0.0%	0.7%	1.3%	17.7%	36.4%	41.2%	2.7%
女性・20歳代(N=71)	0.0%	1.4%	1.4%	22.5%	26.8%	46.5%	1.4%
女性・30歳代(N=126)	0.0%	0.0%	0.8%	25.4%	39.7%	34.1%	0.0%
女性・40歳代(N=116)	0.0%	0.9%	1.7%	22.4%	40.5%	32.8%	1.7%
女性・50歳代(N=111)	0.0%	0.0%	1.8%	20.7%	36.9%	38.7%	1.8%
女性・60歳代(N=171)	0.0%	0.6%	1.2%	11.1%	41.5%	41.5%	4.1%
女性・70歳代以上(N=149)	0.0%	1.3%	1.3%	10.7%	28.2%	53.0%	5.4%

5-2 「ウイングス京都」の事業で充実してほしいもの

問27 「ウイングス京都」では、次のような事業を行っています。このうち、あなたが今後充実してほしいと思うものはどれですか。【3つまでに○】

- 1 男女共同参画について学ぶ「市民向け講座」
- 2 女性学や法律・労働講座をはじめとする「学習・研修」
- 3 図書、ビデオ、インターネットなどによる「情報提供」
- 4 職業訓練や職業情報の提供などの「就業支援」
- 5 男女共同参画に関する「調査・研究」
- 6 男女共同参画社会について考える「啓発情報誌の発行」
- 7 DV（ドメスティック・バイオレンス）はじめ女性の様々な悩みについての「相談」
- 8 自主的な活動や研究を行っている「市民グループに対する支援」
- 9 男性の家事能力を高める講座など「男性に対する啓発・研修」
- 10 「こころとからだの健康づくり」を進める運動実技やセミナー
- 11 会議室、イベントホール、スポーツルームなどの「施設の貸出し」
- 12 他の女性センターなど「関係機関との連携・ネットワーク」
- 13 その他（具体的に： _____）
- 14 特にない
- 15 わからない

「職業訓練や職業情報の提供などの『就業支援』」が最も多く、次いで「『こころとからだの健康づくり』を進める運動実技やセミナー」となっている

「ウイングス京都」の事業で充実してほしいものをみると、「職業訓練や職業情報の提供などの『就業支援』」が28.6%と最も多く、次いで「『こころとからだの健康づくり』を進める運動実技やセミナー」（20.3%）となっている。

性別でみても、男女共に「職業訓練や職業情報の提供などの『就業支援』」が最も多い。また、「『こころとからだの健康づくり』を進める運動実技やセミナー」については、女性(23.6%)が、男性(15.5%)を8.1ポイント上回っている。

前回と比較しても大きな変化は見られない。

図 27-1 性別 「ウイングス京都」の事業で充実してほしいもの

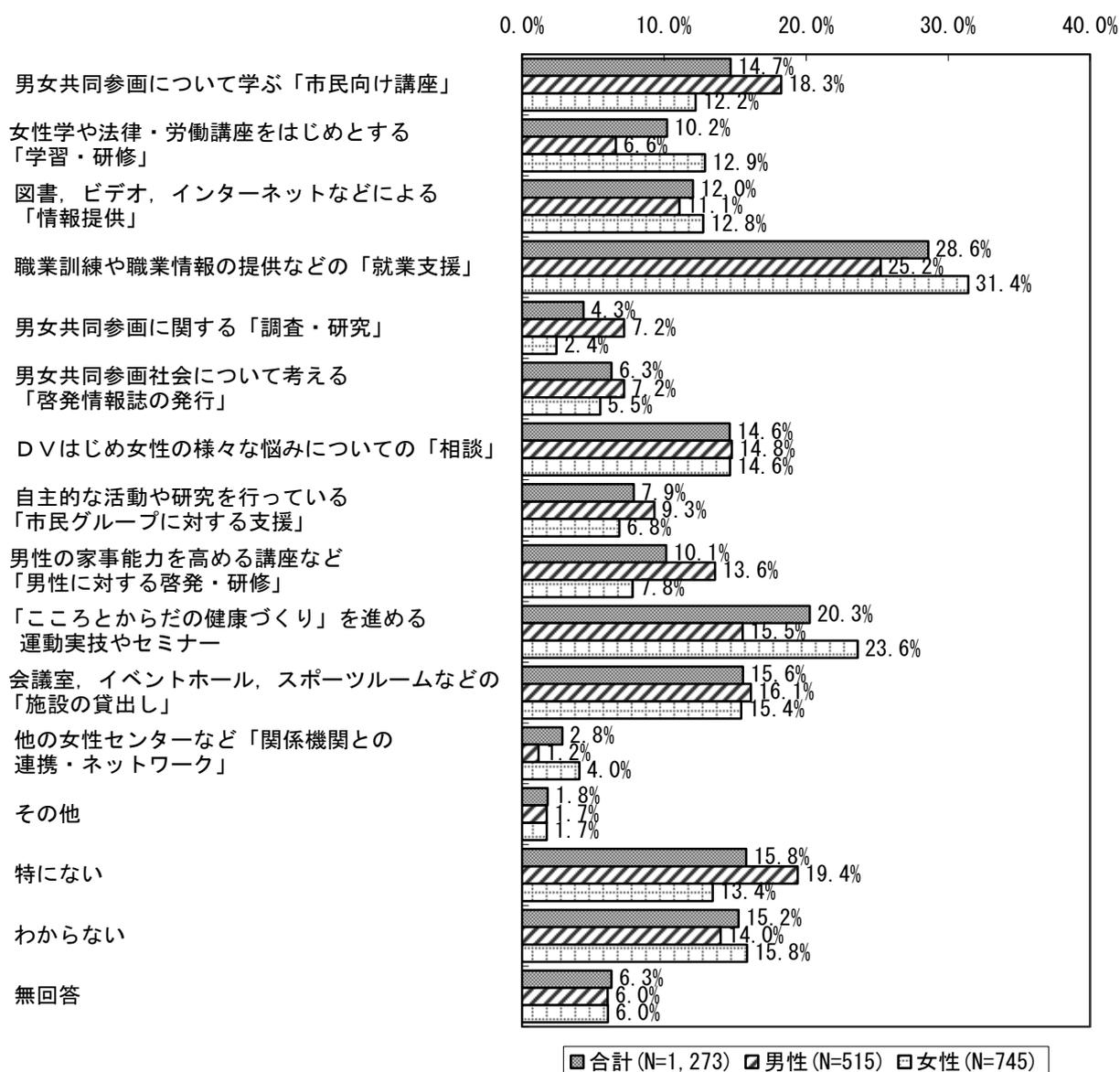
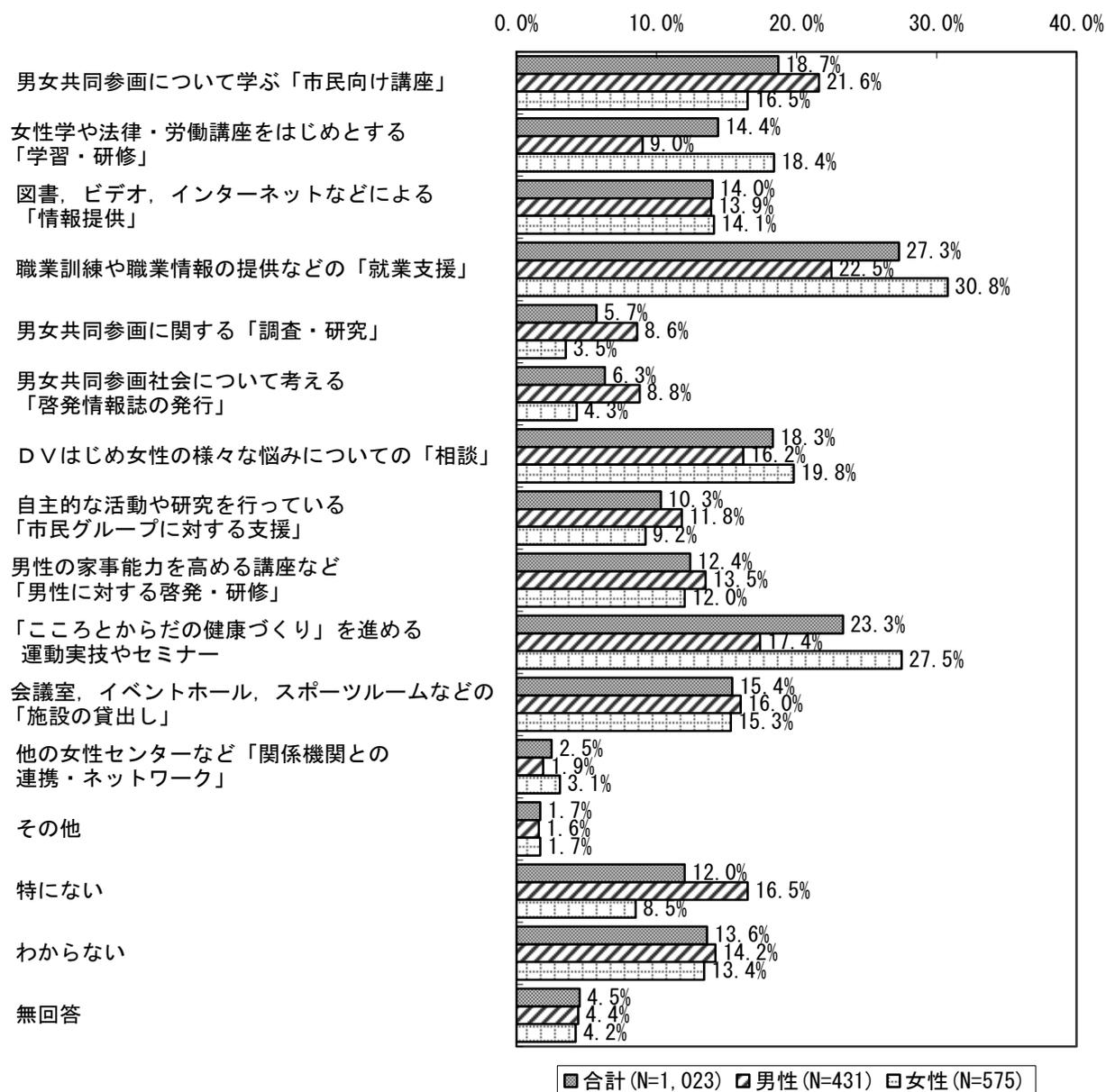
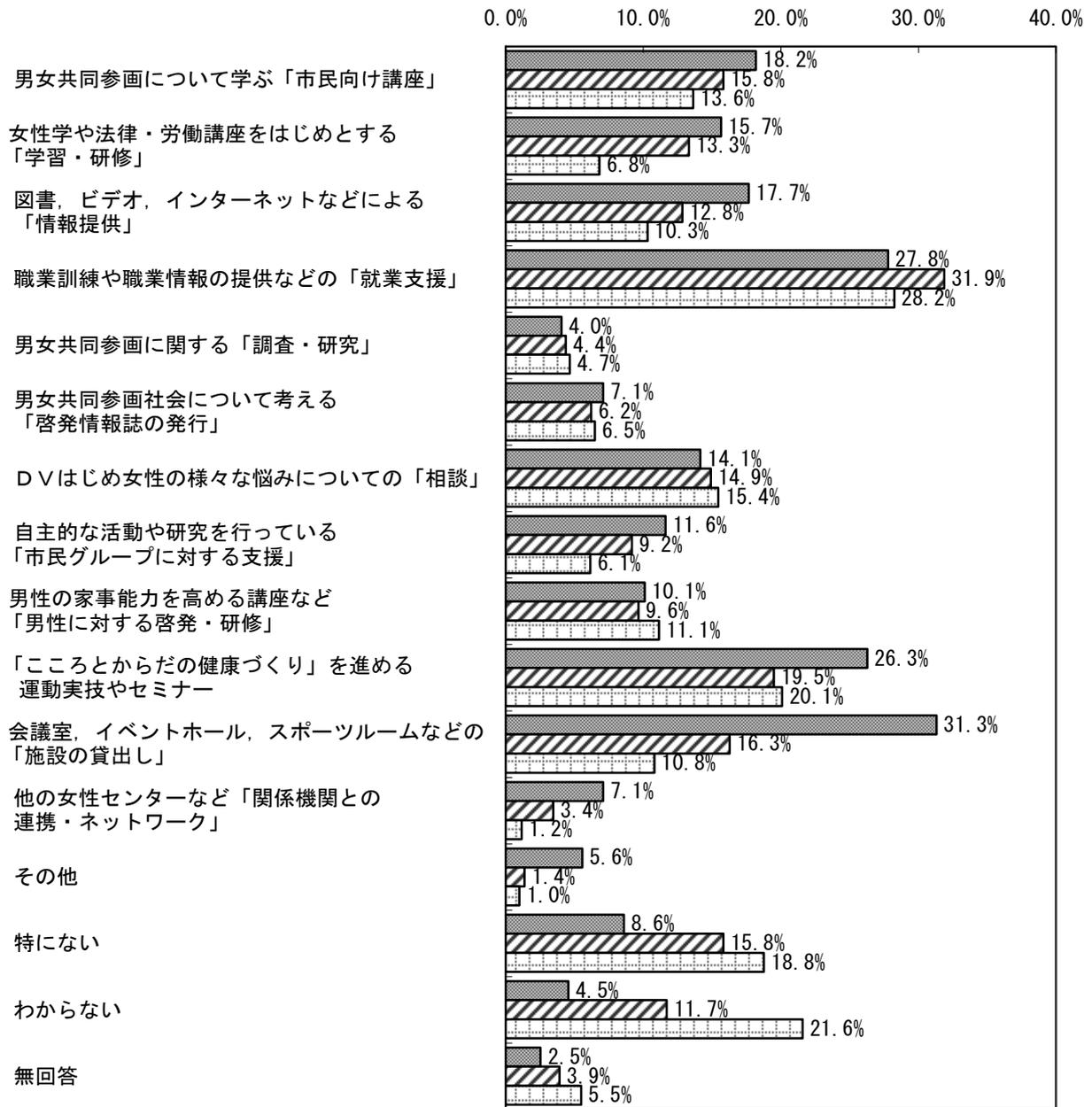


図 27-2 性別 「ウイングス京都」の事業で充実してほしいもの【前回調査】



「ウイングス京都」の利用状況別でみると、利用経験者の要望が他に比べて特に高いのは「会議室、イベントホール、スポーツルームなどの『施設の貸出し』」, 「『こころとからだの健康づくり』を進める運動実技やセミナー」などとなっている。

図 27-3 利用状況別 「ウイングス京都」の事業で充実してほしいもの



■ 利用した (N=198) ■ 知っている (N=436) □ 知らない (N=602)

性別・年齢別に「ウイングス京都」の事業で充実してほしいものをみると、男女とも70歳代以上を除く各年代で「職業訓練や職業情報の提供などの『就業支援』」が多い。

表 27-1 性別・年齢別 「ウイングス京都」の事業で充実してほしいもの

	男女共同 参画につ いて学ぶ 「市民向 け講座」	女性学や 法律・労 働講座と はじめと する「学 習・研 修」	図書、ビ デオ、イ ンターネ ットによ る「情報 提供」	職業訓練 や職業情 報の提供 などの「就 業支援」	男女共同 参画に 関する「研 究」	男女共同 参画に 関する「啓 発情報 誌の発行」	DVはじめ 女性な い様 々な 悩み につ いての 「相談」	自主的な 活動や研 究を行 う「市民 グループ に対する 支援」
男性(N=515)	18.3%	6.6%	11.1%	25.2%	7.2%	7.2%	14.8%	9.3%
男性・20歳代(N=47)	10.6%	6.4%	14.9%	36.2%	10.6%	2.1%	25.5%	8.5%
男性・30歳代(N=69)	20.3%	11.6%	17.4%	40.6%	7.2%	4.3%	33.3%	8.7%
男性・40歳代(N=87)	10.3%	9.2%	20.7%	29.9%	4.6%	4.6%	17.2%	11.5%
男性・50歳代(N=84)	25.0%	8.3%	10.7%	22.6%	10.7%	14.3%	14.3%	4.8%
男性・60歳代(N=115)	20.9%	1.7%	6.1%	27.8%	7.0%	8.7%	9.6%	15.7%
男性・70歳代以上(N=113)	18.6%	5.3%	3.5%	7.1%	5.3%	6.2%	2.7%	5.3%
女性(N=745)	12.2%	12.9%	12.8%	31.4%	2.4%	5.5%	14.6%	6.8%
女性・20歳代(N=71)	7.0%	4.2%	21.1%	36.6%	4.2%	1.4%	26.8%	7.0%
女性・30歳代(N=126)	7.9%	19.0%	25.4%	41.3%	1.6%	1.6%	20.6%	5.6%
女性・40歳代(N=116)	10.3%	25.9%	16.4%	53.4%	5.2%	6.9%	21.6%	6.9%
女性・50歳代(N=111)	14.4%	10.8%	12.6%	43.2%	1.8%	11.7%	18.0%	7.2%
女性・60歳代(N=171)	14.6%	9.4%	5.3%	21.6%	1.2%	6.4%	4.7%	8.8%
女性・70歳代以上(N=149)	15.4%	7.4%	4.0%	6.0%	2.0%	4.0%	7.4%	5.4%
	男性の家 事能力を 高める講 座など 「男性に 対する啓 発・研 修」	「こころ とからだ の健康 づくり」 を進め る実践 セミナー	会議室、 イベント ホール、 スポーツ ルームな どの「貸 出し」	他の女性 センター など「関 係機関と の連携・ ネット ワーク」	その他	特にな い	わから ない	
男性(N=515)	13.6%	15.5%	16.1%	1.2%	1.7%	19.4%	14.0%	
男性・20歳代(N=47)	17.0%	10.6%	31.9%	2.1%	2.1%	14.9%	8.5%	
男性・30歳代(N=69)	18.8%	11.6%	15.9%	1.4%	1.4%	13.0%	8.7%	
男性・40歳代(N=87)	11.5%	16.1%	27.6%	2.3%	3.4%	16.1%	9.2%	
男性・50歳代(N=84)	11.9%	19.0%	19.0%	1.2%	0.0%	17.9%	15.5%	
男性・60歳代(N=115)	16.5%	20.9%	8.7%	0.9%	1.7%	18.3%	13.0%	
男性・70歳代以上(N=113)	8.8%	11.5%	6.2%	0.0%	1.8%	30.1%	23.0%	
女性(N=745)	7.8%	23.6%	15.4%	4.0%	1.7%	13.4%	15.8%	
女性・20歳代(N=71)	11.3%	18.3%	26.8%	5.6%	1.4%	12.7%	11.3%	
女性・30歳代(N=126)	9.5%	22.2%	16.7%	7.1%	2.4%	4.8%	12.7%	
女性・40歳代(N=116)	3.4%	16.4%	23.3%	6.0%	1.7%	7.8%	7.8%	
女性・50歳代(N=111)	8.1%	31.5%	15.3%	3.6%	0.9%	10.8%	10.8%	
女性・60歳代(N=171)	10.5%	27.5%	14.0%	1.2%	2.3%	19.9%	18.7%	
女性・70歳代以上(N=149)	4.7%	22.8%	4.7%	2.7%	1.3%	19.5%	27.5%	

性別・職業別に「ウイングス京都」の事業で充実してほしいものをみると、男女ともいずれの職業においても「職業訓練や職業情報の提供などの『就業支援』」が多い。

表 27-2 性別・職業別 「ウイングス京都」の事業で充実してほしいもの

	男女共同 参画につ いて学ぶ 「市民向 け講座」	女性学や 法律・労 働講座を はじめと する「学 習・研 修」	図書、ビ デオ、イ ンター ネットに よる「情 報提供」	職業訓練 や職業情 報の提供 などの「就 業支援」	男女共同 参画に関 する「調 査・研 究」	男女共同 参画につ いて考 える「啓 発情報 誌の発行」	DVはじめ 女性の悩 みについ ての「相 談」	自主的な 活動や研 究を行っ ている 「市民グ ループに 対する支 援」
男性(N=515)	18.3%	6.6%	11.1%	25.2%	7.2%	7.2%	14.8%	9.3%
男性・自営・自由業(N=94)	18.1%	5.3%	12.8%	25.5%	10.6%	7.4%	16.0%	11.7%
男性・家族従事者(N=7)	14.3%	14.3%	14.3%	28.6%	0.0%	14.3%	28.6%	14.3%
男性・正規従業員(N=191)	19.9%	7.9%	16.8%	29.3%	8.4%	7.3%	17.8%	8.4%
男性・非正規従業員(N=49)	16.3%	6.1%	2.0%	30.6%	6.1%	12.2%	12.2%	10.2%
男性・無職・学生等(N=150)	16.7%	6.0%	6.7%	20.0%	5.3%	5.3%	10.7%	8.0%
女性(N=745)	12.2%	12.9%	12.8%	31.4%	2.4%	5.5%	14.6%	6.8%
女性・自営・自由業(N=50)	6.0%	12.0%	6.0%	24.0%	0.0%	4.0%	14.0%	8.0%
女性・家族従事者(N=16)	18.8%	6.3%	6.3%	31.3%	6.3%	12.5%	18.8%	6.3%
女性・正規従業員(N=123)	8.9%	19.5%	19.5%	39.0%	3.3%	4.9%	22.0%	9.8%
女性・非正規従業員(N=180)	12.2%	11.7%	13.9%	42.8%	2.8%	8.3%	15.6%	6.1%
女性・無職・学生等(N=333)	13.8%	12.3%	11.1%	25.5%	2.4%	4.5%	12.0%	5.4%
	男性の家 事能力を 高める講 座など 「男性に 対する啓 発・研 修」	「こころ とからだ の健康づ くり」を 進める 運動実 技やセ ミナー	会議室、 イベント ホール、 スポーツ ルームな どの「施 設の貸 出し」	他の女性 センター など「関 係機関と の連携・ ネット ワーク」	その他	特にな い	わか らな い	
男性(N=515)	13.6%	15.5%	16.1%	1.2%	1.7%	19.4%	14.0%	
男性・自営・自由業(N=94)	10.6%	12.8%	19.1%	0.0%	2.1%	24.5%	10.6%	
男性・家族従事者(N=7)	14.3%	28.6%	14.3%	0.0%	0.0%	28.6%	0.0%	
男性・正規従業員(N=191)	14.7%	16.8%	20.9%	2.1%	1.0%	15.2%	11.5%	
男性・非正規従業員(N=49)	20.4%	14.3%	12.2%	2.0%	0.0%	16.3%	12.2%	
男性・無職・学生等(N=150)	14.0%	15.3%	9.3%	0.7%	3.3%	20.7%	18.7%	
女性(N=745)	7.8%	23.6%	15.4%	4.0%	1.7%	13.4%	15.8%	
女性・自営・自由業(N=50)	12.0%	20.0%	24.0%	8.0%	4.0%	16.0%	14.0%	
女性・家族従事者(N=16)	0.0%	6.3%	12.5%	6.3%	0.0%	25.0%	6.3%	
女性・正規従業員(N=123)	9.8%	21.1%	20.3%	3.3%	1.6%	5.7%	10.6%	
女性・非正規従業員(N=180)	7.8%	25.0%	16.7%	3.3%	1.7%	10.0%	13.9%	
女性・無職・学生等(N=333)	7.2%	25.5%	13.5%	4.5%	1.8%	16.8%	18.6%	

5-3 京都市の取り組むべき施策

問28 あなたは、「男女共同参画社会」の実現に向けて、京都市は今後どのようなことに力をいれて取り組むべきだと思いますか。【3つまでに○】

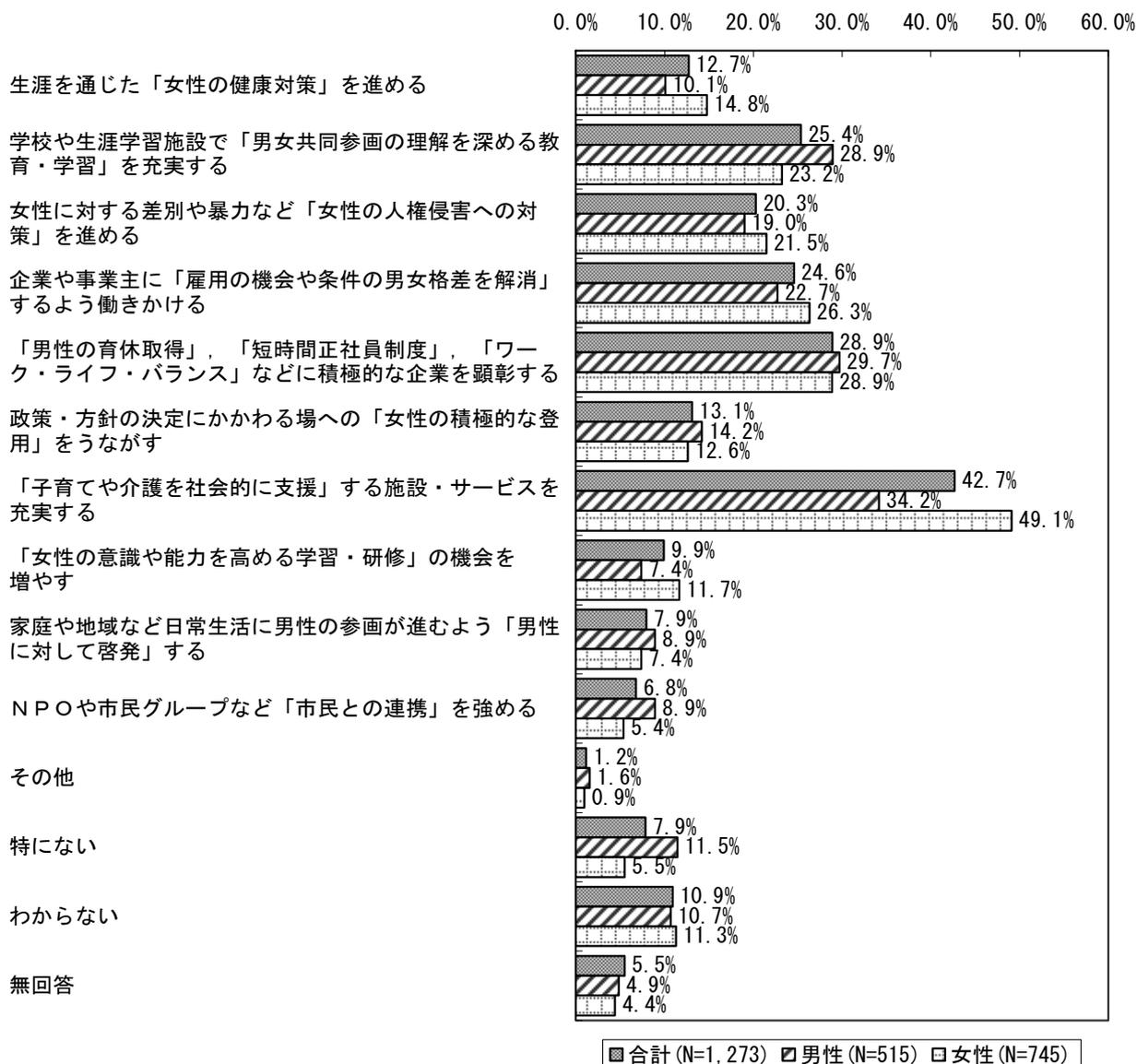
- 1 生涯を通じた「女性の健康対策」を進める
- 2 学校や生涯学習施設で「男女共同参画の理解を深める教育・学習」を充実する
- 3 女性に対する差別や暴力など「女性の人権侵害への対策」を進める
- 4 企業や事業主に「雇用の機会や条件の男女格差を解消」するよう働きかける
- 5 「男性の育休取得」、「短時間正社員制度」、「ワーク・ライフ・バランス」などに積極的な企業を顕彰する
- 6 政策・方針の決定にかかわる場への「女性の積極的な登用」をうながす
- 7 「子育てや介護を社会的に支援」する施設・サービスを充実する
- 8 「女性の意識や能力を高める学習・研修」の機会を増やす
- 9 家庭や地域など日常生活に男性の参画が進むよう「男性に対して啓発」する
- 10 NPO（民間非営利団体）や市民グループなど「市民との連携」を強める
- 11 その他（具体的に： _____)
- 12 特にない
- 13 わからない

「『子育てや介護を社会的に支援』する施設・サービスを充実する」が最も多く、次いで「『男性の育休取得』、『短時間正社員制度』、『ワーク・ライフ・バランス』などに積極的な企業を顕彰する」となっている

京都市の取り組むべき施策をみると、「『子育てや介護を社会的に支援』する施設・サービスを充実する」が42.7%と最も多く、次いで「『男性の育休取得』、『短時間正社員制度』、『ワーク・ライフ・バランス』などに積極的な企業を顕彰する」(28.9%)、「学校や生涯学習施設で『男女共同参画の理解を深める教育・学習』を充実する」(25.4%)となっている。

性別でみると、「『子育てや介護を社会的に支援』する施設・サービスを充実する」は女性で49.1%と、男性(34.2%)を14.9ポイント上回っている。

図 28 性別 京都市の取り組むべき施策



性別・年齢別に京都市の取り組むべき施策をみると、男性の20歳代～50歳代では『男性の育休取得』、『短時間正社員制度』、『ワーク・ライフ・バランス』などに積極的な企業を顕彰するが最も多く、女性ではいずれの年齢層でも『子育てや介護を社会的に支援』する施設・サービスを充実するが最も多くなっている。

表 28-1 性別・年齢別 京都市の取り組むべき施策

	生涯を通じた「女性の健康対策」を進める	学校や生涯学習で「女性の健康」を深める	女性に対する暴力などの被害を減らす	企業主や事業者への働きかけ	「男性の育休取得」 「短時間正社員制度」 「ワーク・ライフ・バランス」などの積極的な企業を顕彰する	政策・方針の決定にかかわる場への「女性の積極的な登用」を図る	「子育てや介護を社会的に支援」する施設・サービスを充実する
男性(N=515)	10.1%	28.9%	19.0%	22.7%	29.7%	14.2%	34.2%
男性・20歳代(N=47)	2.1%	25.5%	29.8%	27.7%	46.8%	17.0%	38.3%
男性・30歳代(N=69)	10.1%	27.5%	30.4%	21.7%	47.8%	17.4%	34.8%
男性・40歳代(N=87)	12.6%	25.3%	16.1%	20.7%	37.9%	13.8%	35.6%
男性・50歳代(N=84)	10.7%	32.1%	15.5%	21.4%	32.1%	9.5%	31.0%
男性・60歳代(N=115)	7.8%	35.7%	20.0%	27.8%	17.4%	14.8%	34.8%
男性・70歳代以上(N=113)	13.3%	24.8%	11.5%	18.6%	15.9%	14.2%	32.7%
女性(N=745)	14.8%	23.2%	21.5%	26.3%	28.9%	12.6%	49.1%
女性・20歳代(N=71)	7.0%	21.1%	21.1%	38.0%	42.3%	9.9%	52.1%
女性・30歳代(N=126)	11.9%	23.8%	24.6%	26.2%	46.8%	10.3%	62.7%
女性・40歳代(N=116)	11.2%	23.3%	24.1%	31.0%	41.4%	16.4%	54.3%
女性・50歳代(N=111)	14.4%	25.2%	25.2%	30.6%	25.2%	12.6%	52.3%
女性・60歳代(N=171)	17.5%	23.4%	14.0%	25.1%	20.5%	12.3%	48.5%
女性・70歳代以上(N=149)	20.1%	22.1%	22.8%	15.4%	10.1%	12.8%	30.9%
	「女性の意識や能力を高める学習・研修」の機会を増やす	家庭や地域など日常生活に男性の参加が進むよう「男性性」を啓発する	NPOや市民グループなど「市民との連携」を強める	その他	特になし	わからない	
男性(N=515)	7.4%	8.9%	8.9%	1.6%	11.5%	10.7%	
男性・20歳代(N=47)	4.3%	6.4%	4.3%	0.0%	6.4%	6.4%	
男性・30歳代(N=69)	4.3%	13.0%	5.8%	4.3%	8.7%	5.8%	
男性・40歳代(N=87)	5.7%	4.6%	9.2%	3.4%	8.0%	11.5%	
男性・50歳代(N=84)	9.5%	11.9%	8.3%	1.2%	7.1%	14.3%	
男性・60歳代(N=115)	7.0%	8.7%	8.7%	0.0%	14.8%	7.0%	
男性・70歳代以上(N=113)	10.6%	8.8%	13.3%	0.9%	17.7%	15.9%	
女性(N=745)	11.7%	7.4%	5.4%	0.9%	5.5%	11.3%	
女性・20歳代(N=71)	8.5%	9.9%	8.5%	1.4%	2.8%	8.5%	
女性・30歳代(N=126)	14.3%	6.3%	3.2%	2.4%	1.6%	3.2%	
女性・40歳代(N=116)	10.3%	11.2%	3.4%	0.9%	2.6%	6.0%	
女性・50歳代(N=111)	9.9%	6.3%	2.7%	0.0%	8.1%	8.1%	
女性・60歳代(N=171)	7.0%	7.0%	8.8%	0.6%	6.4%	14.6%	
女性・70歳代以上(N=149)	18.1%	5.4%	5.4%	0.7%	9.4%	22.1%	

性別・職業別に京都市の取り組むべき施策をみると、男性の正規従業員を除くと、男女共に「『子育てや介護を社会的に支援』する施設・サービスを充実する」という回答をした人が最も多い。また、男性の正規従業員では「『男性の育休取得』、『短時間正社員制度』、『ワーク・ライフ・バランス』などに積極的な企業を顕彰する」という回答をした人が最も多くなっている。

表 28-2 性別・職業別 京都市の取り組むべき施策

	生涯を通じた「女性の健康対策」を進める	学校や生涯学習施設で「男女共同参画の理解を深める」を教育・実践する	性暴力被害者に対する「男女共同参画の理解を深める」を教育・実践する	企業や事業主「雇用機会均等法」の活用を促す	「男性の育休取得」・「短時間正社員制度」・「ワーク・ライフ・バランス」などに積極的な企業を顕彰する	政策・方針の決定にかかわる場への「女性の積極的な登用」を図る	「子育てや介護を社会的に支援」する施設・サービスを充実する
男性 (N=515)	10.1%	28.9%	19.0%	22.7%	29.7%	14.2%	34.2%
男性・自営・自由業 (N=94)	9.6%	26.6%	24.5%	17.0%	21.3%	17.0%	33.0%
男性・家族従事者 (N=7)	0.0%	28.6%	42.9%	14.3%	42.9%	14.3%	57.1%
男性・正規従業員 (N=191)	10.5%	29.3%	22.0%	23.6%	41.4%	12.0%	35.6%
男性・非正規従業員 (N=49)	8.2%	26.5%	10.2%	34.7%	20.4%	20.4%	38.8%
男性・無職・学生等 (N=150)	10.7%	29.3%	16.0%	22.7%	22.0%	14.7%	30.0%
女性 (N=745)	14.8%	23.2%	21.5%	26.3%	28.9%	12.6%	49.1%
女性・自営・自由業 (N=50)	20.0%	18.0%	22.0%	16.0%	28.0%	22.0%	50.0%
女性・家族従事者 (N=16)	6.3%	25.0%	25.0%	12.5%	6.3%	6.3%	50.0%
女性・正規従業員 (N=123)	9.8%	26.8%	17.9%	30.9%	41.5%	13.8%	61.0%
女性・非正規従業員 (N=180)	14.4%	22.2%	23.9%	30.6%	36.7%	8.9%	48.3%
女性・無職・学生等 (N=333)	16.8%	24.6%	22.8%	25.8%	22.8%	12.9%	47.4%
	「女性の意識や能力を高める学習・研修」の機会を増やす	家庭や地域など日常生活に「男性の参画が進むよう「男性性」を啓発する	NPOや市民グループなど「市民との連携」を強める	その他	特になし	わからない	
男性 (N=515)	7.4%	8.9%	8.9%	1.6%	11.5%	10.7%	
男性・自営・自由業 (N=94)	11.7%	9.6%	8.5%	0.0%	11.7%	11.7%	
男性・家族従事者 (N=7)	14.3%	0.0%	28.6%	14.3%	14.3%	0.0%	
男性・正規従業員 (N=191)	5.8%	8.9%	6.8%	1.6%	8.4%	8.9%	
男性・非正規従業員 (N=49)	8.2%	12.2%	10.2%	2.0%	14.3%	2.0%	
男性・無職・学生等 (N=150)	7.3%	7.3%	11.3%	2.0%	13.3%	14.7%	
女性 (N=745)	11.7%	7.4%	5.4%	0.9%	5.5%	11.3%	
女性・自営・自由業 (N=50)	12.0%	10.0%	10.0%	0.0%	6.0%	8.0%	
女性・家族従事者 (N=16)	12.5%	6.3%	6.3%	6.3%	12.5%	12.5%	
女性・正規従業員 (N=123)	10.6%	6.5%	7.3%	1.6%	3.3%	4.1%	
女性・非正規従業員 (N=180)	8.3%	11.7%	2.8%	1.1%	5.0%	8.3%	
女性・無職・学生等 (N=333)	12.9%	5.7%	5.4%	0.6%	5.1%	15.3%	

VI 自由記載意見

※ 回答者から寄せられた意見・要望のうち「男女平等」や「男女共同参画」に関する部分を抜粋又は要約したものを掲載しています。

1 男女平等・男女共同参画について	
<p>社会人になって感じたことだが、一流企業は男女平等に扱われ、能力のある社員は昇進できると思うが、中小企業はやはり男女差別があるように思う。</p>	(女性, 20 歳代, 正社員・正職員)
<p>男女平等に考えるのは大切と思うが、それは女性が男性と同じ条件で仕事に就いたから達成させられるといった単純なものではないと思う。男性は女性の良さが発揮できるようサポートし(耳を傾け)、女性は男性の良さ(身体的強さ、また女性の中で男性がいると場がまとまる)などを見つけて、お互いに協力していこうとする気持ちが必要になってくると思う。</p>	(女性, 20 歳代, 専業主婦・専業主夫)
<p>男女平等と言うが、性差により役割や特徴は違う。男女の違いを尊重し受け入れた上での男女平等に期待している。</p>	(男性, 20 歳代, 正社員・正職員)
<p>男女平等などの問題は、夫婦間の話し合いや家族で時間を共に過ごすことが解決の糸口になる最も簡単な方法の一つだと思う。</p>	(男性, 30 歳代, 正社員・正職員)
<p>すでに男女平等だと思うので、女性の権利や女性の地位向上をメインにした政策を行わないでほしい。女性だけでなく、男性の地位の向上、権利も合わせて考えていただいて、同数の窓口が開かれることを望む。</p>	(男性, 30 歳代, 家族従事者)
<p>男女平等という言葉にこだわるのではなく、個々の能力や特性に注目し、それを活かしていくことこそが大切であると思う。</p>	(女性, 30 歳代, その他)
<p>一口に男女と言っても年代による考え方の差は非常に大きいものがあると思う。今までの考え方にとらわれずに「その人」を見てほしい。</p>	(女性, 40 歳代, 自由業)
<p>男女共同参画の考え方については、それぞれの家庭によってすごく違いがあるので、すべてを平等にするということは難しいと思う。</p>	(女性, 40 歳代, 専業主婦・専業主夫)
<p>実社会ではどうしても男性の方が収入を得やすい構造になっていると感じる。女性の意識の問題もあると思うが、少しずつ女性の自立心が強くなってきているようでもあり、男女平等は今後促進されると思う。</p> <p>一方、出産は女性のみにはできないなど、男女間の違いがなくなることはないのも事実である。男女平等を追求しすぎると少子化などの別の問題が顕在化してくると思う。</p>	(男性, 40 歳代, 会社・団体役員)

生まれ持った体格や性別が異なる男女において、平等さを追求していくことは大変複雑で難しいことだと思う。一般的に男性的あるいは女性的と言われている側面を人の個性として受け取れるよう、今以上に社会に浸透すればよいと感じる。

(女性, 50 歳代, パート・アルバイト・契約社員)

祭り, 伝統文化に男女差別があるという考えがあるが, おかしいと思う。祭りには男女それぞれの役割と仕事があって成り立っている。事情もわからないまま差別と考えてしまうのは変である。

(女性, 50 歳代, パート・アルバイト・契約社員)

私は男性なので, 女性が何が平等でないと感じているか意識しているが, よく理解できていない。今回のアンケート調査の結果を広く一般に情報提供してほしい。

(男性, 50 歳代, 自営業主)

男が家事をやり, 女が生活費を稼ぐ。別にそれでも良いと思う。ただし, しっかりと子育てし, ちゃんとしつけができればよいのだが…。

(女性, 60 歳代, その他の無職)

男女平等と言っても基本は男が精一杯仕事をし, 女が家庭を助け守るということだよと思う。しかし, 時と場合によって逆転することも良いことだと思う。

家事を「無職」という言い方はいつも気になる。家事もしっかりした大切な仕事だと思うので, 無職という言い方はしたくない。

(女性, 60 歳代, 専業主婦・専業主夫)

他都市に住んでいたころ, 家庭内の悩みがあり苦しんだことがあるが, 他人には相談しにくく悩み相談窓口のようところが知りたかった。京都市ではウイングス京都が運営されていることを, このアンケートで知った。

(女性, 70 歳代, 専業主婦・専業主夫)

2 学校教育について

小学校低学年の時から男女平等の教育を行い続け、子どもが大人になり、自分の子どもが産まれた時に、自然と教えることができるよう教育を受ける機会を増やしていくことが大切だと思う。

(女性, 20 歳代, その他の無職)

ことさらに男女平等を唱えるよりも、男性女性それぞれにしかできないことについて、しっかりと教育を行うことが必要であると思う。少子化を憂うよりも、親としての自覚や責任を身につけることができるような学校教育、家庭環境の構築が必要であると感じる。

(男性, 40 歳代, その他の無職)

男性の意識もまだまだ低いし、女性自身も自分の身体のことについて、子どもの間からもっと知識を持っていただきたい。若年層における望まない妊娠、出産も増加しており、男女とも自分を大切にすることができるような教育が必要ではないか。

(女性, 40 歳代, 正社員・正職員)

3 結婚・子育て・少子化対策について

少子化対策にはやはり、出産費用補助の充実や産婦人科を減少させないための対策、育児休暇の社会理解などが必要になってくると思う。

女性が社会に進出する機会が増えているが、共働きをしないと家族を養っていけないというのが現実だと思う。

(女性, 20 歳代, 正社員・正職員)

一番気がかりなのは養育費である。子どもをたくさん産もうと思っても、産んだ後の養育費や習い事、子どもの将来のために費やすお金を考えると2人が限度かと思う。

(女性, 20 歳代, 正社員・正職員)

女性が結婚し、家庭を持ち、子どもを産んでも責任ある仕事ができる制度を用意し広めてほしい。そういうビジネスを発起してもいいと思う。京都は女性が働きやすい。子どもを育てやすいまちであり良いと思う。

(女性, 30 歳代, 正社員・正職員)

子育て真っ最中の主婦は全くと言っていいほど検診を受ける機会がないのではないかと。費用面だけでなく、受診している間の未就園児の世話はどうするのか。親がいなければ主人に当日会社を休んでもらうことになる。託児所やファミリーサポート事業を利用すれば費用がかかる。私の考えでは当然受診できないと思っている。

(女性, 30 歳代, 専業主婦・専業主夫)

少子化だから子どもを産めというのではなく、安心して産み育てることができることが大事なのではないか。そんな京都だったら、他府県からも引っ越しして来られる方が増えると思う。これからの京都に期待している。

(女性, 40 歳代, パート・アルバイト・契約社員)

父子家庭には母子家庭以上に負担になることが大きい。父子家庭に必要なのは社会的・精神的フォローである。

(男性, 40 歳代, 自由業)

男性と同じ仕事をしつつ、家庭を持ち、子どもを作る際には、女性はみな壁に直面すると思う。その壁を少しでも低くするような努力をしていただければ、もっと結婚したい、子どもを産みたい、仕事をしたい女性が増えてくると思う。

(女性, 50 歳代, 自由業)

子どもが0歳～6歳までは母親が働きに行かずに育児するほうが、子どもの将来のためにも良いと思う。そのためには男性の収入だけで家族の生活が安定することができればと思う。

(女性, 50 歳代, パート・アルバイト・契約社員)

少子化問題が言われて久しいが、社会全体で子どもを見守り、育てていこうという雰囲気にはとてもなっていないと思う。

(女性 50 歳代家族従事者)

4 介護・高齢化対策について

介護もやはり女性への負担が大きい。もっと社会的に支援してほしい。

(女性, 40 歳代, 正社員・正職員)

介護の世界に働いている人を多く知っているが、報酬が低く、結婚もできないと嘆いている。老人介護等大変な仕事であるし、必要としているが、もう少し働く人の環境を良くしてほしい。

(女性, 60 歳代, 自由業)

介護にも男女の若い力が必要だと思う。介護の職場が生き甲斐のある職場であってほしいと思う。

(女性, 70 歳代, 専業主婦・専業主夫)

5 セクシュアル・ハラスメントについて

ニュースや職場で男性がセクハラやパワハラの被害者となっているケースを見たことがある。女性だけが被害者ではない。

(男性, 20 歳代, その他の無職)

6 ドメスティック・バイオレンス(DV)について

最近では女性がDV被害者になるだけでなく逆の場合になることも時折あると言われているが、まだまだ女性が被害者になることが主な世の中である。DVを受けた女性は社会復帰も人間関係もなかなかすぐには戻れない。以前に比べるとDV被害者に対する支援や法律は増えているが、被害を受けた後のケアや支援はまだまだ少ないと思う。

(女性, 30歳代, その他の無職)

家庭間では個々のバランスが一番で、市や他人がどうこう語るのは良くないと思うが、DV等は別であり、相談には応じるべきである。

(男性, 40歳代, 家族従事者)

7 情報提供・PRについて

施策について、もっと情報をいろいろな媒体（TVや新聞）で流して多くの人々に知ってもらうようにしたほうがよいと思う。

（女性, 20 歳代, 正社員・正職員）

育児中の女性への情報提供は、子どもの検診などで行くことがある保健所を利用してもっと活発にやってほしい。出産後社会とのつながりが途切れてしまうことや、働く勇気が持てなくなることを防げたらと思う。

（女性, 30 歳代, パート・アルバイト・契約社員）

市がどんな取組を進めているのか、市民が簡単に知ることができる状況があればよいと思った。

（女性, 30 歳代, パート・アルバイト・契約社員）

啓発の研修や情報に耳を傾けるのは「意識のある人」である。「意識の無い人」に対する方策が必要かと考える。

（女性, 40 歳代, 正社員・正職員）

広報、啓発活動を活発にすべきである。市役所の職員のみが知っており、市民、区民は置き去りにされている感がある。本件アンケートで初めて男女共同参画の内容をぼんやりと理解できた。

（男性, 60 歳代, その他）

お互い（男女）の尊重、協力し合うための情報などについて、市民しんぶんやチラシを人目に付くところに配り、訴え続けていくことが大切ではないか。

（女性, 60 歳代, 専業主婦・専業主夫）

各区役所等に男女共同参画に関する情報コーナーを作り、区役所を利用した際にいつでも目にして情報の共有ができるように努力していただきたいと思う。

（男性, 70 歳代, その他の無職）

男女共同参画社会基本法や京都市男女共同参画推進条例について、もっと高齢者に理解しやすいように周知していただきたいと思う。

（女性, 70 歳代, その他の無職）

8 社会全般について

子育て支援や介護援助の施策について、もっと詳しく、わかりやすくして情報を公開してほしい。

(女性, 30 歳代, 正社員・正職員)

真面目に働いていても報われない社会であり、「男女平等」以前の問題があるのではないか。

(女性, 60 歳代, その他の無職)

産婦人科の医師をもっと優遇しないといけない。

(男性, 70 歳代, その他の無職)

9 仕事・職場全般について

企業に対しての指導等が必要である。例えば、地域限定職や事務員は募集要項には書かれなくても、採用されるのは女性がほとんどである。男性から応募があっても採用されないことが多い。反対に、営業職以外の総合職は男性がほとんどである。男性の育児休暇取得の推進や、事務総合職の女性雇用の推進等が必要である。

(女性, 20 歳代, 正社員・正職員)

就職活動中に感じたが、男性が育休制度を取得すれば、職場から離れることになり、昇進や昇級に影響をもたらすのではないかと思った。実際企業でも取得者がほとんどいないのが現状であり、男女が仕事と家事を両立できる理想的な社会になることは非常に難しいのではないかと思う。まず京都から男女平等で共に充実した生活が実現できる企業を創り、地域産業の活性化につなげてほしい。

(男性, 20 歳代, 学生)

子育ての終わった主婦が社会に復帰できるような制度を作してほしい。

(女性, 20 歳代, 正社員・正職員)

子どもが幼稚園に行けるようになり時間ができても、働く条件が絞られて、働く気と働く時間はあるのに仕事ができない。短時間正社員制度が広まることを期待している。やはり主婦でも世間から認められたい、自立したいと思う。

(女性, 20 歳代, 正社員・正職員)

発熱等の理由で保育園が子どもを預かるのを拒んだ場合に、子どもを預かってくれるような施設がないと仕事を続けられない。

実際に職場では子どもがいる女性社員は頻りに会社を休み、その人の分の仕事が周囲の独身社員（男女とも）に振られる。近年の景気の悪化に伴い、会社も残業代を払えないため、サービス残業でその人のやり残した仕事も周囲の独身社員が負っている。自分が子どもを産めば、同じように他人に迷惑を掛けることがわかっているので、私は子どもを産みたくないと思っている。景気回復、保育システムの向上に力を入れることが男女共同参画社会を実現するために最も必要なことであり、市政にお願いしたいところである。

(女性, 20 歳代, 正社員・正職員)

男性が仕事をする上で会社とのつながりを過剰に重視せざるを得ない環境を意識、制度、価値観から変え、選択肢の一つとして育児への参加や家庭での時間を増やすことを選びやすい世の中にしてほしい。

(女性, 30 歳代, 正社員・正職員)

女性の社会進出を求めるのであれば、保育所などの施設を充実するとともに、男性の子育てへの意欲をかき立てる対策として、企業が「男性の残業を減らす」というような目標を掲げ実行することが必要と思う。

(女性, 30 歳代, 会社・団体役員)

女性は結婚、出産でライフスタイルが大きく変化する。その中で自分は母親だから自分が頑張るのが当たり前と思っても無理が生じる。夫の協力を求めたくても夫も仕事が激務であり難しい。

(女性, 30 歳代, パート・アルバイト・契約社員)

夫からすれば、仕事で手一杯なので家事や育児に参加する時間はなく、私からすれば協力者がいないため仕事に就くことができない。経営者側はワークシェアリングや男性への参画を進めるように考え方を変えていく必要があると思う。

(女性, 30 歳代, 専業主婦・専業主夫)

男性が家事や仕事を休みづらい社会になっている。

(男性, 30 歳代, 正社員・正職員)

<p>年齢や性別に関わらず、働きたい人が自分の能力や希望に沿った仕事ができる環境を作っていけるように「男女平等」「男女共同参画」を広めていってほしいと思う。</p> <p style="text-align: right;">(女性, 40 歳代, 専業主婦・専業主夫)</p>
<p>子育てしながら働き続けるには、まだまだ条件が良くないと思う。子どもが小さい時(せめて就学までぐらい)は、労働時間の短縮や、子どもの病気の時は休めるといった制度に加えて、そういったことを社会全体が意識しなければならないと思う。</p> <p style="text-align: right;">(女性, 40 歳代, 正社員・正職員)</p>
<p>男性だから、女性だからという考え方ではなく、1人の人間として評価をしない限り、女性が持っている才能も能力も、引き出すことも躍進させることも無理だと思う。</p> <p style="text-align: right;">(女性, 40 歳代, 正社員・正職員)</p>
<p>女性の意識の変化に比べ、男性や社会はなかなか変化していかないように感じる。家事、育児の負担が減らない限り、今の社会で女性が正社員として働くのは不可能だと思う。理想論ではなく、現実を見て細かな対策を行ってほしい。</p> <p style="text-align: right;">(女性, 40 歳代, パート・アルバイト・契約社員)</p>
<p>保育施設の充実や本人の産休・育休の支援、男性の育児休業の強制的な取得への指導、さらに、児童手当などの経済的支援などにより仕事と子育てが両立する社会を目指すべきだと思う。</p> <p style="text-align: right;">(男性, 60 歳代, その他の無職)</p>
<p>男性の働き方にもう少しゆとりを持たせて、子育てに参加するのが当たり前になればよい。</p> <p style="text-align: right;">(女性, 60 歳代, 自由業)</p>
<p>育児制度の充実など出産後も働きやすい世の中になってきていると感じる。</p> <p>しかし、その分、結婚していない人に仕事のしわ寄せがきているのも事実である。ワーク・ライフ・バランスを考えるのは男性だけではなく、働き盛りの年代になっている女性も必要だと感じる。</p> <p style="text-align: right;">(男性, 70 歳代, その他の無職)</p>
<p>能力のある女性は社会が認め、重要な社会的役割を果たしてほしい。一方、能力のない女性が「男女平等」「女性の登用」を理由に重要な職責を与えられるべきではない。男女ともに能力に応じ平等に評価されることが重要であると思う。</p> <p style="text-align: right;">(男性, 70 歳代, その他の無職)</p>

10 地域との関わりについて

働いている方は男女平等に理解がある。専業主婦の方は女性のみのネットワークの中で過ごしているように思う。

また、働いている男性が地域活動に参加しているのをほとんど見ない。

(女性, 30 歳代, 正社員・正職員)

工作上、女性は男性同様またはそれ以上頑張ることを求められる(時間的にも)。

地域やPTA等の活動は母親が主に担うことになり、そこでも頑張ることを求められる。

専業主婦のように家事に専念できるのは余裕があるからで、働く女性は仕事、家事、育児、地域、PTAのことなど、すべての役を求められている。

(女性, 40 歳代, 無回答)

町内の人々のおかげで私は安心して働くことができた。1人では子育てはできない。子育ては周りの人々に助けられて、やっとできる。

以前のように人情あふれる町が増えるとよい。

(女性, 60 歳代, その他の無職)

使用した調査票

秘

男女共同参画に関するアンケート

2009年(平成21年)5月

御記入に当たってのお願い

- 1 あて名の御本人が回答してください。
- 2 記入が終わりましたら、この調査票を同封の返信用封筒(切手不要)に入れて、**6月15日(月)までに**投函してください。
- 3 この調査票は無記名方式で、回答の結果はコンピュータで集計処理しますので、個人が特定されることはいっさいありません。また、御回答いただいた内容をこの調査以外で使用することはありません。
- 4 年齢など御本人に関する回答は、この調査票の記入日現在の状況でお書きください。
- 5 問1から順に、各質問ごとに用意してある答え(選択肢)の中から、該当する番号に○をつけてください。○をつける数は、「1つ」、「3つまで」、「あてはまるものすべて」など質問によって異なりますので、その質問の指示にしたがってください。
- 6 質問によっては回答していただく方が限られている場合があります。その場合は、指定された次の質問に進んでください。
- 7 この調査についてのお問い合わせは、男女共同参画推進課までお願いします。
京都市 文化市民局 共同参画社会推進部 男女共同参画推進課
〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地
TEL 222-3091(直通)
FAX 222-3223

京都市

I 男女共同参画に関わる社会の動きについて、おうかがいします

問1 あなたは、男女共同参画※1を推進していくことに賛成ですか、反対ですか。
【1つに○】

- | | | |
|--------------|--------------|---------|
| 1 賛成 | 3 どちらかといえば反対 | 5 わからない |
| 2 どちらかといえば賛成 | 4 反対 | |

※1 男女共同参画社会……男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を負うべき社会のことで、京都市ではその実現に向けて取り組んでいます。

問2 あなたは、次のそれぞれの分野について、男女は平等になっていると思いますか。
【それぞれ1つに○】

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない
(1) 学校教育では	1	2	3	4	5	6
(2) 雇用の機会(募集・採用)では	1	2	3	4	5	6
(3) 賃金や昇進では	1	2	3	4	5	6
(4) 家庭生活では	1	2	3	4	5	6
(5) 地域活動では	1	2	3	4	5	6
(6) 社会の慣習やしきたりでは	1	2	3	4	5	6
(7) 法律や制度のうえでは	1	2	3	4	5	6
(8) 政治・経済活動への参加では	1	2	3	4	5	6

問3 あなたは、「男は仕事、女は家事・育児」という考え方についてどう思いますか。【1つに○】

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 賛成 | 3 どちらかといえば反対 |
| 2 どちらかといえば賛成 | 4 反対 |

問4 あなたは、子どもにどのような能力を身につけさせたいと思いますか。「男子」、「女子」それぞれの場合について、あてはまる番号に○をつけてください。子どもがいない方も、一般的な考えをお答えください。【それぞれ3つまでに○】

(*ここでいう「子ども」は、18歳未満を対象としています。)

	礼儀作法	家事能力	職業能力	リーダーシップ	協調性	実行力	たくましさ	やさしさ	国際感覚	おもいやり	自立心	忍耐力	男女平等意識	その他の	わからない
男子	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
女子	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15

問5 次のうち、あなたが「女性の人権が尊重されていない」ことだと思うものはどれですか。【あてはまるものすべてに○】

- 1 買春・売春、援助交際
- 2 風俗産業
- 3 ストーカー(つきまとい)行為
- 4 痴漢行為や強制わいせつ等の性犯罪
- 5 夫婦や恋人等のパートナー間での暴力(ドメスティック・バイオレンス)
- 6 職場におけるセクシュアル・ハラスメント
- 7 募集・採用や昇進・昇給における性別による差別的な取扱い
- 8 女性のスードや水着姿の写真を掲載又は使用した雑誌や広告
- 9 インターネット上のアダルト向けホームページ
- 10 女性の容ぼうを競うミス・コンテスト
- 11 「女流○○」、「○○女史」のように女性にだけ用いられる言葉
- 12 伝統行事や文化の中で女性を受け入れないものがあること
- 13 その他(具体的に:)
- 14 特にない
- 15 わからない

問6 議員や審議会委員などに占める女性の割合は、全国的に、依然として低いのが現状です。あなたは、今後、こうした政策・方針を決定する場に男女が平等に参画していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。【3つまでに○】

- 1 男女の意見を等しく政策・方針に反映していくことの大切さを広く啓発する
- 2 審議会などの女性委員の目標比率を設定し、それを達成する
- 3 家庭・地域・職場など日常的な場での男性優位の意識や差態を解消する
- 4 家事や子育てなど家庭内での責任を男女がバランスよく分かちあう
- 5 女性の学習・研修・能力開発の機会を充実させる
- 6 男性が男女共同参画について学ぶ講座等の学習機会を充実させる
- 7 女性の活動を支援するネットワークづくりを促進する
- 8 女性自らが政策・方針を決定する場に参画することに関心や積極性を持つ
- 9 その他(具体的に:)
- 10 特別な取組は必要ない
- 11 わからない

問7 あなたは、次の名称や言葉について御存知ですか。【それぞれ1つに○】

	内容をよく知っている	少しは内容を知っている	法律の名前を聞いたことがある	知らない
(1) 男女共同参画社会基本法※2 (1999年)	1	2	3	4
(2) 京都市男女共同参画推進条例※3 (2003年)	1	2	3	4
(3) 男女雇用機会均等法※4 (1999年改正)	1	2	3	4
(4) 労働基準法※5 (1999年改正)	1	2	3	4
(5) 育児・介護休業法※6 (2005年改正)	1	2	3	4

※2～6の用語解説は、最後のページに掲載しています。

問8 あなたが「男女共同参画社会」に期待することは何ですか。【3つまでに○】

- 1 家庭生活において男女がともに家事や子育てに参加できる
- 2 男女がともに参加することで地域活動が活発になる
- 3 男女が支え合うことで高齢者を安心して過ごせる
- 4 自分の希望や能力に合った仕事をする事ができる
- 5 職場において賃金や待遇面での男女格差がなくなる
- 6 地域のお祭りや伝統文化、宗教上の儀式などに、男女の区別なく参加できる
- 7 性別にとらわれず子どもが個性豊かに育つ
- 8 男女がそれぞれの役割を果たし合う
- 9 何も希望することはない
- 10 わからない
- 11 その他（具体的に： _____ ）

II あなたの家庭生活や地域活動について、おうかがいします

問9 あなたのご家庭では、次のことがらは主にどなたが担当・決定されていますか。
【それぞれ1つに○】

※ 配偶者について あなたの夫または妻、あるいはそれに相当する人を含めるものとします。	自分	配偶者	その他の家族（親や子など）	自分と配偶者が同じくらい	自分とその他の家族（親や子など）が同じくらい	該当なし・必要なし
※ ひとり暮らしの場合 ひとり暮らしをしていて、自分ですべて行っている場合は「自分」としてください。						
※ 食事はすべて外食という場合、賃貸の住宅に住んでいる場合、現在子ども、要介護者がいない場合など「該当なし・必要なし」としてください。						
▼食事						
(1) 食事の仕度（料理）	1	2	3	4	5	6
(2) 食事のあとかたづけ（食器洗い）	1	2	3	4	5	6
▼家庭の管理と運営						
(1) 食料品や日用品の買い物	1	2	3	4	5	6
(2) そうじ	1	2	3	4	5	6
(3) 洗濯	1	2	3	4	5	6
(4) ごみ出し	1	2	3	4	5	6
(5) 高額な家財道具の購入	1	2	3	4	5	6
(6) 住宅の購入	1	2	3	4	5	6
(7) 預貯金等の資産の運用	1	2	3	4	5	6
▼子どもと介護の必要な高齢者・障害者						
(1) 育児（乳幼児の世話）	1	2	3	4	5	6
(2) 子どもの日常的なしつけ	1	2	3	4	5	6
(3) 子どもとの遊び	1	2	3	4	5	6
(4) 子どもへの教育方針（進学など）	1	2	3	4	5	6
(5) 高齢者・障害者の実際の介護	1	2	3	4	5	6

問10 問9でお答えいただいたことがらのうち、特に、あなたにとって負担であり、家族の協力や手助けが必要と感じているものはどれですか。【3つまでに○】

1 食事の仕度（料理）	7 育児（乳幼児の世話）
2 食事のあとかたづけ（食器洗い）	8 子どもの日常的なしつけ
3 食料品や日用品の買物	9 子どもとの遊び
4 そうじ	10 高齢者・障害者の実際の介護
5 洗濯	11 特に必要ない
6 ごみ出し	12 やっていないのでわからない

問11 あなたは、ここ5～6年の間に、地域でどのような活動に参加しましたか。また、今後参加してみたい活動は何ですか。【それぞれ1つに○】
参加したことがない・今後も特に参加したくない場合は、その理由に近しいものは何ですか。【それぞれについて、3つまでに○】

	参加の有無			不参加の理由									
	参加したことがある・現在参加している	参加したことがない・今後参加したい	参加したことがない・今後も特に参加したくない	仕事忙しいから	家事・育児・介護で忙しいから	健康状態がおもわしくないから	人間関係がわずらわしいから	男性の意見と女性の意見が平等に扱われないから	活動の情報が得られないから	参加するきっかけがないから	自分以外の家族が参加しておろり必要がないから	あまり関心がないから	その他（具体的に）
(1) 自治会・町内会の活動	1	2	3	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
(2) PTAや子どもの会の活動	1	2	3	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

問12 あなたが参加した「自治会や町内会の活動」では、次のようなことがありましたか。【それぞれ1つに○】

	あ	な	わ
	る	い	から ない
(1) 行事やイベントの企画は主に男性が決定している	1	2	3
(2) 代表者は男性から選ばれる	1	2	3
(3) 女性は責任のある役を引き受けたがらない	1	2	3
(4) お茶入れや食事の準備などは女性がしている	1	2	3
(5) 女性は発言しにくい雰囲気がある	1	2	3
(6) 名簿上は男性が会員になっているが実際は女性（配偶者）が活動している	1	2	3
(7) 男性は仕事で欠席が許されるが、女性が仕事で欠席することを否定する雰囲気がある	1	2	3

問13 あなたは、自治会や町内会以外でどのような活動に参加したことがありますか。また、今後参加してみたい活動は何ですか。【それぞれ1つに○】

	参加したことがある・現在参加している	参加したことがない・今後は参加したい	参加したことがない・今後参加したくない
(1) 地域における趣味・スポーツ・学習の活動	1	2	3
(2) NPO（非営利団体）やボランティアの活動	1	2	3
(3) 民生委員・市政協力委員など公的な立場での活動	1	2	3

問14 あなたは、今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくには、どのようなことが必要だと思いますか。【3つまでに○】

- 1 男性が家事などに参加することに對する男性自身の抵抗感をなくす
- 2 男性が家事などに参加することに對する女性の抵抗感をなくす
- 3 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担についての当事者の考え方を尊重する
- 4 社会の中で、男性が家事などに参加することに對する評価を高める
- 5 講習会や研修等を行い、男性の家事、育児、介護の技能を高める
- 6 男性の仕事中心の生き方、考え方を改める
- 7 男性が家事などに對する関心を高めるよう啓発や情報提供を行う
- 8 男性が子育て、介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）づくりを進める
- 9 わからない
- 10 その他（具体的に：）

問15 あなたは妊娠や出産、不妊、避妊、更年期、性感染症など女性の健康と権利について、女性が理解し合うためには、どのようなことが大切だと思いますか。【3つまでに○】

- 1 配偶者やパートナーとの話し合い
- 2 親子間での話し合い
- 3 学校における性教育や、女性の健康管理と権利に関する教育
- 4 性や健康についての相談窓口
- 5 講座の開催などによる学習機会の提供
- 6 パンフレットなどによる情報提供
- 7 わからない
- 8 その他（具体的に：）

問16 健康で豊かな生活を送るためには、一人一人が自分の健康を管理していくことが重要です。あなたは、健康診断を定期的に受診されていますか。【1つに○】

- 1 毎年受診している
- 2 2～3年に1回受診している
- 3 4～5年に1回受診している
- 4 受診したことはある（約 年前）
- 5 受診したことがない

Ⅲ あなたの職場環境について、おうかがいします

問17 現在のあなたの職業はどれにあたりますか。【1つに○】

自営・自由業の方	お勤めの方	無職・学生の方
1 農林漁業者	5 会社・団体役員	11 専業主婦・専業主夫（収入を得る仕事をしていない方）
2 商業・工業・サービス業などの自営業主	6 正社員・正職員	12 学生（専門学校生、大学生など）
3 自由業（開業医、芸術家、宗教家、弁護士など）	7 パート・アルバイト・契約社員	13 その他の無職（年金生活者、失業中の方など）
4 上記1～3の家族従事者	8 派遣社員	
	9 内職・在宅就業	
	10 その他（具体的に：）	

問18へ

問22へ

《問17で1～10を選ばれた方におうかがいします。》

問18 (1) あなたは平均すると、週に何日働いていますか。（1日1時間でも働いていれば、1日と数えてお答えください。【1つに○】

1 1日	4 4日	7 7日
2 2日	5 5日	
3 3日	6 6日	

(2) あなたは平均すると、週に何時間ぐらい働いていますか。（残業時間は含みませんが、休憩時間は除きます。【1つに○】

1 10時間未満	5 40時間以上50時間未満
2 10時間以上20時間未満	6 50時間以上60時間未満
3 20時間以上30時間未満	7 60時間以上
4 30時間以上40時間未満	

問19 あなたの職場では、賃金や昇進制度といった待遇に男女間の不当な差があると感じますか。
【あてはまるものすべてに○】

- 1 男女間に不当な差はない
- 2 募集・採用時の差別がある
- 3 女性には責任のある仕事をまかされないなど、配置上の差別がある
- 4 残業は男性がするという雰囲気がある
- 5 男性と女性が同じ教育・訓練を受けられない
- 6 同じ仕事でも男女で賃金が異なる
- 7 同等の実力・実績があっても男女で昇進・昇格時期が異なる
- 8 女性は結婚・出産を機に退職するという雰囲気がある
- 9 (気に入らないという理由で解雇されるなど) 女性の雇用が安定していない
- 10 男性は育児休業・介護休業が取りづらい
- 11 その他 (具体的に：)

問20(1) あなたは、セクシュアル・ハラスメントを受けたことや見聞きしたことがありますか。
【1つに○】

- 1 受けたことがある
- 2 見聞きしたことがある
- 3 受けたことも見聞きしたこともある
- 4 受けたことも見聞きしたこともない
- 5 わからない

(2)へ
問26へ

(2) あなたが受けた見聞きしたりしたことは、どのような内容ですか。
【あてはまるものすべてに○】

- 1 性的な内容の話(雑談)をする
- 2 性的な内容の電話やメールをする
- 3 スリーサイズなど身体的特徴を話題にする
- 4 性的な経験、性生活に関することについて質問する
- 5 性的な噂を流す
- 6 スーツや水着姿の写真が人目につくところに貼ってある
- 7 じろじろと身体を見られた
- 8 不必要に身体を触られた
- 9 食事やデザートにしつこく誘う
- 10 宴席でお酌やアテエントを強要
- 11 立場を利用して性的関係をせまられた
- 12 「男のくせに」「女のくせに」などの性差別的な発言
- 13 女性だけにお茶くみや掃除、私用を強要
- 14 男性だけに力仕事を強要
- 15 「男の子」「女の子」「おじさん」「おばさん」などと人格を認めないような発言
- 16 その他 (具体的に：)

問21 問20のセクシュアル・ハラスメントを受けた時、あなたはどのようにしましたか。(見聞きした場合、受けた当事者がどうされたかをお答えください。)(あてはまるものすべてに○)

- 1 泣き寝入りした
- 2 抗議したが改善されなかった
- 3 抗議して逆に不利益を受けた
- 4 抗議して事態が改善した
- 5 京都労働局などに相談した
- 6 法的手段に訴えた
- 7 その他 (具体的に：)

次は、問26へお進みください。

問17で11～13を選ばれた方におうかがいします。

問22 あなたは、今後、収入を得る仕事につきたいと思いませんか。【1つに○】

- 1 ぜひ、仕事につきたいと思う
- 2 できれば、仕事につきたいと思う
- 3 仕事につきたいと思わない
- 4 わからない

問23へ

問25へ

《問22で1～2を選ばれた方におうかがいします。》

問23(1) あなたは、今後、仕事につくとしたら、どのような働き方を希望しますか。【1つに○】

- 1 正社員・正職員として働きたい
- 2 パート・アルバイト・契約社員として働きたい
- 3 派遣社員として働きたい
- 4 内職や在宅就業の仕事をしたい
- 5 自営・自由業をしたい
- 6 その他(具体的に：)
- 7 わからない

(2) (1) で選択した働き方を希望する理由は何ですか。【1つに○】

- 1 生計を維持するため
- 2 家計の足しにするため
- 3 自分の小遣いを得るため
- 4 老後などの将来の蓄えにするため
- 5 家業を手伝う(継ぐ)ため
- 6 家事、子育て、介護の負担が大きいため
- 7 残業のない仕事で働きたいから
- 8 その他(具体的に：)

問24 あなたは、仕事につくうえで困りのこと、又は、今後働きたいと思ったときに気になることはありますか。【あてはまるものすべてに○】

- 1 給料・賞金が自分の希望と合うかどうか
- 2 勤務時間や雇用形態が自分の希望と合うかどうか
- 3 自分の資格、能力、適性にあった仕事の募集・採用があるかどうか
- 4 求人募集での年齢や資格の制限に合うかどうか
- 5 自分の能力や体力、健康状態
- 6 仕事を始めるための資金が不足していること
- 7 就職に関する情報が得にくいこと
- 8 募集や採用において雇用の機会が男女均等でないこと
- 9 介護や看護の必要な家族がいること
- 10 仕事をやるに当たって家族の理解や協力が得られるかどうか
- 11 保育所や学童保育を利用できるかどうか
- 12 その他(具体的に：)
- 13 特に気がかりなことはない

次は、問26へお進みください。

《問22で3～4を選ばれた方におうかがいします。》

問25 あなたが、仕事につきたいと思わない理由は何ですか。【3つまでに○】

- 1 家事や育児、介護に専念したいから
- 2 地域活動に力を入れたいから
- 3 趣味に力を入れたいから
- 4 経済的に働く必要がないから
- 5 就学中だから
- 6 自分が働くことを家族が望まないから
- 7 気力、体力に自信がないから
- 8 高齢だから
- 9 自分の知識や技能が十分でないから
- 10 その他(具体的に：)

IV 京都市の取組について、おうかがいします

問26 京都市では、男女共同参画を推進していく中核施設として、男女共同参画センター「ウィングス京都」(中京区東洞院六角下る)を運営しています。
あなたは、これまで「ウィングス京都」を利用したことがありますか。【1つに○】

- 1 毎週1回以上利用している
- 2 月に1～3回程度利用している
- 3 年に数回利用している
- 4 今まで何回か利用したことがある
- 5 知っているが利用したことはない
- 6 知らなかった

問27 「ウィングス京都」では、次のような事業を行っています。このうち、あなたが今後充実してほしいと思うものはどれですか。【3つまでに○】

- 1 男女共同参画について学ぶ「市民向け講座」
- 2 女性学や法律・労働講座をはじめとする「学習・研修」
- 3 図書、ビデオ、インターネットなどによる「情報提供」
- 4 職業訓練や職業情報の提供などの「就業支援」
- 5 男女共同参画に関する「調査・研究」
- 6 男女共同参画社会について考える「啓発情報誌の発行」
- 7 DV(ドメスティック・バイオレンス)はじめ女性の様々な悩みについての「相談」
- 8 自立的な活動や研究を行っている「市民グループに対する支援」
- 9 男性の家事能力を高める講座など「男性に対する啓発・研修」
- 10 「こことからの健康づくり」を進める運動実技やセミナー
- 11 会議室、イベントホール、スポーツルームなどの「施設の貸出し」
- 12 他の女性センターなど「関係機関との連携・ネットワーク」
- 13 その他(具体的に：)
- 14 特にない
- 15 わからない

14

問28 あなたは、「男女共同参画社会」の実現に向けて、京都市は今後どのようなことに力をいれて取り組むべきだと思いますか。【3つまでに○】

- 1 生涯を通じた「女性の健康対策」を進める
- 2 学校や生涯学習施設で「男女共同参画の理解を深める教育・学習」を充実する
- 3 女性に対する差別や暴力など「女性の人権侵害への対策」を進める
- 4 企業や事業主に「雇用の機会や条件の男女格差を解消」するよう働きかける
- 5 「男性の育休取得」、「短時間正社員制度」、「ワーク・ライフ・バランス」などに積極的な企業を顕彰する
- 6 政策・方針の決定にかかわる場への「女性の積極的な登用」をうながす
- 7 「子育てや介護を社会的に支援」する施設・サービスを充実する
- 8 「女性の意識や能力を高める学習・研修」の機会を増やす
- 9 家庭や地域など日常生活に男性の参画が進むよう「男性に対して啓発」する
- 10 NPO(民間非営利団体)や市民グループなど「市民との連携」を強める
- 11 その他(具体的に：)
- 12 特にない
- 13 わからない

15

京都市男女共同参画に関するアンケート

結果報告書

発行年月 平成22年3月

京都市文化市民局共同参画社会推進部男女共同参画推進課

〒604 - 8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町 488 番地

TEL 075-222-3091 FAX 075-222-3223

URL http://www.city.kyoto.lg.jp/bunshi/soshiki/6-1-2-0-0_1.html

京都市印刷物 第213177号

